

西粟倉村総合振興計画等策定に関するアンケート 結果報告書

1. 実施内容

(1). 調査目的

- ・ 現行計画の政策評価、村民の生活行動等の実態を知り、村民目線の村でのライフビジョンを描くための資料とする。

(2). 調査対象

- ・ 15 歳以上の全村民を対象とする。

(3). 調査方法および配布・回収方法

- ・ 世帯へ世帯人員分を同封して、郵送を行った。
- ・ なお、回収にあたっては、郵送での回収または WEB での回答とした。

(4). 調査期間

令和 2 年 8 月 7 日～令和 2 年 9 月 11 日

(5). 配布・回収率

- ・ 1,250 名分を配布し、回収数は 389 名、回収率は 31%であった。

配布	1,250
郵送回収	335
WEB 回収	54
回収合計	389
回収率	31%

(6). その他

- ・ 集計では、小数点第2位を四捨五入しており、数値の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 図表中の N とは、回答者総数(または該当設問での該当者数)を表しています。また、無回答を含みます。

2. 調査結果まとめ(アンケート全体)

● この1年間、村内であなたがしたことについて

村民が「したこと」は、「野菜や料理のおすそ分け」及び「家族以外の75歳以上の人との交流」は5割程度と多くなっています。一方、「女性の人権擁護や生活支援」や「野生の生き物やそのすみかの保護」は「しなかった」が8割程度となっています。

小中学生が「したこと」は、「地域の人へのあいさつ」が9割と最も多く、次いで「家族以外の下級生や幼児との交流」が8割、「西栗倉村以外の場所から村へ就職や移住して来た人との交流」が6割との順となっています。したがって、地域の人々との身近なコミュニケーションを図っている子どもが多いことが分かります。一方、「空き家や空き地の手入れ」、「観光客・訪問客の案内」においては「しなかった」が8割程度となっています。

● 地区活動への参加状況

村民では、「伝統芸能、祭事への参加・協力」や「地域の集会場、道路の維持管理等」で「参加」が5割を超えており、過去のアンケートより10%以上増加しています。一方、「共有地の山林管理」や「地域の除雪作業」では「参加せず」が4割程度と参加状況が低くなっています。

村出身者や関係人口では、地域活動に「参加したことがない」が66.8%で最も多く、「地域活動に定期的に参加している」のが7.1%にとどまっています。

小中学生では、地域の行事や祭りに「参加している」子どもは9割弱となっており、特に小学校6年生と中学校2年生の参加率が高いです。また、小学生の参加状況は過去のアンケートと比較すると20%以上も増加しています。

● 村の魅力

村民では、「新鮮な空気、きれいな水」が75.8%と最も多く、「豊かな森林」では57.6%と多くなっており、村の自然の豊かさを魅力に思う方が多いです。また、「鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ」が61.4%と多く、過去のアンケートと比較すると20%以上の増加が見られています。

村出身者や関係人口においても、「豊かな森林」(79.1%)が最も多く、「新鮮な空気、きれいな水」(76.8%)の順となり、7割を上回っており、村の自然環境に対する評価が高くなっています。次いで、「のんびりした時間」(52.1%)と村民よりも高い評価にあります。

小中学生においても、「新鮮な空気、きれいな水」や「豊かな森林」が8割以上と多く、次いで「のんびりした時間」と「安心して新鮮な米や野菜」が7割弱となっています。「鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ」を除く全項目において、村民及び村出身者・関係人口の評価よりも高くなっています。

● 将来の居住意向

村民では、「今後も村で暮らしたい」、「事業があり離れられない」と思う人が61.4%であり、「他市町村に移り住みたい」、「他市町村に引っ越す予定」と思う人が4.4%となっています。今後も村で暮らしたい方の理由は、家や土地、墓などの地縁的理由が多くなっています。一方、他市町村への移住を選択された方の理由は、「買い物などの日常生活が不便」と「病院や福祉施設が遠い」が4割を超えています。

小中学生では、「今後も村で暮らしたい」と思う子どもは2割で、「他市町村に移り住みたい」、「他市町村に引っ越す予定」と思う子どもも2割と同程度となっています。一方、「今はわからない」との回答は5割を超えています。今後も村で暮らした理由として、全ての子どもが「西栗倉村が好き」と回答し、また、「生活が快適」や「生まれ育った土地で過ごしたい」の回答が7割程度あり、多くなっています。一方、他市町村への移住を考えている子どもの理由には、「希望する進学先に西栗倉村では通えない」が57.1%と最も多く、次いで「買い物などの日常生活の不便」が50.0%となっています。

- 今後、村が力を入れていくべき内容と住み続けるために必要なことについて

村民では、村が力を入れていくべき内容と住み続けるために必要なことの両者とも「乗合バスの巡回など移動手段の充実」と「保健・医療施設や救急医療体制の充実」の割合が 3 割を超え、最も高くなっています。また、村が力を入れていくべき内容では、「自然環境の保全」や「公共交通の充実」を、村に住み続けるために必要なことでは「インターネットなど情報基盤の充実」を望む方が過去のアンケートと比較すると増えています。

村出身者や関係人口では、村が力を入れていくべき内容と住み続けるために必要なことの上位 3 項目が、「自然環境の保全」、「農地・山林の管理・保全」、「インターネットなど情報基盤の充実」となっており、村民と比較すると自然環境の保全や情報基盤の整備に関心が高いことが分かります。

- この 10 年間の取組について

村民では、「百年の森林構想の取り組み」の内容を知っている方が 44.2%と最も多く、聞いたことがあると合わせると 8 割を超えており、認知度が高くなっています。一方、「西栗倉村アプリ村民票」を知らない人が 51.4%と多い状況です。

村出身者や関係人口では、「西栗倉村アプリ村民票」の内容も知っている方が 50.2%と最も多く、村民とは対照的な結果になっています。特に 40 歳代、50 歳代の認知度は 6 割を上回っています。一方、「SDGs 未来都市の取り組み」を知らない方が 37.4%と最も高くなっています。

- キャッチコピーについての共感度

村民では、「共感している」が 47.6%と高くなっており、20 歳代では 78.2%で特に高くなっています。一方、「共感していない」が 13.8%、「分からない」が 28.3%となっています。

村出身者や関係人口では、「共感している」が 66.8%と高く、40 歳代で 85.4%と特に高くなっています。一方、「共感していない」が 11.8%、分からないが 15.6%となっています。

小中学生では、「気に入っている」(上記の「共感している」と同様の回答)は 56.5%であり、「気に入っていない」(上記の「共感していない」と同様の回答)が 6.4%となっています。また、「わからない」が 33.9%となっています。

- 西栗倉村に貢献したいと思うかについて

村民では、貢献したいと「思う」が 77.1%であり、「思わない」が 10.3%となっています。30 歳代では「思う」(88.0%)が、20 歳代では「思わない」(26.1%)が他の年齢と比べて高くなっています。

村出身者や関係人口では、貢献したいと「思う」が 81.5%であり、「思わない」が 12.8%となっています。村民と同様に、30 歳での「思う」の割合が他の年齢と比べても高くなっています。

小中学生では、役に立ちたい(貢献したいと同様の扱い)と「思う」が 72.6%であり、「思わない」が 25.8%となっています。また、中学 1 年生を除く全ての学年で「思う」が 8 割を超えています。

西粟倉村総合振興計画等策定に関するアンケート 結果報告書_第一弾

【村民用(高校生以上)アンケート】

3. 実施内容

(1). 調査目的

- ・ 現行計画の政策評価、村民の生活行動等の実態を知り、村民目線の村でのライフビジョンを描くための資料とする。

(2). 調査対象

- ・ 15 歳以上の全村民を対象とする。

(3). 調査方法および配布・回収方法

- ・ 世帯へ世帯人員分を同封して、郵送を行った。
- ・ なお、回収にあたっては、郵送での回収または WEB での回答とした。

(4). 調査期間

令和 2 年 8 月 7 日～令和 2 年 9 月 11 日

(5). 配布・回収率

- ・ 1,250 名分を配布し、回収数は 389 名、回収率は 31%であった。

配布	1,250
郵送回収	335
WEB 回収	54
回収合計	389
回収率	31%

(6). その他

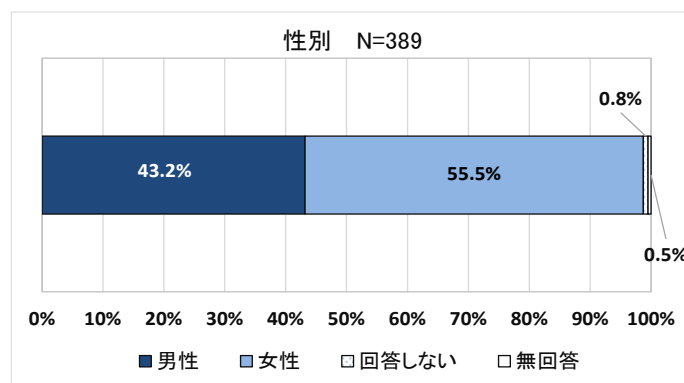
- ・ 集計では、小数点第2位を四捨五入しており、数値の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 図表中の N とは、回答者総数(または該当設問での該当者数)を表しています。また、無回答を含みます。
- ・ クロス集計結果では、各属性(年齢別、出身地別、居住地別)において、回答者総数を N とし、行の合計が 100%となるようにしています。ただし、複数回答の設問に関しては、行の合計が 100%を超える場合もあります。

4. 結果

問1 あなたご自身のことについて

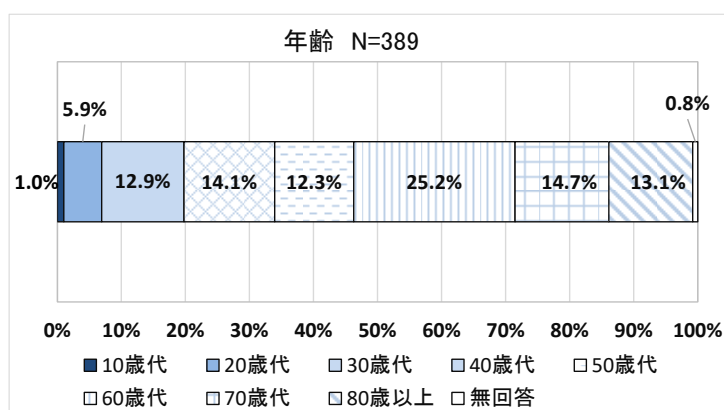
① あなたの性別をおしえてください(1つに○)。

	回答数	割合
男性	168	43.2%
女性	216	55.5%
その他	0	0.0%
回答しない	3	0.8%
無回答	2	0.5%
合計	389	100.0%



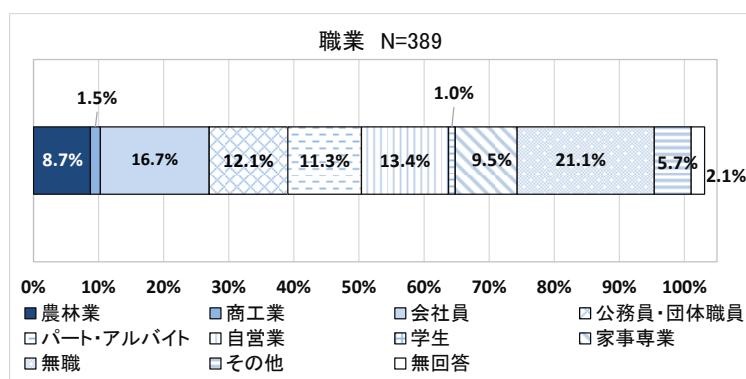
② あなたの年齢を教えてください(1つに○)。

	回答数	割合
10歳代	4	1.0%
20歳代	23	5.9%
30歳代	50	12.9%
40歳代	55	14.1%
50歳代	48	12.3%
60歳代	98	25.2%
70歳代	57	14.7%
80歳以上	51	13.1%
無回答	3	0.8%
合計	389	100.0%



③ あなたの職業を教えてください(すべてに○)。

	回答数	割合
農林業	34	8.7%
商工業	6	1.5%
会社員	65	16.7%
公務員・団体職員	47	12.1%
パート・アルバイト	44	11.3%
自営業	52	13.4%
学生	4	1.0%
家事専業	37	9.5%
無職	82	21.1%
その他	22	5.7%
無回答	8	2.1%
合計	401	103.1%

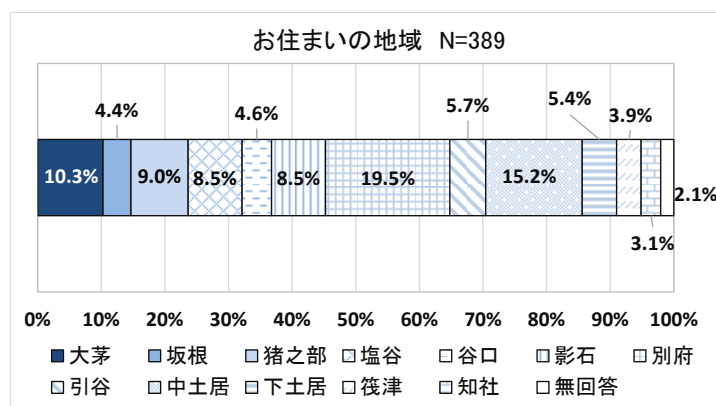


<その他の記述回答>

- ・地域おこし協力隊(3) ・警備業務
- ・介護職 ・保育補助 ・接客業 ・草刈り等

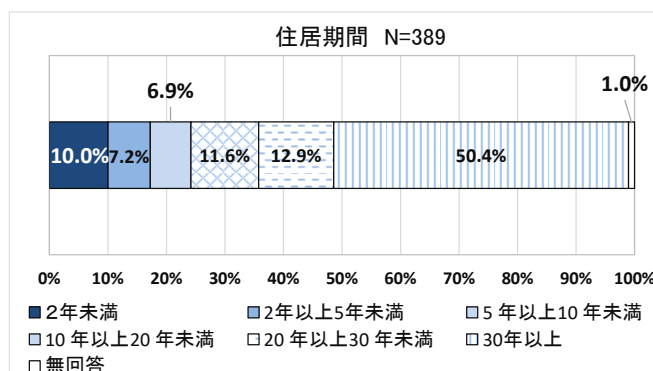
④ 現在のお住いの地域はどこですか(1 つに○)。

	回答数	割合
大茅	40	10.3%
坂根	17	4.4%
猪之部	35	9.0%
塩谷	33	8.5%
谷口	18	4.6%
影石	33	8.5%
別府	76	19.5%
引谷	22	5.7%
中土居	59	15.2%
下土居	21	5.4%
筏津	15	3.9%
知社	12	3.1%
無回答	8	2.1%
合計	389	100.0%



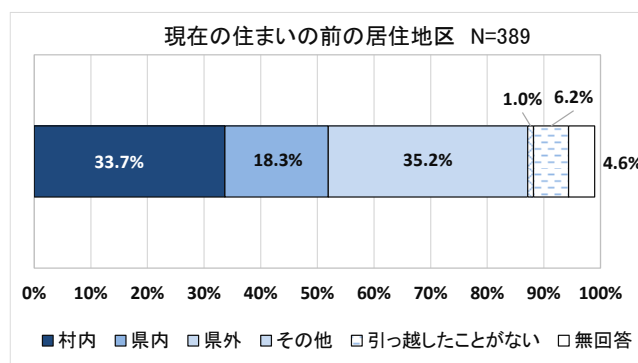
⑤ 現在の住まいでの住居期間は何年ですか(1 つに○)。

	回答数	割合
2年未満	39	10.0%
2年以上5年未満	28	7.2%
5年以上10年未満	27	6.9%
10年以上20年未満	45	11.6%
20年以上30年未満	50	12.9%
30年以上	196	50.4%
無回答	4	1.0%
合計	389	100.0%



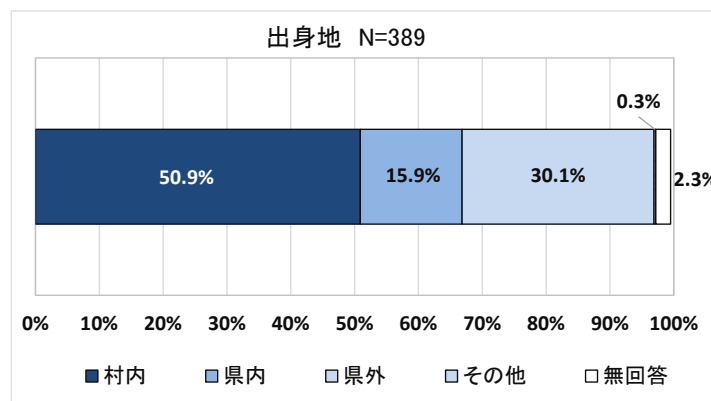
⑥ 現在の住まいの前の居住地区はどこですか(1 つに○)。

	回答数	割合
村内	131	33.7%
県内	71	18.3%
県外	137	35.2%
その他	4	1.0%
引っ越したことがない	24	6.2%
無回答	18	4.6%
合計	389	100.0%



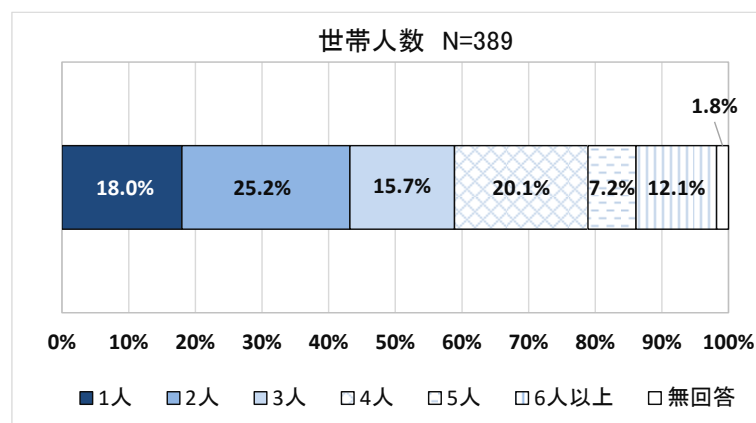
⑦ あなたの出身地はどこですか(1つに○)。

	回答数	割合
村内	198	50.9%
県内	62	15.9%
県外	117	30.1%
その他	1	0.3%
無回答	9	2.3%
合計	389	100.0%



⑧ 世帯人数を教えてください(1つに○)。

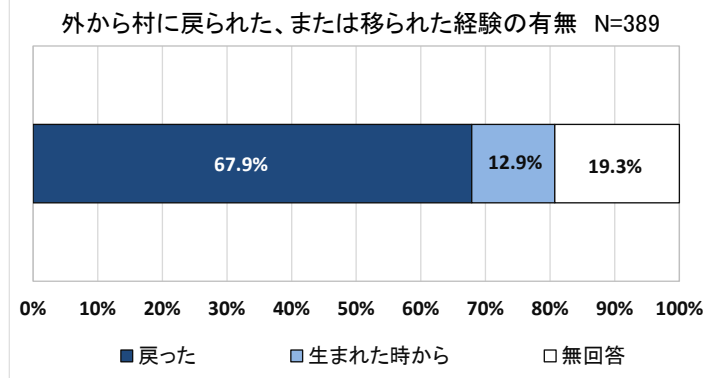
	回答数	割合
1人	70	18.0%
2人	98	25.2%
3人	61	15.7%
4人	78	20.1%
5人	28	7.2%
6人以上	47	12.1%
無回答	7	1.8%
合計	389	100.0%



⑨ 外から村に戻られた、または移られた経験の有無についてお聞きします。その年齢とそのきっかけについてあてはまる理由を教えてください(3 つまで○)

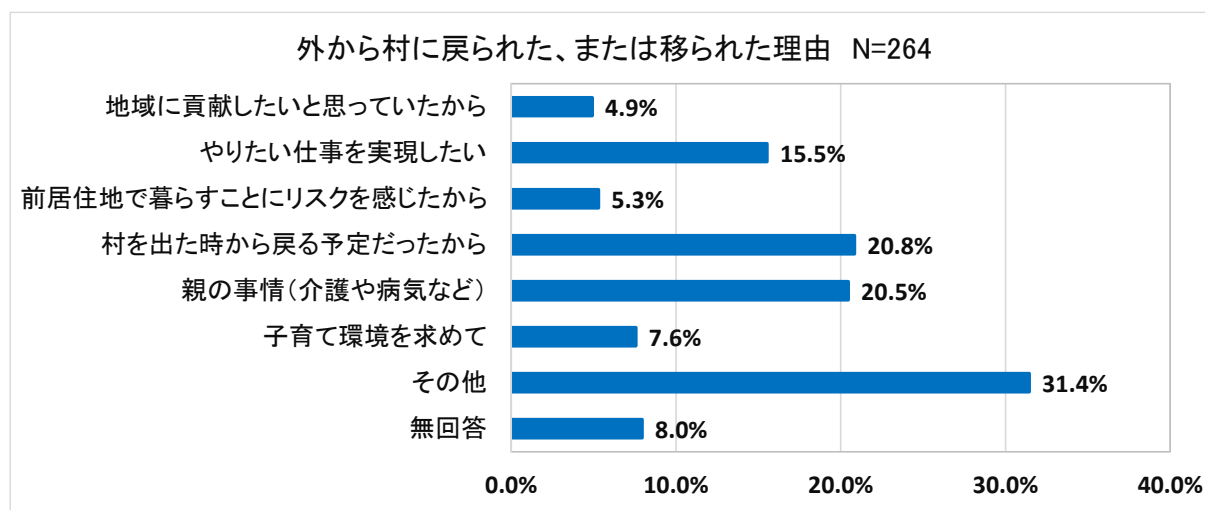
○ 回答者のうち、外から戻られた・移住した経験がある方が最も多く(67.9%)を占める。

	回答数	割合
戻った	264	67.9%
生まれた時から	50	12.9%
無回答	75	19.3%
合計	389	100.0%



<外から村に戻られた、または移られた理由について>

- 「その他」を除き、「村を出た時から戻る予定だったから」(20.8%)が最も多く、次いで「親の事情(介護や病気など)」(20.5%)、「やりたい仕事を実現したい」(15.5%)となっています。
- 年齢別に見ると、20 歳代では「やりたい仕事を実現したい」が 50%もあり、過半数を超えています。また、60 歳代、70 歳代では「村を出た時から戻る予定だったから」が 3 割を超えています。これらの数値は、他の年齢と比べると高くなっています。
- 出身地別に見ると、県外出身者では「やりたい仕事を実現したい」が 43.1%もあります。これは他の属性と比べて高くなっており、自分の目標を実現するために村に住み始めた人が多いことが分かります。一方、村内出身者では「やりたい仕事を実現したい」は 3.4%となっており、「村を出た時から戻る予定だったから」が 40.3%で最も多い理由となっています。



<その他の記述回答>

- ・ 結婚(24)
- ・ 職場が近いから(3)
- ・ 田舎に住んでみたかった(3)
- ・ 就職のため(3)
- ・ 住み心地がいいから(2)
- ・ 自身の体調問題(2)
- ・ 仕事(2)
- ・ 特になし(2)
- ・ 別荘として3年後転居、住み心地の良さから
- ・ セカンドハウスとして、住み心地のいい村
- ・ 親のふるさとに戻るため
- ・ 親が仕事先から郷里である西栗倉に帰って来た為
- ・ 妻の実家に移住したから
- ・ 妻が移住したので一緒に来た
- ・ ツレアイの郷里についてきた
- ・ 途中同居
- ・ 夫が戻る予定だったから
- ・ 夫についてきた
- ・ 夫の転職のため
- ・ 理想の暮らしを実現したかったから
- ・ 転勤
- ・ 転職
- ・ 退職
- ・ 家が空家となるので継ぐため
- ・ 家の事情
- ・ 実家があるから
- ・ 帰って来るべく事がトントンと運んだから
- ・ 一時的に
- ・ とりあえずなんとなく
- ・ なんとなく
- ・ なんとなくなりゆきで
- ・ 子どものため
- ・ 息子の居住地の近くに住むため
- ・ 夫が亡くなったから
- ・ 夫の定年

<年代別・出身地別における「外から村に戻られた、または移られた理由について」のクロス集計結果>

	回答該当者数	地域に貢献したいと思っていたから	やりたい仕事を実現したい	前居住地で暮らすことにリスクを感じたから	村を出た時から戻る予定だったから	親の事情（介護や病気など）	子育て環境を求めて	その他	無回答
計	263	13	41	14	55	54	20	83	20
割合(%)		4.9	15.5	5.3	20.8	20.5	7.6	31.4	8.0
(年齢別)									%
10 歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	14	21.4	50.0	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3	21.4
30 歳代	37	5.4	37.8	10.8	2.7	8.1	13.5	35.1	2.7
40 歳代	41	2.4	24.4	9.8	0.0	14.6	14.6	34.1	12.2
50 歳代	28	7.1	14.3	0.0	21.4	25.0	10.7	39.3	0.0
60 歳代	74	1.4	5.4	8.1	35.1	16.2	5.4	31.1	9.5
70 歳代	43	4.7	2.3	0.0	37.2	37.2	0.0	27.9	7.0
80 歳代	25	8.0	4.0	0.0	24.0	32.0	8.0	28.0	8.0
(出身地別)									%
村内	119	3.4	3.4	7.6	40.3	29.4	5.0	21.0	5.9
県内	32	6.3	6.3	6.3	12.5	28.1	12.5	43.8	3.1
県外	51	7.8	43.1	3.9	2.0	5.9	5.9	31.4	13.7
その他	61	4.9	21.3	1.6	3.3	11.5	9.8	45.9	9.8

問2 お子さんを持つことについて

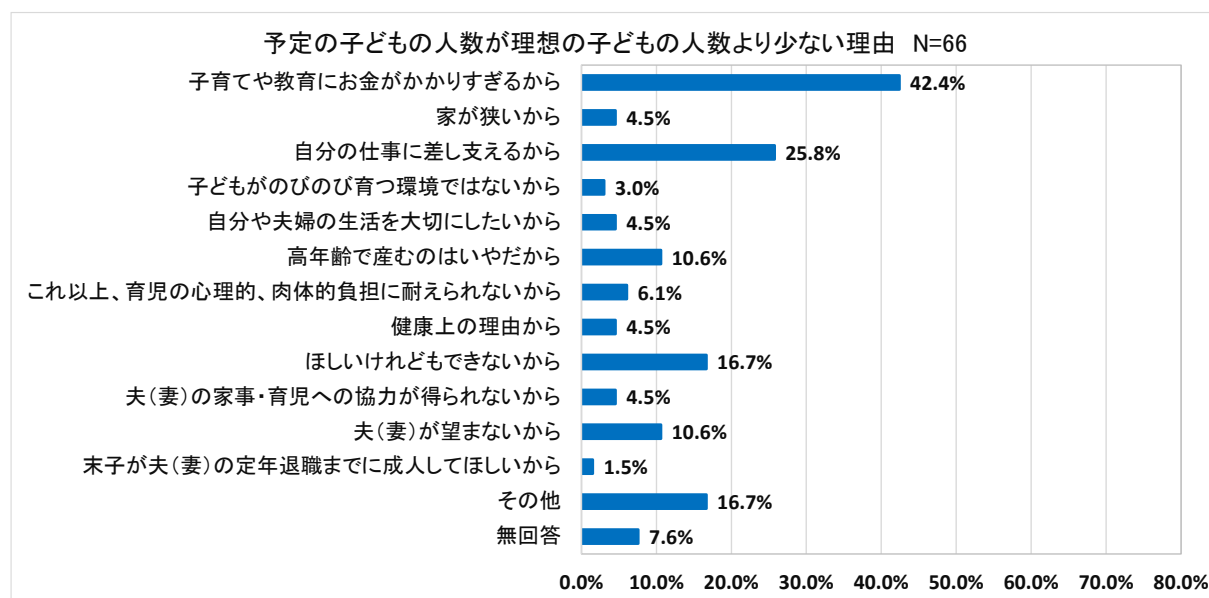
① あなたの理想とする子どもの数と予定の子どもの数を教えてください。

- 理想の子どもの数は、「3人」(37.0%)が最も多く、予定の子どもの数は、「2人」(20.6%)が最も多い結果となっています。
- 予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少なく回答したのは、全体の17%となっています。

人数	理想の子どもの数		予定の子どもの数	
0	11	2.8%	31	8.0%
1	7	1.8%	14	3.6%
2	102	26.2%	80	20.6%
3	144	37.0%	58	14.9%
4	16	4.1%	4	1.0%
5	5	1.3%	1	0.3%
無回答	104	26.7%	201	51.7%
合計	389	100.0%	389	100.0%

② 前問(①)で予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない方へお聞きします。その理由を教えてください(あてはまるものすべてに○、その中で最も重要な理由に◎)

- 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(42.4%)が最も多く、次いで、「自分の仕事に差し支えるから」(25.8%)が多くなっています。
- 「ほしいけれどもできないから」(16.7%)、「高年齢で産むのはいやだから」(10.6%)なども多く、身体面の不安が多いことも考えられます。



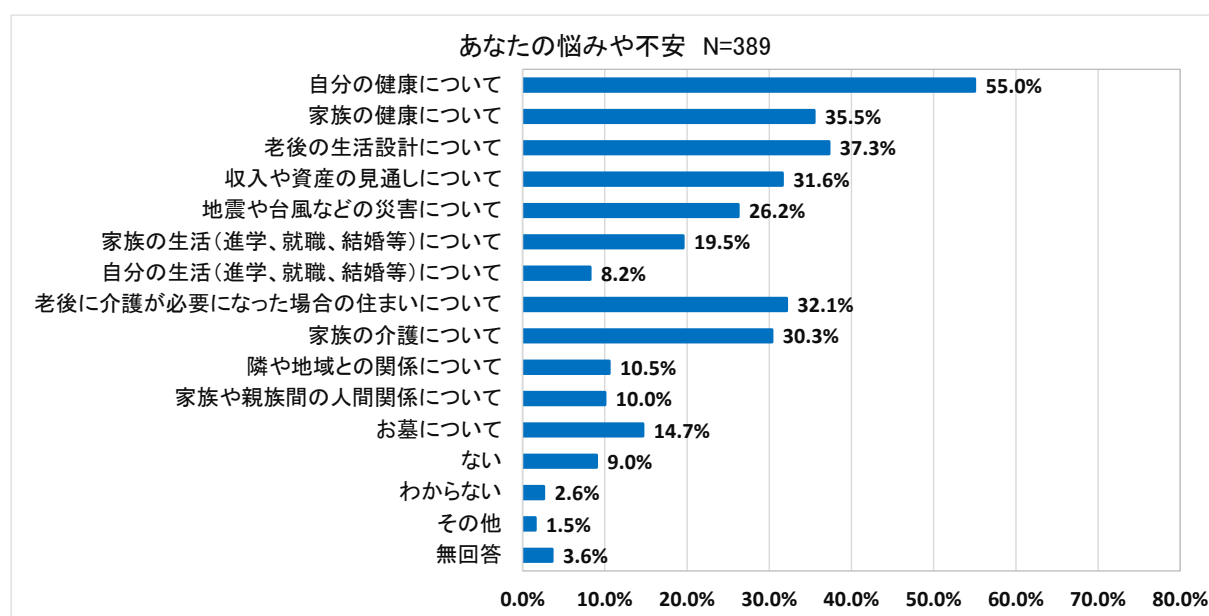
<その他の主な記述回答>

- ・ 出来なかった
- ・ 高齢だから
- ・ 妊娠中しんどい
- ・ 不妊による
- ・ 子を産んでくれる人がいないから
- ・ これから
- ・ 2人でいいから
- ・ まだ結婚・出産の予定がないから
- ・ 自分の仕事に差し支えるから。また、現時点では予定がないため
- ・ 自分の仕事に差し支えるから。子育てには協力してもらえ、頼れる関係が必要ですが、周囲に家族や親戚も居ないのでちゃんと子育てできるか不安に思う。
- ・ 子供ができなかったし、積極的に不妊治療などするには、当時保育園や託児施設のなかった西粟倉村での子育てには不安があったから。

問 3 あなたの悩みや不安について

悩みや不安はありますか(すべてに○)。

- 「自分の健康について」(55.0%)が最も多く、次に、「老後の生活設計」(37.3%)、「家族の健康について」(35.5%)、「老後に介護になった場合の住まいについて」(32.1%)、「収入や資産の見通しについて」(31.6%)、「家族の介護について」(30.3%)となっています。健康面や老後の生活に関するものに対して、不安を抱えていることが分かります。
- 年齢別に見ると、「自分の健康について」では 60 歳代(74.5%)、70 歳代(71.9%)、80 歳代(64.7%)の割合となっており、年齢が高くなるにつれて、健康面に不安を持つ割合が高くなる傾向が見られます。
- 20 歳代や 30 歳代の若い年齢の世代について、「収入や資産の見通しについて」、「自分の生活(進学、就職、結婚等)について」で、割合が 50%を超えています。
- 住居期間別に見ると、「自分の健康について」では、住居期間が 10 年以上の人の過半数が回答しています。



<その他の記述回答>

- ・ 老後の医療体制
- ・ 健康以外に悩みはない
- ・ 相続が絶える事
- ・ 地区の行事
- ・ 借家でなく、持ち家が欲しい
- ・ 様々で数多くある

<年齢別・住居期間別における「あなたの悩みや不安について」のクロス集計結果>

	回答者数	自分の健康について	家族の健康について	老後の生活設計について	収入や資産の見通しについて	地震や台風などの災害について	家族の生活（進学、就職、結婚等）について	自分の生活（進学、就職、結婚等）について	老後に介護が必要になった場合の住まいについて	家族の介護について	隣や地域との関係について	家族や親族間の人間関係について	お墓について	ない	わからない	その他	無回答
総計	389	214	138	145	123	102	76	32	125	118	41	39	57	35	10	6	14
割合(%)		55.0	35.5	37.3	31.6	26.2	19.5	8.2	32.1	30.3	10.5	10.0	14.7	9.0	2.6	1.5	3.6
(年代別)																	%
10 歳代	4	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
20 歳代	23	30.4	8.7	13.0	56.5	34.8	4.3	39.1	8.7	17.4	21.7	8.7	0.0	17.4	4.3	0.0	0.0
30 歳代	50	34.0	28.0	30.0	56.0	20.0	26.0	16.0	18.0	24.0	14.0	14.0	8.0	12.0	2.0	2.0	6.0
40 歳代	55	30.9	27.3	27.3	41.8	16.4	38.2	7.3	12.7	38.2	10.9	9.1	7.3	16.4	0.0	0.0	0.0
50 歳代	48	50.0	41.7	37.5	37.5	31.3	31.3	8.3	45.8	47.9	0.0	12.5	18.8	4.2	0.0	2.1	2.1
60 歳代	98	74.5	50.0	58.2	23.5	30.6	18.4	4.1	48.0	35.7	11.2	9.2	23.5	3.1	3.1	0.0	1.0
70 歳代	57	71.9	43.9	42.1	26.3	28.1	3.5	1.8	36.8	21.1	10.5	8.8	19.3	10.5	5.3	3.5	1.8
80 歳代	51	64.7	21.6	23.5	3.9	25.5	7.8	0.0	31.4	19.6	9.8	9.8	9.8	7.8	3.9	3.9	11.8
(住居期間別)																	%
2 年未満	39	33.3	25.6	25.6	56.4	23.1	10.3	12.8	17.9	23.1	20.5	15.4	7.7	15.4	2.6	2.6	0.0
2 年以上 5 年未満	28	28.6	28.6	17.9	28.6	25.0	21.4	14.3	14.3	32.1	0.0	3.6	14.3	10.7	3.6	3.6	3.6
5 年以上 10 年未満	27	29.6	29.6	22.2	40.7	22.2	37.0	14.8	18.5	22.2	18.5	11.1	3.7	7.4	3.7	3.7	0.0
10 年以上 20 年未満	45	57.8	26.7	44.4	40.0	13.3	28.9	17.8	24.4	37.8	13.3	8.9	8.9	11.1	4.4	0.0	2.2
20 年以上 30 年未満	50	64.0	36.0	46.0	32.0	32.0	26.0	12.0	28.0	28.0	8.0	16.0	20.0	8.0	2.0	0.0	0.0
30 年以上	196	63.3	40.3	41.3	24.0	29.1	15.3	2.6	42.3	31.6	9.2	8.7	17.9	7.7	2.0	1.5	5.6

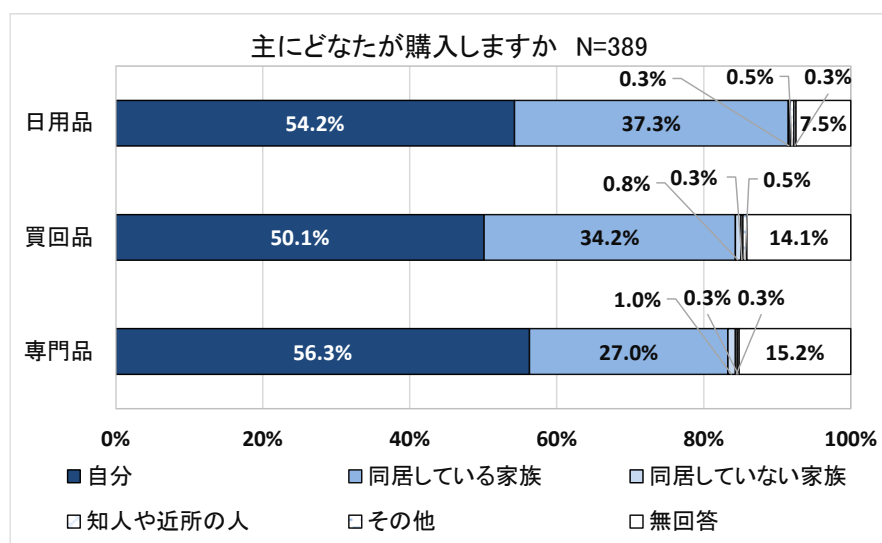
問 4 村の中で好きな場所はどこですか？(自由記述一覧)

- ・ 自宅 (39)
- ・ 若杉原生林 (17)
- ・ ダルガ峰 (11)
- ・ 黄金泉 (6)
- ・ あわくらンド (3)
- ・ 西栗倉村コンベンションホール (3)
- ・ 大茅原生林 (3)
- ・ グラウンド (2)
- ・ 中土居 (2)
- ・ 村民
- ・ 自宅周辺
- ・ 春に線路の桜が咲く場所
- ・ あわくらんの裏のわたり橋
- ・ 星空
- ・ 食事できるところ
- ・ 役場周辺
- ・ 田
- ・ あわくら荘
- ・ ダルガ峰線からの風景
- ・ あわくら温泉駅の下公園
- ・ 千種峠までの道
- ・ 引谷新田
- ・ 村の景色
- ・ 旬の里
- ・ 木の村としてこだわりのある政策
- ・ ひまわりが咲いた我が畑、ヒメボタルが乱れ飛ぶ季節
- ・ 旬の里から温泉駅に行くカーブしているのぼり坂
- ・ スキー場などの星がきれいに見えるところ
- ・ 図書館(あわくら会館) (38)
- ・ ない (16)
- ・ 原生林 (10)
- ・ 村全体 (5)
- ・ 塩谷 (3)
- ・ 吉野川 (3)
- ・ 畑 (3)
- ・ 長尾 (2)
- ・ Bambi (2)
- ・ ホタル
- ・ 森
- ・ 下土居
- ・ 栗倉神社
- ・ 大茅芝桜
- ・ カラオケ会場
- ・ 元湯
- ・ 野井張公園
- ・ あわくら荘のお風呂
- ・ むかしの野島園
- ・ 水がきれいで遊べる場所
- ・ 林道
- ・ 影石
- ・ 天然林
- ・ 空気や水
- ・ 品の良い人が多い
- ・ 川 (18)
- ・ 山 (11)
- ・ 駒の尾 (7)
- ・ よりみち (5)
- ・ 影石小学校 (3)
- ・ 吉野川沿い (3)
- ・ 引谷 (3)
- ・ 現在の場所 (2)
- ・ わからない (2)
- ・ 保育園
- ・ 生家のあった場所
- ・ 自分の育てた山林
- ・ どこでも好き
- ・ ふるさとのなつかしさ
- ・ ゲートボール場
- ・ 自然豊か
- ・ 念仏谷
- ・ 学校
- ・ 天岡公園
- ・ 同級生の家
- ・ 入江神社
- ・ 星空がキレイに見える
- ・ 駅

問 5 買い物状況について

① それぞれ、主にどなたが購入しますか。(1 つに○)

- 購入する品目に関わらず買い物は、「自分」(5 割程度)、「同居している家族」(3 割前後)をあわせた割合が高くなっており、その 2 つの占める割合が 80%を越えています。
- 過去のアンケートと比べると、日用品及び買回品、専門品のすべてにおいて「同居していない家族」の購入する割合が低くなっています。しかし、「自分」、「同居している家族」の購入する割合に変化はほとんど確認されていません。



	自分	同居している家族	同居していない家族	知人や近所の人	その他	無回答
日用品	54.2%	37.3%	0.3%	0.5%	0.3%	7.5%
買回品	50.1%	34.2%	0.8%	0.3%	0.5%	14.1%
専門品	56.3%	27.0%	1.0%	0.3%	0.3%	15.2%

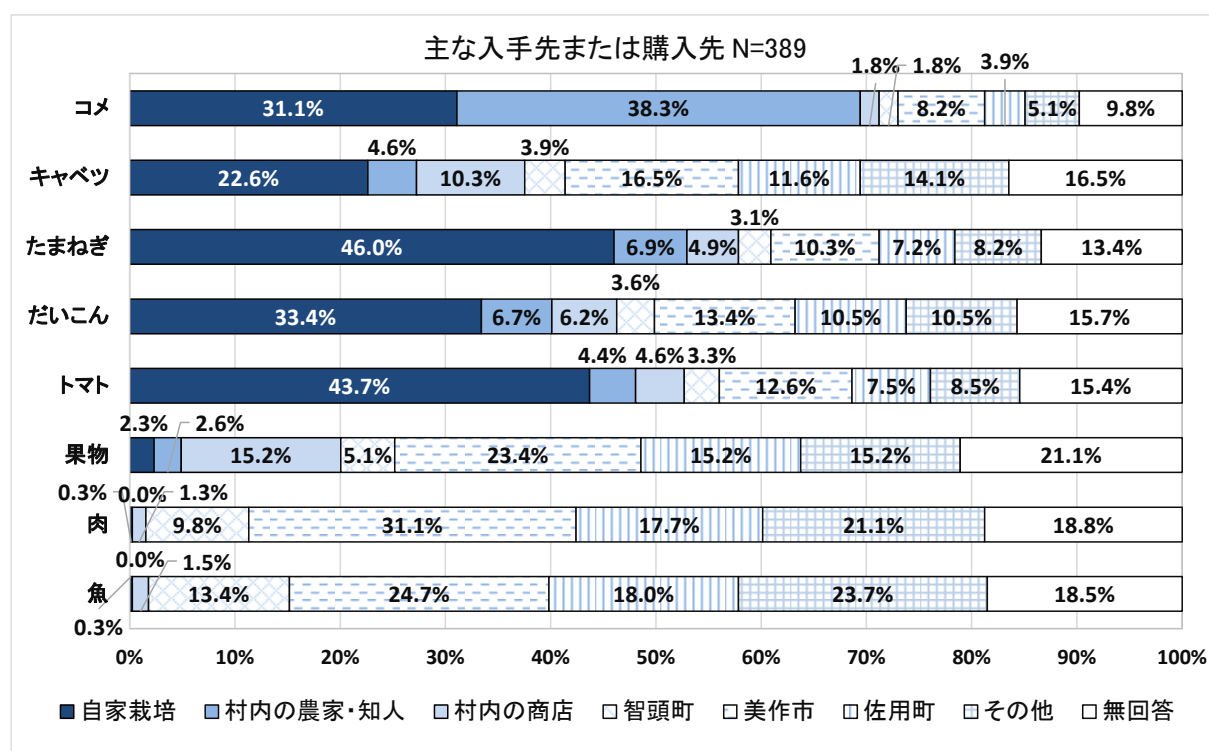
<その他の記述回答>

- ・ 同居人
- ・ コープ
- ・ 購入しない(専門品)

② 食料品についての主な入手先または購入先を教えてください(1つに○)。また、それぞれの主な産地について教えてください(1つに○)。

<主な入手先または購入先>

- コメや野菜(キャベツ、たまねぎ、だいこん、トマト)の農作物は、「自家栽培」や「村内の農家・知人」から購入している割合が高くなっています。コメについては、約 7 割近くとなっています。「自家栽培」で最も多いのは、「たまねぎ」で次に「トマト」となっています。
- 肉や魚の購入先は、村内での割合が低く、「美作市」や「佐用町」などの近隣自治体での購入が多くなっています。
- 村内の商店での購入は、「果物(15.3%)」、「キャベツ(10.3%)」が多く、他の購入先と比較するとやや利用率が高くなっています。



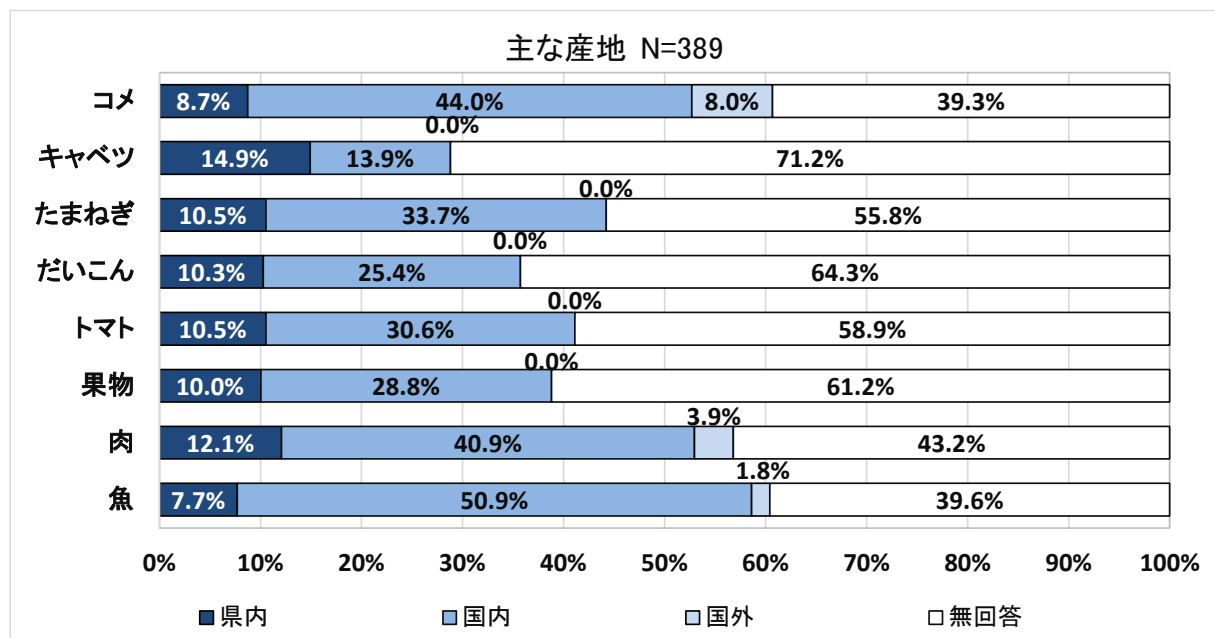
Q5-2	自家栽培	村内の農家・知人	村内の商店	智頭町	美作市	佐用町	その他	無回答
コメ	31.1%	38.3%	1.8%	1.8%	8.2%	3.9%	5.1%	9.8%
キャベツ	22.6%	4.6%	10.3%	3.9%	16.5%	11.6%	14.1%	16.5%
たまねぎ	46.0%	6.9%	4.9%	3.1%	10.3%	7.2%	8.2%	13.4%
だいこん	33.4%	6.7%	6.2%	3.6%	13.4%	10.5%	10.5%	15.7%
トマト	43.7%	4.4%	4.6%	3.3%	12.6%	7.5%	8.5%	15.4%
果物	2.3%	2.6%	15.2%	5.1%	23.4%	15.2%	15.2%	21.1%
肉	0.3%	0.0%	1.3%	9.8%	31.1%	17.7%	21.1%	18.8%
魚	0.3%	0.0%	1.5%	13.4%	24.7%	18.0%	23.7%	18.5%

<その他の記述回答>

・津山市	・勝央町	・岡山市	・大原の商店
・兵庫県	・鳥取	・岩美町	・県外
・実家	・親族	・家族	・知人
・村外の農家	・村外の知人	・村外の親戚	・生協
・コープ	・色々	・買わない	
・購入機会が無く食べなくなった			

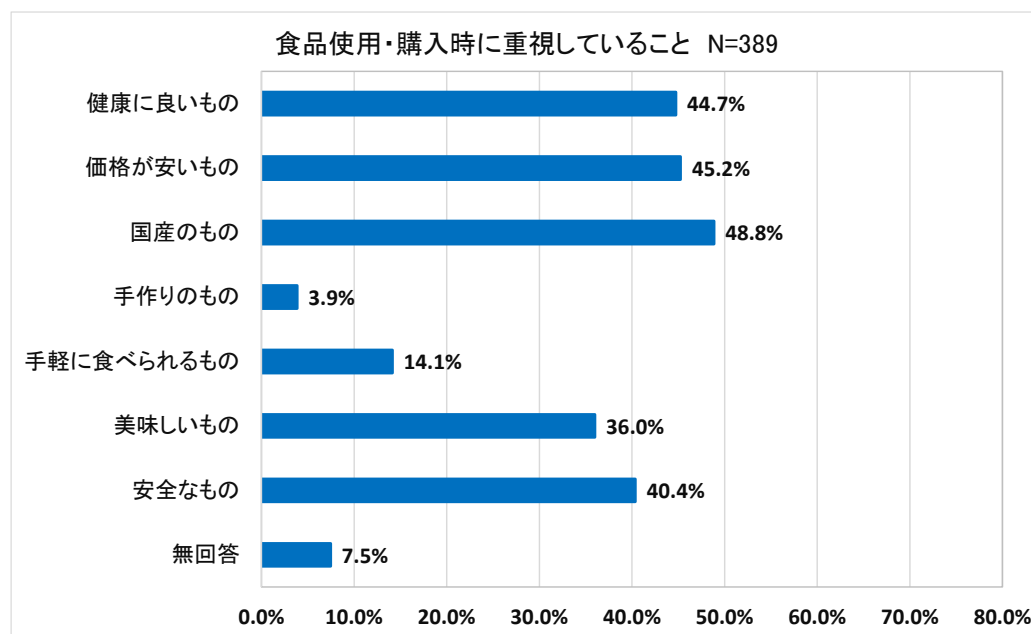
<食料品の主な産地>

- どの食料品においても、主な産地は「国内」が最も多くなっています。
- 野菜や果物に関して、産地が「国外」と選択した方はいませんでした。



③ 食品使用・購入時に重視していることを教えてください(3 つまで○)。

- 食品使用・購入時に重視していることは「国産のもの」(48.8%)と最も多く、次いで「価格が安いもの」(45.2%)、「健康に良いもの」(44.7%)の順になっています。
- 60 歳代以上では「健康に良いもの」が 50%を超え、他の年齢と比べると高くなっています。一方、20 歳代、30 歳代の若い年齢の世代では、「価格が安いもの」が 60%を超え、他の年代より高くなっています。



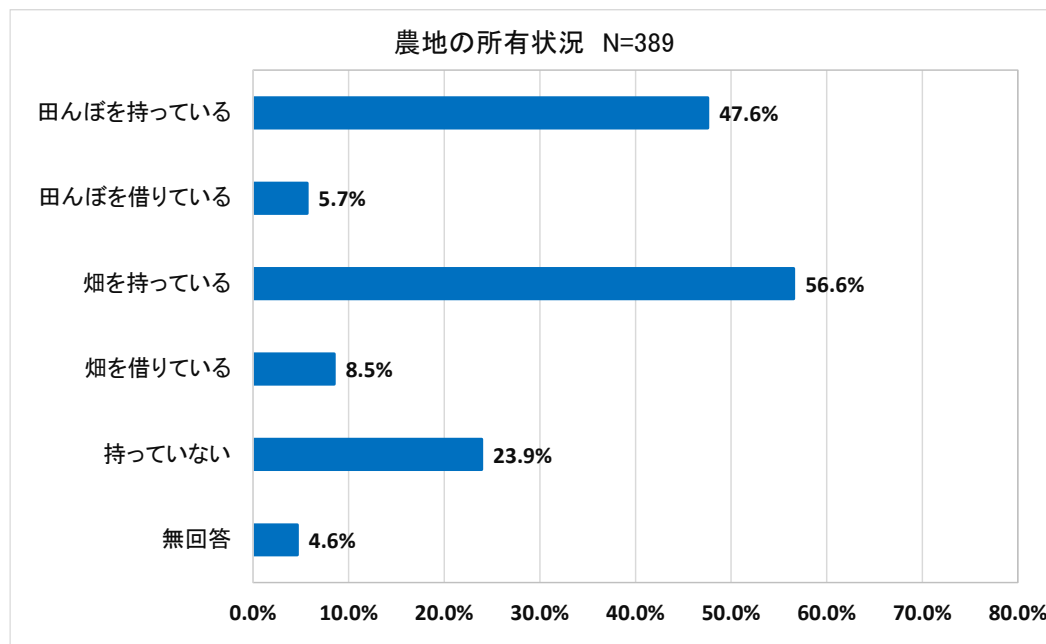
< 年齢別における「食品使用・購入時に重視していることについて」のクロス集計結果 >

	回答者数	健康に良いもの	価格が安いもの	国産のもの	手作りのもの	手軽に食べられるもの	美味しいもの	安全なもの	無回答
計	389	174	176	190	15	55	140	157	19
割合(%)		44.7	45.2	48.8	3.9	14.1	36.0	40.4	7.5
(年代別)									%
10 歳代	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0
20 歳代	23	30.4	60.9	47.8	4.3	13.0	34.8	26.1	13.0
30 歳代	50	26.0	62.0	40.0	4.0	8.0	48.0	42.0	8.0
40 歳代	55	32.7	58.2	49.1	1.8	16.4	47.3	40.0	3.6
50 歳代	48	45.8	54.2	41.7	2.1	20.8	47.9	35.4	0.0
60 歳代	98	55.1	36.7	62.2	3.1	10.2	26.5	49.0	7.1
70 歳代	57	54.4	45.6	40.4	3.5	17.5	29.8	36.8	5.3
80 歳以上	51	54.9	15.7	51.0	9.8	13.7	27.5	41.2	13.7

問 6 あなたの農地の所有状況や栽培状況について

① 農地の所有状況について教えてください(すべてに○)。

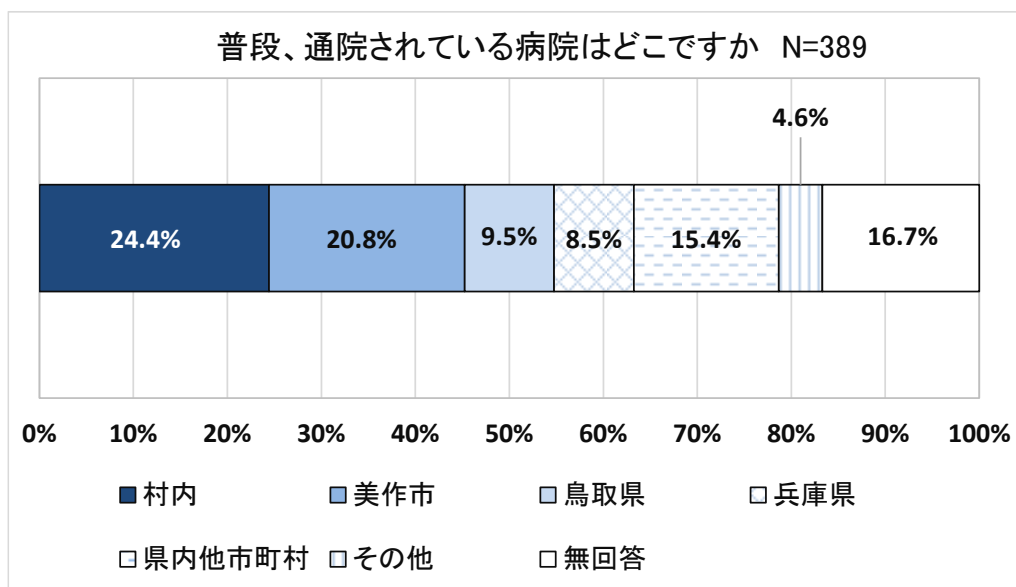
- 「田んぼを持っている」または「畑を持っている」の割合が 50%前後となっており、村民の 2 人に 1 人が農地を所有していることがわかります。一方、「田んぼを借りている」(5.7%)、「畑を借りている」(8.5%)と 1 割を下回っており、他人から借りている方は少ないことが確認されます。
- 「持っていない」が 23.9%を占め、約 4 人に 1 人が農地を所有していないことが分かります。



問 7 あなたの通院状況について

① 普段、通院されている病院はどこですか(1 つに○)。

○ 通院されている病院は、「村内」が 24.4%と最も多く、次いで「美作市」が 20.8%、県内市町村が 15.4%の順となっており、村内だけでなく近隣自治体の病院を利用している割合も多いことが分かります。



<その他の記述回答>

● 県内各市町村

・津山市 (38)

・津山中央病院

・岡山市 (10)

・勝央町

● 県外各市町村

・鳥取 (3)

・佐用町

・姫路日赤

・大阪

● その他

・病気によって行くところが違う

・最近病院に通っていない

・通院していない (2)

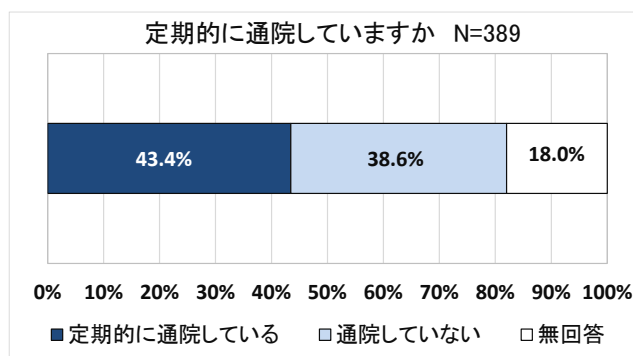
・ない (8)

② 定期的に通院していますか。通院されている方はその頻度について教えてください。(通院先については記述による一覧)

- 「定期的に通院している」が 43.4%と最も多いが、「通院していない」が 38.6%となっています。
- 通院頻度においては、「月一回程度」(69.8%)が全体の 7 割程度が最も多いです。次いで「半年に 1 回」(18.3%)、「週一回程度」(3.0%)の順となっています。
- 通院先には、村内の西粟倉村診療所だけでなく、近隣自治体にある津山中央病院や美作市立大原病院などがあります。

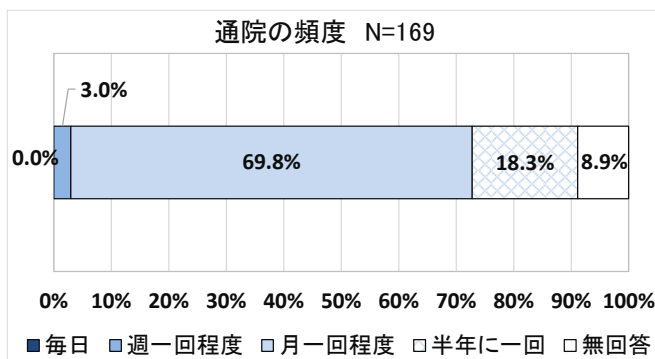
<定期的に通院しているか>

	回答数	割合
定期的に通院している	169	43.4%
通院していない	150	38.6%
無回答	70	18.0%
合計	389	100.0%



<通院頻度>

	回答数	割合
毎日	0	0.0%
週一回程度	5	3.0%
月一回程度	118	69.8%
半年に一回	31	18.3%
無回答	10	8.9%
合計	169	100.0%



<通院先の病院または場所>

●村内

・西粟倉村診療所 (19)

・いとう歯科 (3)

・村内 (9)

●岡山県内の他市町村

・美作市 (16)

・美作市立大原病院 (8)

・美作市 山田医院

・大原 (2)

・倉敷市

・赤磐市赤坂

・津山市 (18)

・津山中央病院 (11)

・積善病院 (2)

・岡山市 (5)

・岡山大学病院 (2)

・岡山市立病院

・勝央町

・県内 (2)

●県外

・佐用町 (7)

・佐用中央病院 (2)

・佐用共立病院 (2)

・兵庫県 (2)

・姫路市 (2)

・鳥取県 (6)

・鳥取市 (3)

鳥取県立中央病院

・智頭町 (4)

・智頭病院

●その他

・歯科 (2)

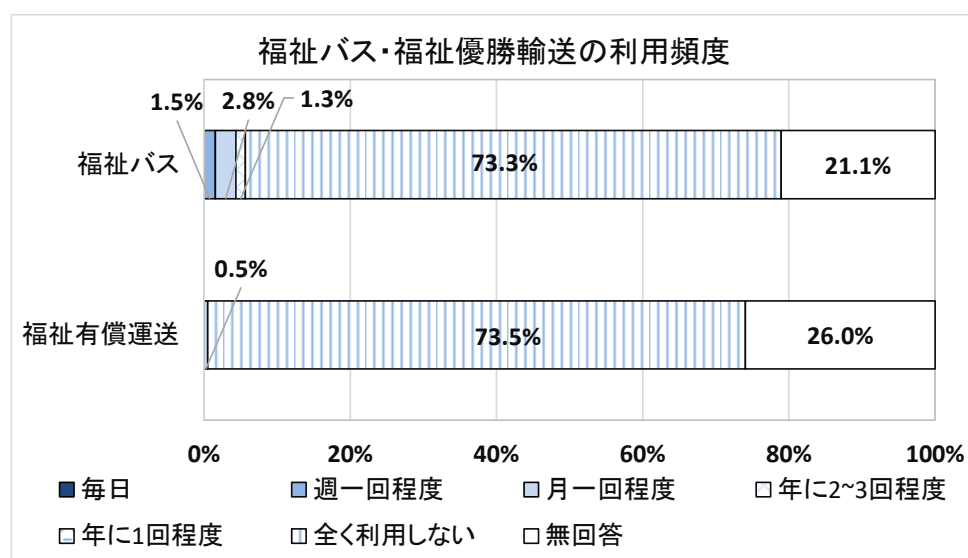
・共立病院 (2)

・診療所 (20)

問 8 福祉バスの利用状況や考えについて

① 福祉バス、福祉有償輸送についてお聞きします。利用頻度を教えてください。(1 つに○)。

- 福祉バス・福祉有償輸送のどちらにおいても、「全く利用しない」が最も高く、ともに 70%を超えており、村民の利用率が低くなっています。特に、福祉有償輸送に関しては、「利用している」と回答が 0.5%であり、非常に低くなっています。
- 一方、福祉バスに関しては全体の利用者は少ないものの、「週一回程度」(1.5%)、「月一回程度」(2.8%)、「年に 2~3 回程度」(1.3%)と利用者の利用頻度に幅があることが分かります。
- 年齢別に見ると、50 歳代以下では「福祉バス」、「福祉有償輸送」の利用が見られません。一方、60 歳代以降では「福祉バス」、「福祉有償輸送」を定期的に利用者がいることが分かります。特に、80 歳代以上では「福祉バス」の月一回程度の利用が約 20%程度となっています。



<年齢別における「福祉バス・福祉有償輸送の利用状況」のクロス集計結果>

●福祉バス

	回答者数	毎日	週一回 程度	月一回 程度	年に2~3 回程度	年に1 回程度	全く利用 しない	無回答
	389	0	6	11	5	0	285	82
割合(%)		0.0	1.5	2.8	1.3	0.0	73.3	21.1
(年齢別)								%
10 歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
20 歳代	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3	8.7
30 歳代	50	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	22.0
40 歳代	55	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.1	10.9
50 歳代	48	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	79.2	20.8
60 歳代	98	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	74.5	23.5
70 歳代	57	0.0	1.8	1.8	7.0	0.0	71.9	17.5
80 歳以上	51	0.0	5.9	19.6	2.0	0.0	39.2	33.3

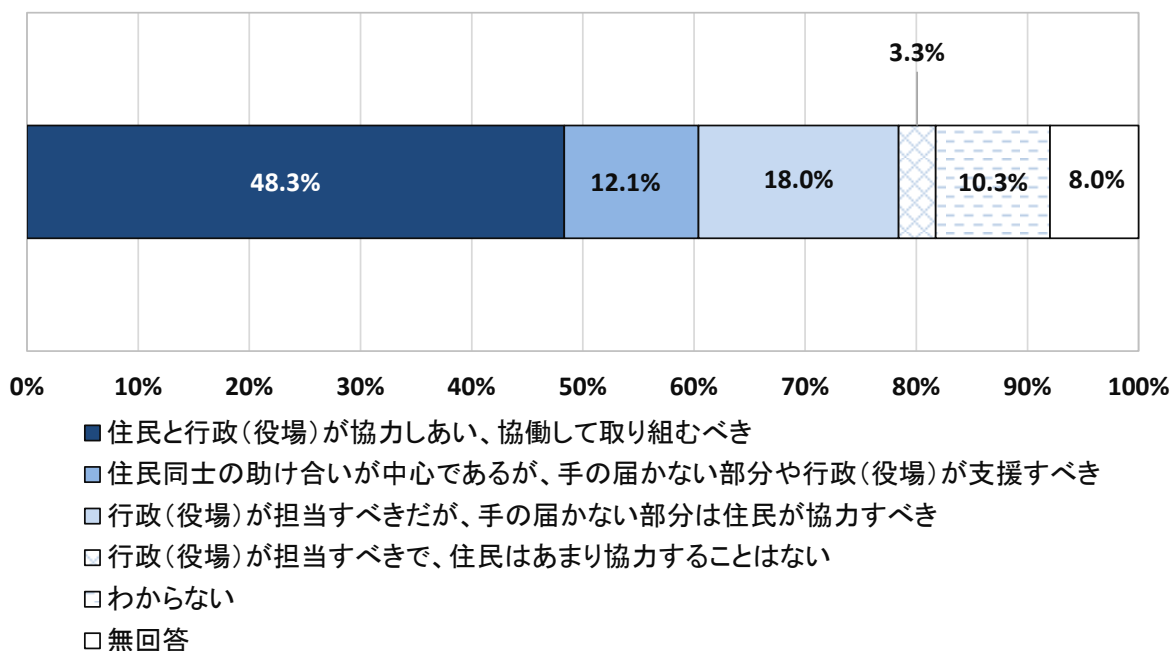
●福祉有償輸送

	回答者数	毎日	週一回程 度	月一回 程度	年に2~3 回程度	年に1 回程度	全く利用 しない	無回答
	389	0	0	2	0	0	286	101
割合(%)		0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	73.5	26.0
(年齢別)								
10 歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
20 歳代	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.3	8.7
30 歳代	50	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	24.0
40 歳代	55	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.1	10.9
50 歳代	48	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	79.2	20.8
60 歳代	98	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	74.5	25.5
70 歳代	57	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	66.7	31.6
80 歳以上	51	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	49.0	49.0

② 福祉活動を推進するにあたって、住民と行政の関係について、次の中からあなたの考え方に近いものはどれですか(1 つに○)。

- 「住民と行政(役場)が協力しあい、協働して取り組むべき」が 48.3%と最も多く、全体の半分近くと高くなっています。次いで「行政(役場)が担当すべきだが、手の届かない部分は住民が協力すべき」が 18.0%、「住民同士の助け合いが中心であるが、手の届かない部分や行政(役場)が支援すべき」が 12.0%となっています。
- 年齢別に見ると、30 歳代から 50 歳代までは「住民と行政(役場)が協力しあい、協働して取り組むべき」が 5 割を超え、約半数が協働して取り組むべきと考えています。
- 住居期間別に見ると、2 年未満が「住民と行政(役場)が協力しあい、協働して取り組むべき」が 61.5%と特に高く、次いで 5 年以上 10 年未満が 55.6%、2 年以上 5 年未満が 53.6%となっており、住居期間が短いほど、占める割合が高い状況です。

福祉活動を推進するにあたって、住民と行政の関係についてのあなたの考え N=389



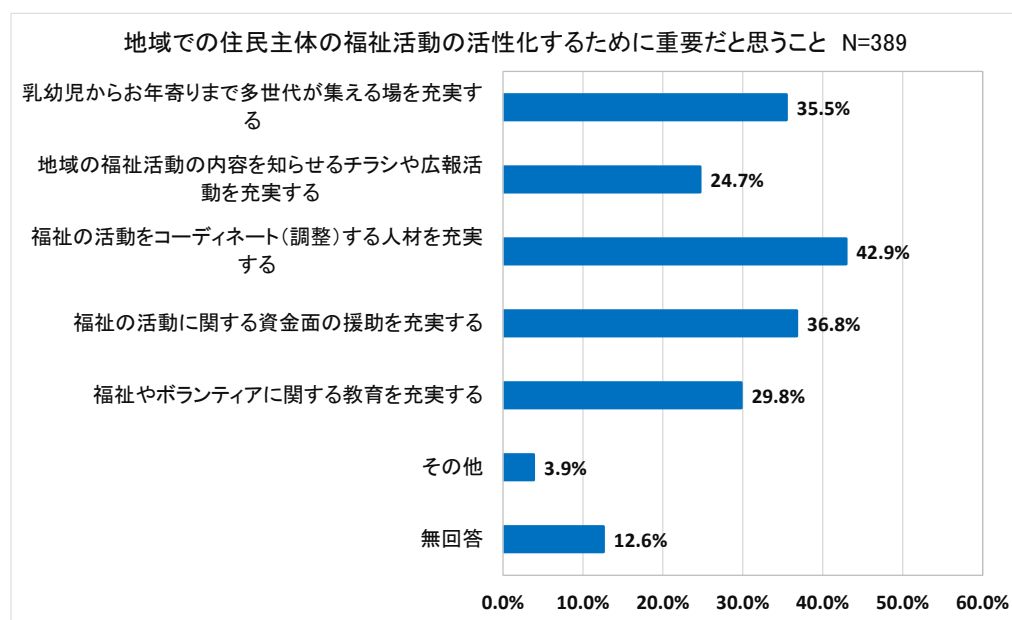
<年齢別・住居期間別における「福祉活動を推進するにあたって、住民と行政の関係についてのあなたの考え」のクロス集計結果>

	回答者数	住民と行政（役場）が協力しあい、協働して取り組むべき	住民同士の助け合いが中心であるが、手の届かない部分や行政（役場）が支援すべき	行政（役場）が担当すべきだが、手の届かない部分は住民が協力すべき	住民はあまり協力することはない	わからない	無回答
計	389	188	47	70	13	40	26
		48.3%	12.1%	18.0%	3.3%	10.3%	8.0%
(年齢別)							
10 歳代	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0
20 歳代	23	47.8	30.4	8.7	0.0	13.0	0.0
30 歳代	50	50.0	10.0	18.0	4.0	12.0	6.0
40 歳代	55	50.9	18.2	14.5	3.6	9.1	3.6
50 歳代	48	58.3	10.4	8.3	0.0	10.4	12.5
60 歳代	98	45.9	9.2	23.5	3.1	9.2	9.2
70 歳代	57	47.4	10.5	26.3	1.8	8.8	5.3
80 歳以上	51	43.1	9.8	15.7	9.8	11.8	9.8
(住居期間別)							
2年未満	39	61.5	12.8	20.5	0.0	5.1	0.0
2年以上 5年未満	28	53.6	10.7	21.4	0.0	10.7	3.6
5年以上 10年未満	27	55.6	11.1	18.5	0.0	7.4	7.4
10年以上 20年未満	45	28.9	26.7	22.2	4.4	11.1	6.7
20年以上 30年未満	50	40.0	12.0	28.0	4.0	12.0	4.0
30年以上	196	51.5	9.2	13.3	4.1	10.2	11.7

③ 地域での住民主体の福祉活動の活性化するためには何が重要だと思いますか。(3つまで○)

○ 「福祉の活動をコーディネート(調整)する人材を充実する」が 42.9%と最も多く、次いで「福祉の活動に関する資金面の援助を充実する」が 36.8%となっており、人材や金銭面などの支援を望んでいることが分かります。

○ 年齢別に見ると、子育て世代が多い 20 歳代や 30 歳代では「乳幼児からお年寄りまで多世代が集える場を充実する」が 50%前後であり、特に関心が高くなっています。



<年齢別における「地域での住民主体の福祉活動の活性化するために重要と思うこと」のクロス集計結果>

	回答者数	乳幼児からお年寄りまで多世代が集える場を充実する	地域の福祉活動の内容を知らせるチラシや広報活動を充実する	福祉の活動をコーディネート(調整)する人材を充実する	福祉の活動に関する資金面の援助を充実する	福祉やボランティアに関する教育を充実する	その他	無回答
計	389	138	96	167	143	116	15	46
		35.5%	24.7%	42.9%	36.8%	29.8%	3.9%	12.6%
(年齢別)								
10 歳代	4	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0
20 歳代	23	65.2	13.0	30.4	43.5	43.5	0.0	8.7
30 歳代	50	48.0	26.0	42.0	44.0	26.0	10.0	10.0
40 歳代	55	27.3	9.1	49.1	40.0	41.8	3.6	3.6
50 歳代	48	37.5	16.7	50.0	29.2	29.2	6.3	12.5
60 歳代	98	35.7	30.6	44.9	50.0	26.5	2.0	13.3
70 歳代	57	33.3	35.1	47.4	26.3	26.3	0.0	14.0
80 歳以上	51	21.6	33.3	25.5	17.6	27.5	3.9	21.6

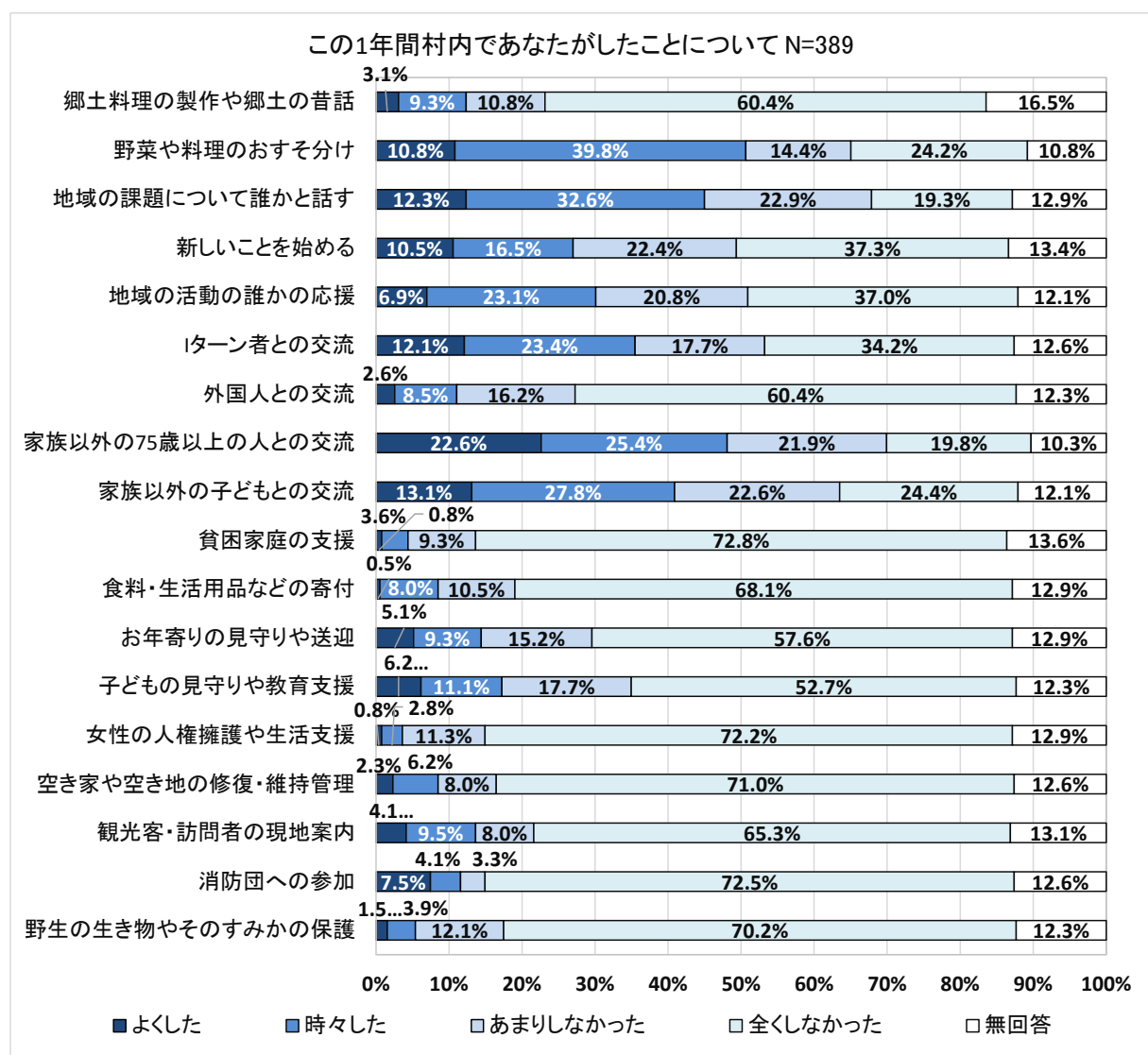
<その他の記述回答>

- ・福祉バスの拡大、子ども等の利用者の拡大
- ・補助金目当ての AO とかに福祉をさせるのか
- ・実際に指名でもして、やってもらわないとなかなか人は動かないと思う。
- ・そもそも自分自身、福祉とは何か理解できていないです。まずは、行政職員の方々が住民にくまなく説明できるよう学ばれてはいかがでしょうか。
- ・地域全体で”いずれは自分がお世話になる”というモチベーションを上げる何らかの策が必要だと思います。
- ・差別しない
- ・内容の充実
- ・プラットフォームとなる団体 NPO を立ち上げ
- ・頻度・種類を多様に選べるボランティア主体のボランティアセンターを作る。
- ・民間活動を前提とした政策
- ・住民が自発的に動けるきっかけづくり
- ・わからない (2)

問 9 この 1 年間で、村内で、あなたがしたことについて

この 1 年間で、村内で、あなたがしたことについてそれぞれの項目について、お答えください(それぞれ 1 つに○)。

- 「よくした」「時々した」をあわせた『した』が多い項目は、「野菜や料理のおすそ分け」(50.6%)で最も高く、次いで「家族以外の 75 歳以上の人との交流」(48.0%)、「地域の課題について誰かと話す」(44.9%)の順となっています。
- 「あまりしなかった」「全くしなかった」をあわせた『しなかった』では、「女性の人権擁護や生活支援」(83.5%)、「野生の生き物やそのすみかの保護」(82.3%)の順で多くなっています。
- 「よくした」ことについて年齢別に見ると、20 歳代では「家族以外の子どもとの交流」が 43.5%であり、他の年齢と比べると高くなっています。



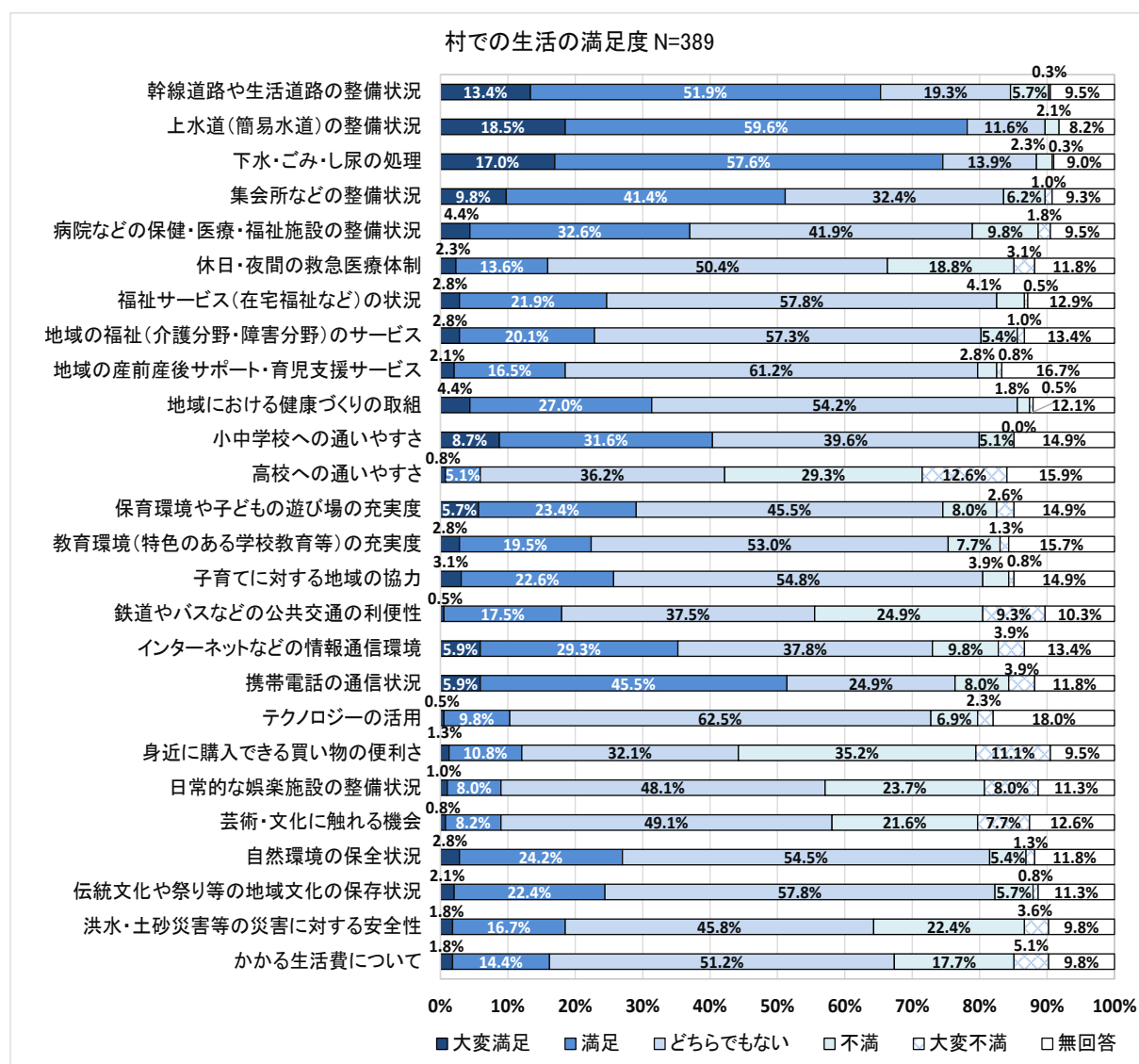
＜年齢別・住居期間別における「福祉活動を推進するにあたって、住民と行政の関係についてのあなたの考え」のクロス集計結果＞

	回答者数	郷土料理の製作や郷土の昔話	野菜や料理のおすそ分け	地域の課題について誰かと話す	新しいことを始める	地域の活動の誰かの応援	「ターナー」との交流	外国人との交流	家族以外の65歳以上の人との交流	家族以外の子どもの交流	貧困家庭の支援	食料・生活用品などの寄付	お年寄りの見守りや送迎	子どもの見守りや教育支援	女性の人権擁護や生活支援	空き家や空き地の修復・維持管理	観光客・訪問者の現地案内	消防団への参加	野生の生き物やそのすみかの保護
計	389	12	42	48	41	27	47	10	88	51	3	2	20	24	3	9	16	29	6
割合(%)		3.1	10.8	12.3	10.5	6.9	12.1	2.6	22.6	13.1	0.8	0.5	5.1	6.2	0.8	2.3	4.1	7.5	1.5
(年齢別)																			%
10 歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	23	4.3	8.7	26.1	26.1	13.0	39.1	8.7	30.4	43.5	0.0	0.0	4.3	30.4	4.3	4.3	21.7	13.0	4.3
30 歳代	50	2.0	14.0	28.0	20.0	18.0	30.0	6.0	16.0	20.0	2.0	0.0	4.0	10.0	0.0	4.0	12.0	24.0	6.0
40 歳代	55	0.0	5.5	12.7	27.3	9.1	23.6	7.3	14.5	25.5	0.0	0.0	3.6	10.9	0.0	5.5	5.5	23.6	0.0
50 歳代	48	0.0	6.3	14.6	8.3	4.2	0.0	0.0	27.1	2.1	2.1	0.0	6.3	0.0	0.0	2.1	2.1	2.1	0.0
60 歳代	98	2.0	9.2	4.1	4.1	4.1	7.1	0.0	12.2	7.1	0.0	1.0	6.1	4.1	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0
70 歳代	57	1.8	19.3	7.0	3.5	1.8	1.8	0.0	35.1	8.8	1.8	0.0	7.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80 歳以上	51	13.7	11.8	11.8	0.0	5.9	3.9	0.0	37.3	5.9	0.0	2.0	3.9	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	3.9

問 10 西粟倉村での生活について

① 村での生活の満足度を教えてください(それぞれ 1 つに○)。

- 生活について、「大変満足」「満足」をあわせた『満足』が多い項目は、「上水道(簡易水道)の整備状況」の 78.1%が最も高く、次いで「下水・ごみ・し尿の処理」が 74.6%であり、上下水道の整備状況の満足度が特に高いことが分かります。この他にも、「幹線道路や生活道路の整備状況」(65.3%)、「集会所などの整備状況」(51.2%)であり、『満足』と思う人が過半数を超えています。
- 一方、「不満」「大変不満」をあわせた『不満』が多い項目は、「身近に購入できる買い物の便利さ」(46.3%)、「高校への通いやすさ」(41.9%)であり、不満に思う人が 4 割を超えています。
- また、『どちらでもない』が多い項目は「テクノロジーの活用」(62.5%)、「地域の産前産後サポート・育児支援サービス」(61.2%)などで、過半数以上を占めている項目が 11 もあります。
- 過去のアンケート結果と比較すると、道路や上下水道などの生活インフラに関しては過去と同じく高い評価を得ています。一方、「福祉サービス(在宅福祉など)の状況」といった福祉関連の評価は低下しています。

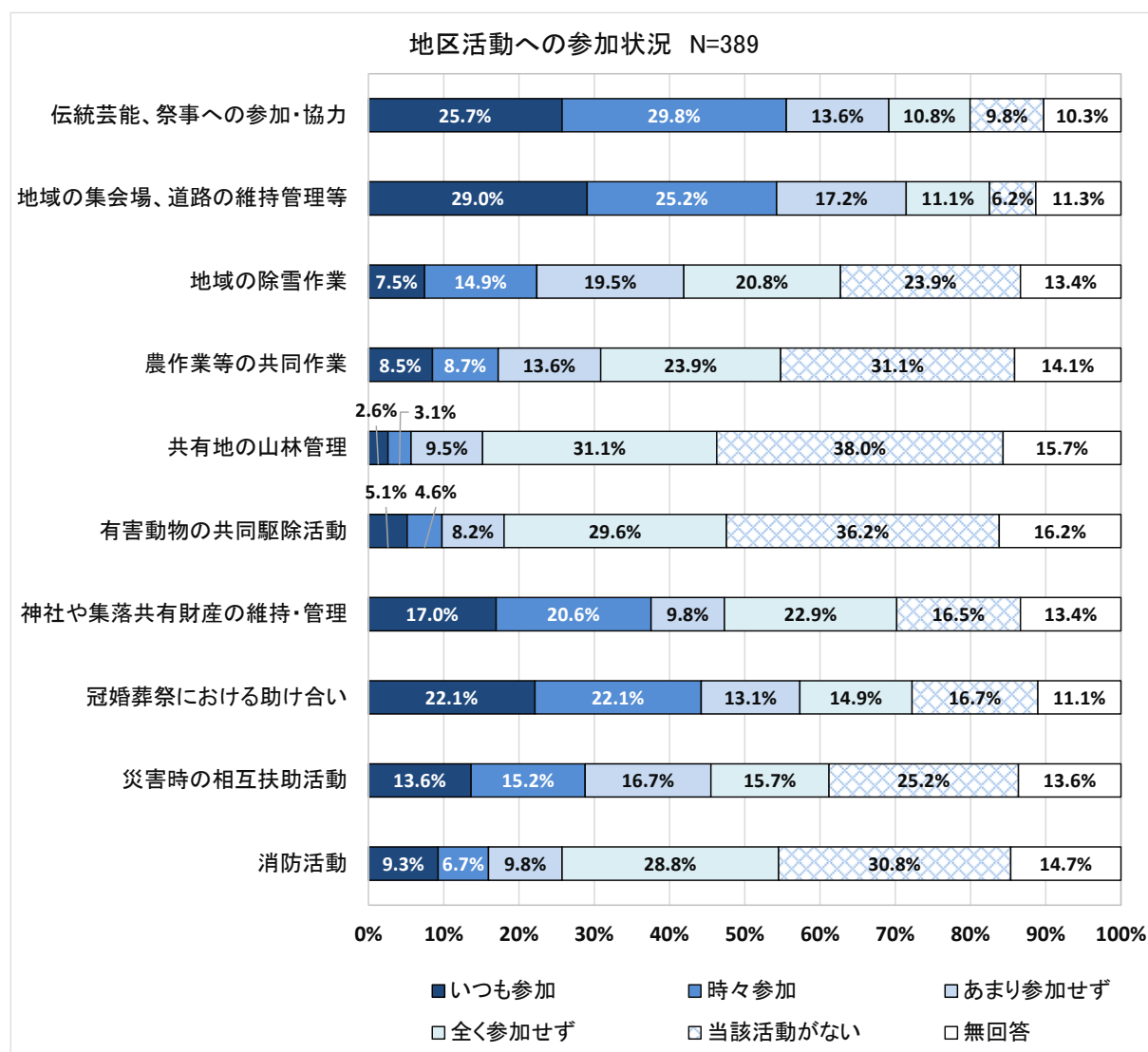


	大変満足	満足	どちらでもない	不満	大変不満	無回答
幹線道路や生活道路の整備状況	13.4%	51.9%	19.3%	5.7%	0.3%	9.5%
上水道(簡易水道)の整備状況	18.5%	59.6%	11.6%	2.1%	0.0%	8.2%
下水・ごみ・し尿の処理	17.0%	57.6%	13.9%	2.3%	0.3%	9.0%
集会所などの整備状況	9.8%	41.4%	32.4%	6.2%	1.0%	9.3%
病院などの保健・医療・福祉施設の整備状況	4.4%	32.6%	41.9%	9.8%	1.8%	9.5%
休日・夜間の救急医療体制	2.3%	13.6%	50.4%	18.8%	3.1%	11.8%
福祉サービス(在宅福祉など)の状況	2.8%	21.9%	57.8%	4.1%	0.5%	12.9%
地域の福祉(介護分野・障害分野)のサービス	2.8%	20.1%	57.3%	5.4%	1.0%	13.4%
地域の産前産後サポート・育児支援サービス	2.1%	16.5%	61.2%	2.8%	0.8%	16.7%
地域における健康づくりの取組	4.4%	27.0%	54.2%	1.8%	0.5%	12.1%
小中学校への通いやすさ	8.7%	31.6%	39.6%	5.1%	0.0%	14.9%
高校への通いやすさ	0.8%	5.1%	36.2%	29.3%	12.6%	15.9%
保育環境や子どもの遊び場の充実度	5.7%	23.4%	45.5%	8.0%	2.6%	14.9%
教育環境(特色のある学校教育等)の充実度	2.8%	19.5%	53.0%	7.7%	1.3%	15.7%
子育てに対する地域の協力	3.1%	22.6%	54.8%	3.9%	0.8%	14.9%
鉄道やバスなどの公共交通の利便性	0.5%	17.5%	37.5%	24.9%	9.3%	10.3%
インターネットなどの情報通信環境	5.9%	29.3%	37.8%	9.8%	3.9%	13.4%
携帯電話の通信状況	5.9%	45.5%	24.9%	8.0%	3.9%	11.8%
テクノロジーの活用	0.5%	9.8%	62.5%	6.9%	2.3%	18.0%
身近に購入できる買い物の便利さ	1.3%	10.8%	32.1%	35.2%	11.1%	9.5%
日常的な娯楽施設の整備状況	1.0%	8.0%	48.1%	23.7%	8.0%	11.3%
芸術・文化に触れる機会	0.8%	8.2%	49.1%	21.6%	7.7%	12.6%
自然環境の保全状況	2.8%	24.2%	54.5%	5.4%	1.3%	11.8%
伝統文化や祭り等の地域文化の保存状況	2.1%	22.4%	57.8%	5.7%	0.8%	11.3%
洪水・土砂災害等の災害に対する安全性	1.8%	16.7%	45.8%	22.4%	3.6%	9.8%
かかる生活費について	1.8%	14.4%	51.2%	17.7%	5.1%	9.8%

問 11 居住自治区(集落)の活動について

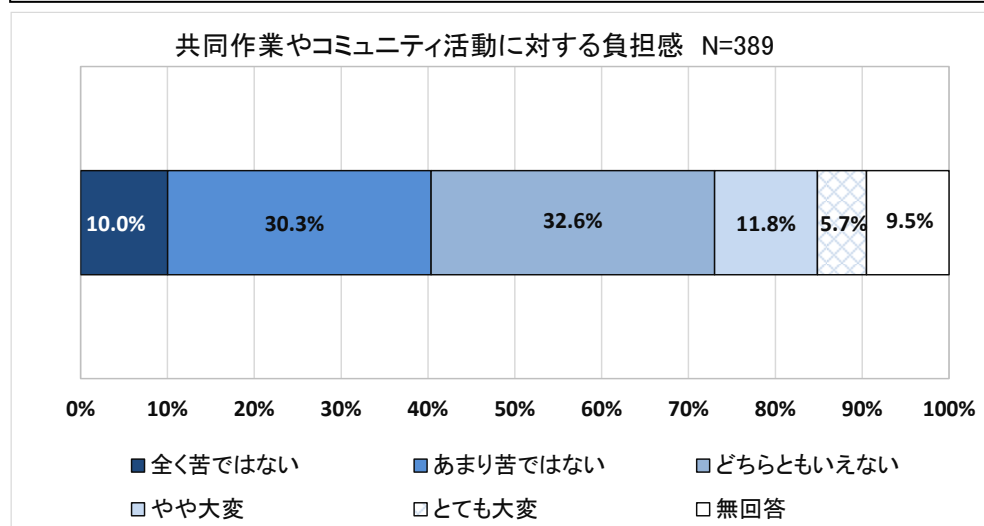
① 地区活動への参加状況をお聞きます(それぞれ1つに○)。

- 「いつも参加」「時々参加」をあわせた『参加』が多い項目は、「伝統芸能、祭事への参加・協力」(55.5%)、「地域の集会場、道路の維持管理等」(54.2%)であり、過半数以上が参加しています。
- 一方、「あまり参加せず」「全く参加せず」をあわせた『不参加』が多い項目は、「共有地の山林管理」(40.6%)、「地域の除雪作業」(40.3%)となっています。農地や山林管理に関する項目が低い状況となっています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「伝統芸能、祭事の協力・参加」、「地域の集会場、道路の維持管理」は参加率が10%以上増加しています。



② 共同作業やコミュニティ活動に対する負担感についてお聞きます(1 つに○)。

- 共同作業などに対する負担について、『苦ではない』と思う人は全体で 40.3%であり、『大変』と思う人は全体で 17.5%となっています。
- 年齢別に見ると、「あまり苦ではない」または「どちらでもない」のいずれかが高い割合となっています。住居期間別に見ても、同様に属性による大きな違いは見られません。

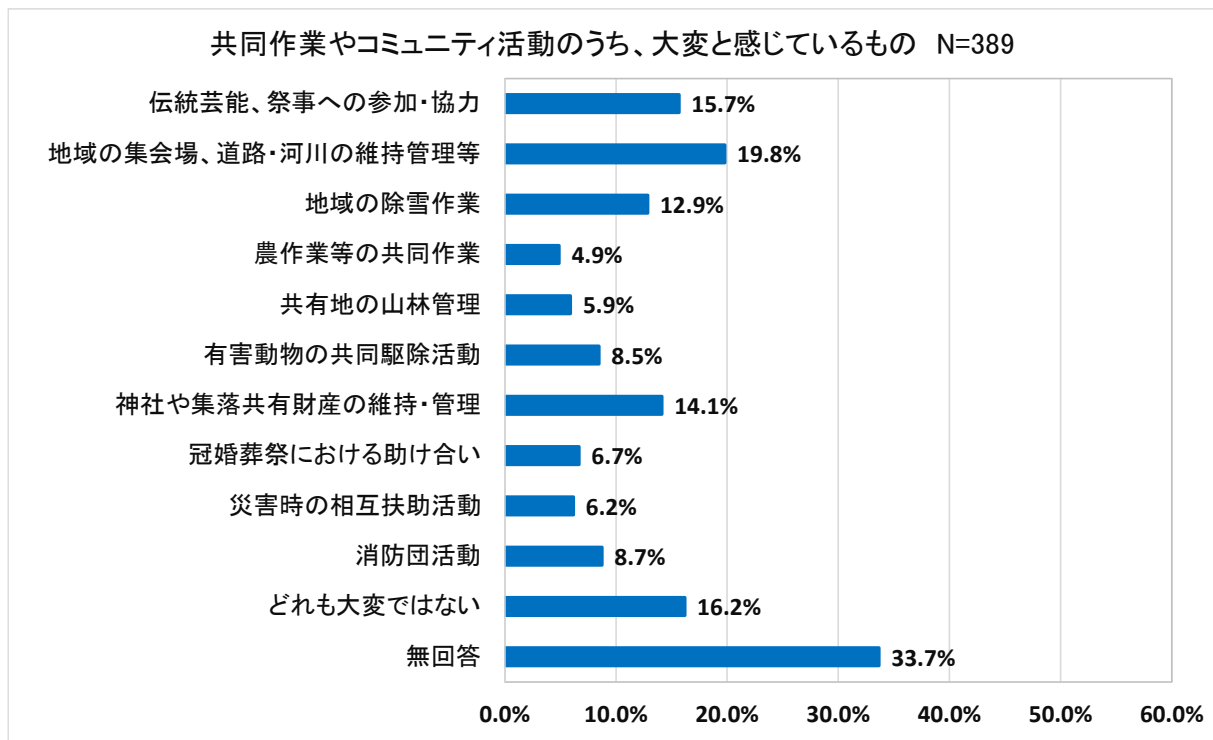


<年齢別・住居期間別における「共同作業やコミュニティ活動に対する負担感について」のクロス集計結果>

	回答者数	全く苦ではない	あまり苦ではない	どちらともいえない	やや大変	とても大変	無回答
計	389	39	118	127	46	22	37
割合(%)		10.0	30.3	32.6	11.8	5.7	9.5
(年齢別)							%
10 歳代	4	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0
20 歳代	23	17.4	17.4	43.5	17.4	4.3	0.0
30 歳代	50	10.0	36.0	28.0	12.0	6.0	8.0
40 歳代	55	5.5	36.4	34.5	16.4	5.5	1.8
50 歳代	48	6.3	35.4	37.5	10.4	4.2	6.3
60 歳代	98	9.2	29.6	33.7	12.2	3.1	12.2
70 歳代	57	12.3	35.1	29.8	10.5	8.8	3.5
80 歳以上	51	15.7	19.6	23.5	5.9	7.8	27.5
(住居期間別)							%
2年未満	39	10.3	41.0	33.3	12.8	0.0	2.6
2年以上5年未満	28	7.1	53.6	28.6	7.1	0.0	3.6
5年以上10年未満	27	18.5	33.3	33.3	3.7	11.1	0.0
10年以上20年未満	45	4.4	22.2	37.8	20.0	11.1	4.4
20年以上30年未満	50	10.0	24.0	40.0	16.0	2.0	8.0
30年以上	196	10.2	28.6	29.6	10.7	6.1	14.8

③ 共同作業やコミュニティ活動のうち大変と感じているものはありますか。(あてはまるもの、3 つまで○)

- 「地域の集会場、道路・河川の維持管理等」(19.8%)が最も多く、次いで「どれも大変ではない」(16.7%)、「伝統芸能、祭事への参加・協力」(15.7%)の順となっています(無回答を除く)。
- 年齢別に見ると、70 歳代では「神社や集落共有財産の維持・管理」(28.1%)であり、また、20 歳代では「どれも大変ではない」(30.4%)となり、他の年齢と比較すると割合が高くなっています。
- 住居期間別にみると、「どれも大変ではない」の割合が2年未満(30.8%)、2 年以上 5 年未満(25.0%)であり、他の住居期間と比べると割合が高くなっています。

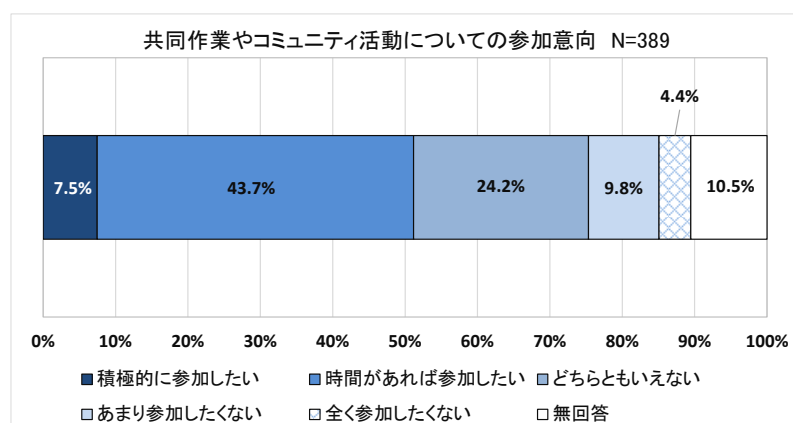


＜年齢別・住居期間別における「共同作業やコミュニティ活動のうち大変と感じているものについて」のクロス集計結果＞

	回答者数	伝統芸能、祭事への参加・協力	地域の集会場、道路・河川の維持管理等	地域の除雪作業	農作業等の共同作業	共有地の山林管理	有害動物の共同駆除活動	神社や集落共有財産の維持・管理	冠婚葬祭における助け合い	災害時の相互扶助活動	消防団活動	どれも大変ではない	無回答
計	389	61	77	50	19	23	33	55	26	24	34	63	125
割合(%)		15.7	19.8	12.9	4.9	5.9	8.5	14.1	6.7	6.2	8.7	16.2	33.7
(年齢別)													%
10 歳代	4	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
20 歳代	23	17.4	13.0	8.7	13.0	0.0	4.3	0.0	8.7	0.0	4.3	30.4	34.8
30 歳代	50	16.0	16.0	12.0	4.0	2.0	2.0	12.0	4.0	4.0	16.0	22.0	34.0
40 歳代	55	21.8	21.8	7.3	3.6	0.0	1.8	12.7	14.5	1.8	29.1	18.2	23.6
50 歳代	48	25.0	18.8	14.6	0.0	8.3	6.3	18.8	6.3	8.3	4.2	14.6	27.1
60 歳代	98	12.2	17.3	13.3	5.1	10.2	7.1	11.2	4.1	8.2	5.1	21.4	33.7
70 歳代	57	17.5	28.1	12.3	8.8	5.3	19.3	28.1	7.0	7.0	0.0	8.8	29.8
80 歳代	51	3.9	17.6	17.6	3.9	7.8	17.6	9.8	5.9	9.8	3.9	3.9	51.0
(住居期間別)													%
2年未満	39	10.3	2.6	15.4	5.1	2.6	2.6%	5.1	2.6	0.0	15.4	30.8	30.8
2 年以上 5 年未満	28	7.1	17.9	14.3	3.6	0.0	0.0	3.6	0.0	3.6	14.3	25.0	39.3
5 年以上 10 年未満	27	22.2	14.8	11.1	3.7	11.1	7.4	14.8	7.4	0.0	14.8	22.2	25.9
10 年以上 20 年未満	45	24.4	22.2	8.9	4.4	2.2	2.2	13.3	15.6	2.2	17.8	15.6	33.3
20 年以上 30 年未満	50	22.0	28.0	10.0	4.0	4.0	8.0	18.0	6.0	10.0	6.0	18.0	28.0
30 年以上	196	13.8	21.4	13.8	5.6	8.2	12.8	16.8	6.6	8.7	4.6	10.7	35.7

④ 共同作業やコミュニティ活動について参加意向をお聞きます。(1 つに○)

- 「積極的に参加したい」「時間があれば参加したい」をあわせた『参加したい』と思う人が 51.2%、「あまり参加したくない」「全く参加したくない」をあわせた『参加したくない』と思う人が 14.2%となっています。
- 年齢別に見ると、40 歳代では、「時間があれば参加したい」(63.6%)と思う人が、他の年齢と比べると高くなっています。一方、20 歳代では、「全く参加したくない」(17.4%)と思う人が、他の年齢と比較すると圧倒的に多くなっています。
- 住居期間別に見ると、『参加したい』と思う人が、2 年未満では 76.9%、5 年以上 10 年未満では 74.1%となり、住居期間の短い人は参加志向が高くなっています。一方で、『参加したくない』と思う人が、10 年以上 20 年未満では 24.5%となり、他と比較すると高くなっています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「参加したい」と思う人が増加しており、特に 40 歳代では 10%以上増加しています。一方、20 歳代の「参加したくない」の割合も増加しています。

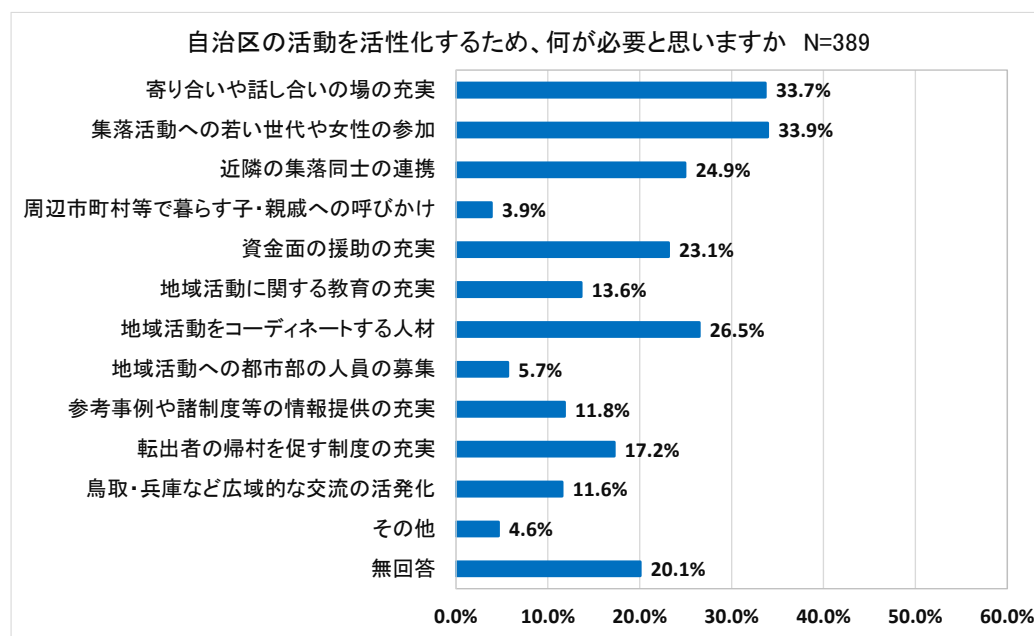


<年齢別・住居期間別における「共同作業やコミュニティ活動について参加意向」のクロス集計結果>

	回答者数	積極的に参加したい	時間があれば参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	全く参加したくない	無回答
計	389	29	170	94	38	17	41
割合(%)		7.5	43.7	24.2	9.8	4.4	10.5
(年齢別) %							
10 歳代	4	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0
20 歳代	23	13.0	39.1	21.7	8.7	17.4	0.0
30 歳代	50	8.0	46.0	28.0	4.0	0.0	14.0
40 歳代	55	1.8	63.6	20.0	5.5	7.3	1.8
50 歳代	48	8.3	50.0	18.8	14.6	4.2	4.2
60 歳代	98	8.2	42.9	27.6	6.1	3.1	12.2
70 歳代	57	5.3	42.1	26.3	17.5	3.5	5.3
80 歳代	51	11.8	23.5	25.5	11.8	2.0	25.5
(住居期間別) %							
2 年未満	39	5.1	71.8	10.3	5.1	0.0	7.7
2 年以上 5 年未満	28	7.1	50.0	32.1	3.6	3.6	3.6
5 年以上 10 年未満	27	11.1	63.0	14.8	3.7	3.7	3.7
10 年以上 20 年未満	45	6.7	40.0	20.0	15.6	8.9	8.9
20 年以上 30 年未満	50	6.0	32.0	36.0	12.0	6.0	8.0
30 年以上	196	8.2	38.8	25.5	9.7	3.6	14.3

⑤ 自治区の活動を活性化するため、何が必要と思いますか。(すべてに○)

- 「集落活動への若い世代や女性の参加」(33.9%)が最も多く、次いで「寄り合いや話し合いの場の充実」(33.7%)、「地域活動をコーディネートする人材」(26.5%)の順となっています。
- 年代別に見ると、70 歳代では「寄り合いや話し合いの場の充実」が 52.6%もあり、他の年齢と比較すると割合が高くなっています。20 歳代では、「集落活動への若い世代や女性の参加」が、47.8%と割合が高くなっています。
- 住居期間別に見ると、2年未満では「地域活動をコーディネートする人材」が 48.7%であり、回答の割合が他の住居期間と比べると高くなっています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「寄り合いや話し合いの場の充実」、「集落活動への若い世代や女性の参加」の割合が増加し、地域コミュニティの充実や女性参加を望む考えが多くなっています。一方、「転出者の帰村を促す制度の充実」では凡そ半分となり、大幅に減少しています。



<その他の記述回答>

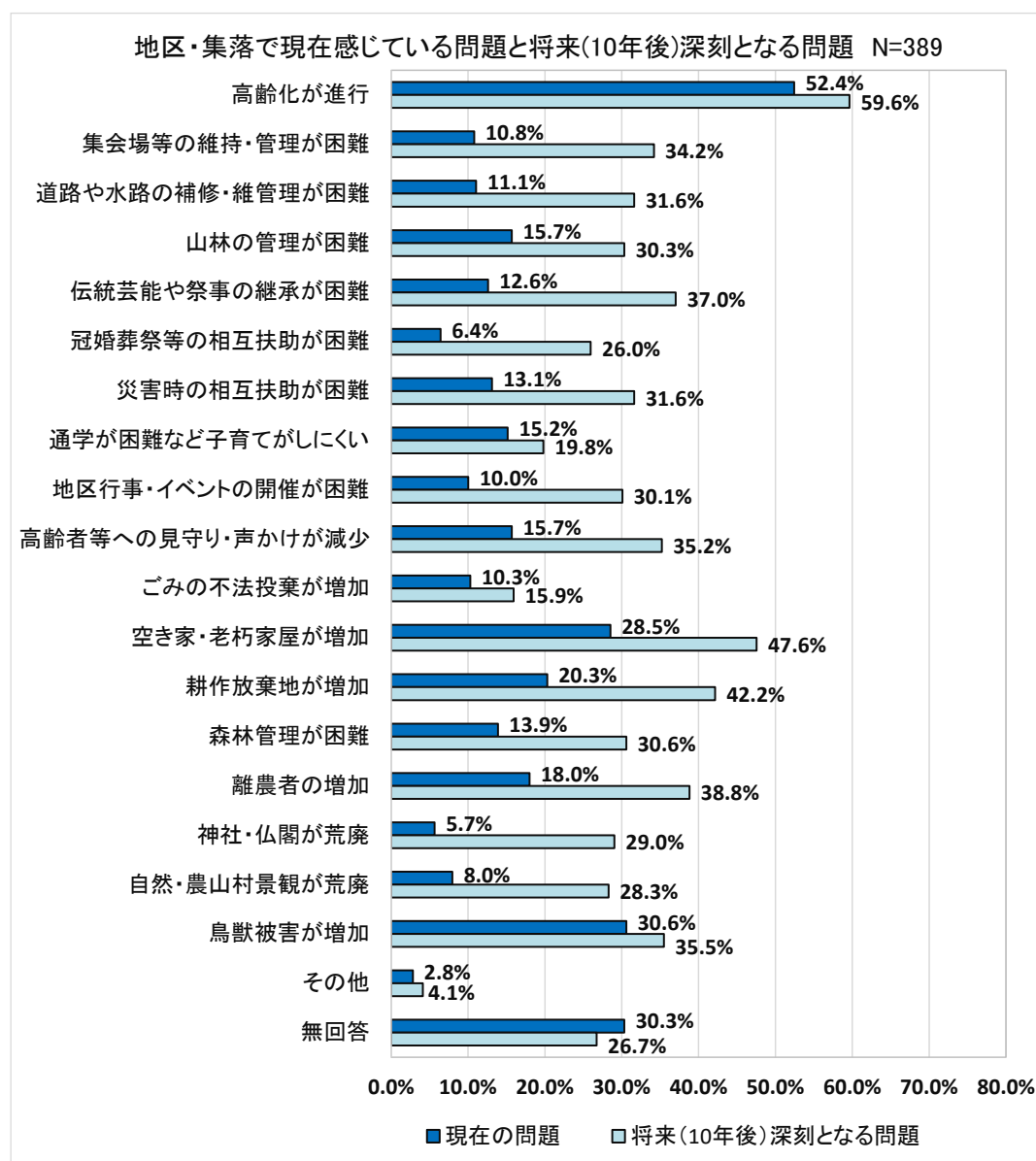
- ・ Iターン者の取り込み
- ・ 時間
- ・ Iターン者の積極的参加
- ・ 将来を話し合う機会、世代交代
- ・ 高齢者が動くこと
- ・ 若い人間で、まじめで頭の良い人は必要
- ・ 各地区における村営住宅の建設など住宅不足の解消
- ・ 活動をもっとオープンにして、参加しやすい雰囲気が必要。
- ・ 人不足
- ・ 時間的余裕
- ・ 活動の取捨選択
- ・ 老害の引退
- ・ わからない (3)

＜年齢別・住居期間別における「自治区の活動を活性化するため、何が必要と思いますか」のクロス集計結果＞

	回答者数	寄り合いや話し合いの場の充実	集落活動への若い世代や女性の参加	近隣の集落同士の連携	周辺市町村等で暮らす子・親戚への呼びかけ	資金面の援助の充実	地域活動に関する教育の充実	地域活動をコーディネートする人材	地域活動への都市部の人員の募集	参考事例や諸制度等の情報提供の充実	転出者の帰村を促す制度の充実	鳥取・兵庫など広域的な交流の活発化	その他	無回答
計	389	131	132	97	15	90	53	103	22	46	67	45	18	78
割合(%)		33.7	33.9	24.9	3.9	23.1	13.6	26.5	5.7	11.8	17.2	11.6	4.6	20.1
(年齢別)														%
10 歳代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0
20 歳代	23	30.4	47.8	34.8	8.7	21.7	21.7	21.7	8.7	13.0	4.3	13.0	4.3	0.0
30 歳代	50	22.0	22.0	24.0	2.0	28.0	16.0	22.0	6.0	16.0	14.0	16.0	10.0	22.0
40 歳代	55	10.9	32.7	27.3	1.8	21.8	18.2	41.8	14.5	3.6	10.9	18.2	7.3	14.5
50 歳代	48	33.3	31.3	18.8	4.2	27.1	4.2	27.1	0.0	12.5	12.5	6.3	8.3	18.8
60 歳代	98	38.8	32.7	16.3	1.0	21.4	8.2	30.6	2.0	11.2	17.3	7.1	1.0	26.5
70 歳代	57	52.6	45.6	33.3	7.0	26.3	17.5	19.3	7.0	19.3	29.8	12.3	3.5	12.3
80 歳以上	51	39.2	33.3	33.3	5.9	15.7	17.6	17.6	5.9	9.8	23.5	11.8	0.0	29.4
(住居期間別)														%
2年未満	39	20.5	33.3	28.2	7.7	15.4	20.5	48.7	17.9	20.5	2.6	28.2	10.3	10.3
2年以上 5年未満	28	21.4	28.6	21.4	0.0	17.9	21.4	35.7	10.7	10.7	21.4	14.3	3.6	10.7
5年以上 10年未満	27	14.8	44.4	29.6	3.7	29.6	11.1	22.2	3.7	11.1	14.8	11.1	11.1	3.7
10年以上 20年未満	45	22.2	20.0	28.9	0.0	17.8	22.2	37.8	2.2	15.6	22.2	20.0	2.2	24.4
20年以上 30年未満	50	36.0	32.0	26.0	2.0	26.0	12.0	18.0	8.0	6.0	14.0	6.0	12.0	22.0
30年以上	196	41.8	37.8	23.5	5.1	25.0	10.2	20.9	3.1	11.2	19.9	7.1	1.5	24.0

⑥ 地区・集落で発生している問題についてお聞きます。現在感じている問題と将来(10 年後)深刻となる問題についてそれぞれお答えください。(それぞれあてはまるものすべてに○)

- 「高齢化が進行」は、現在(52.4%)・将来(59.6%)のどちらにおいても、項目の中で割合が最も高くなっており、重大な問題であることが分かります。
- 次いで、現在の問題は「鳥獣被害が増加」(30.6%)、「空き家・老朽家屋が増加」(28.5%)の順となっています。一方、将来の問題は次いで、「空き家・老朽家屋が増加」(47.6%)、「耕作放棄地が増加」(42.2%)の順となっており、ともに 4 割を超え、割合が高くなっています。
- 年代別に見ても、どの年代においても「高齢化が進行」が他の項目と比べると多くなっています。
- 過去のアンケートと比較すると、「鳥獣被害の増加」を現在感じている問題として考えている人の割合が半分となり、大幅に減少しています。一方、「空き家・老朽家屋」、「耕作放棄地」を将来深刻となる問題と認識している方が 10%程度増加しており、重要な問題としての認識が上昇したことが分かります。



<その他の記述回答>

○現在感じている問題	○将来(10 年後)深刻となる問題
・ 集会場はあまり使用していない ・ 冠婚葬祭では、見たことのない人のお葬式の手伝い ・ 高校の選択肢が少ない ・ 空き家なのに人に貸していない ・ 耕作放棄地がすでに発生している ・ 若い人が多い ・ 居住して 4 ヶ月でわからない ・ 特に深刻な事は無い。10 年前から変わっていない。 ・ 地元の高齢者と I ターン者との交流が少なく、どこの誰かが分からない。 ・ 一部の人間が自己の利益のみを追求している。地区の役職を一部の人間に押し付けている。 ・ 近隣市町からの遅れ ・ 子どもが少ない ・ 外から入ってきた近隣の人との関係悪化が進む一方 ・ ゴミの出し方を理解していない人がいる	・ 集会場は使う人がいるか ・ 森林管理不足による災害の発生 ・ 神社、仏閣の荒廃は風景として良くない ・ 現在より荒廃し深刻となりうる。 ・ 空き家の増加 (2) ・ 伝統芸能が困難、 ・ 耕作放棄地の増加 ・ 高齢者もいなくなる ・ 全ての問題は高齢化と人口減少 ・ 独居家庭が空き家となる ・ 若い人が少なくなる ・ 若い人の定住と仕事場が多くなること ・ 居住して 4 ヶ月でわからない ・ 戦争中の如き教育が必要でなければ、金銭的駄目 ・ わからない。これからの 10 年間の村人、役場の対応でそれぞれ変化する。 ・ 国道沿いはまだ良いが、谷の集落の荒廃 ・ 今の I ターン者の多くが 40～50 代となり、高齢者に何かあった時に助け合いを行う中心に立つべきなのだが、地域とのかかわりが少なく助けられない。 ・ I ターン者が自分の親の介護で西栗倉にいない可能性がある ・ コミュニティの維持が難しい

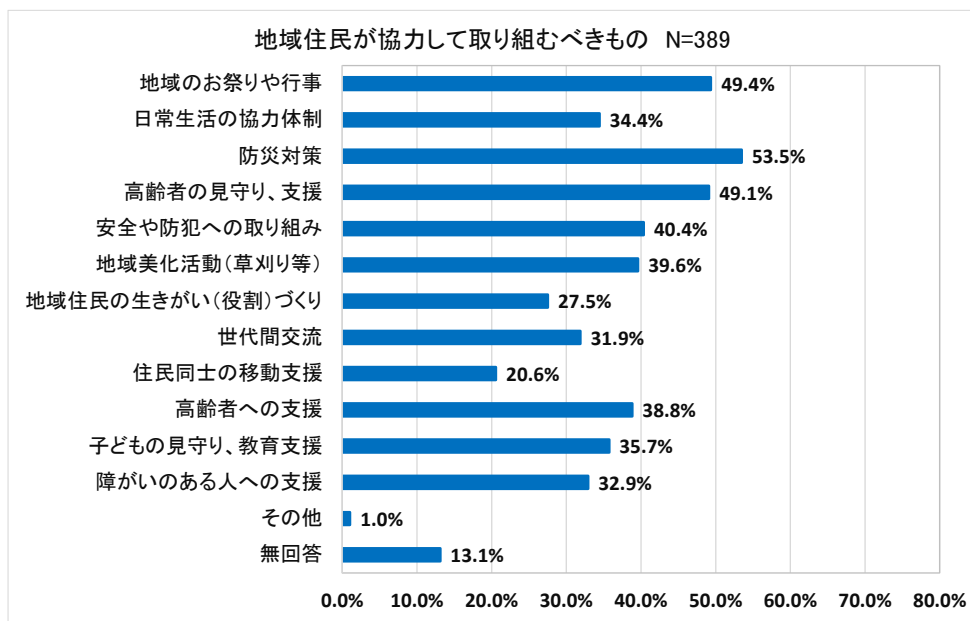
＜年齢別における「地区・集落で現在感じている問題と将来(10 年後)深刻となる問題」のクロス集計結果＞

	回答者数	高齢化が進行	集会場等の維持・管理が困難	難 道路や水路の補修・維管理が困	山林の管理が困難	伝統芸能や祭事の継承が困難	冠婚葬祭等の相互扶助が困難	災害時の相互扶助が困難	い 通学が困難など子育てがしにく	地区行事・イベントの開催が困難	少 高齢者等への見守り・声かけが減
計	389	204	42	43	61	49	25	51	59	39	61
割合(%)		52.4	10.8	11.1	15.7	12.6	6.4	13.1	15.2	10.0	15.7
(年齢別) %											
10 歳代	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
20 歳代	23	60.9	8.7	4.3	13.0	8.7	4.3	13.0	8.7	8.7	13.0
30 歳代	50	56.0	16.0	14.0	18.0	20.0	8.0	18.0	18.0	14.0	24.0
40 歳代	55	63.6	7.3	9.1	9.1	3.6	1.8	18.2	16.4	12.7	16.4
50 歳代	48	50.0	14.6	6.3	16.7	8.3	8.3	14.6	27.1	12.5	16.7
60 歳代	98	48.0	8.2	10.2	15.3	14.3	6.1	7.1	13.3	4.1	14.3
70 歳代	57	59.6	15.8	22.8	22.8	22.8	8.8	15.8	14.0	15.8	17.5
80 歳以上	51	39.2	3.9	7.8	15.7	5.9	7.8	9.8	5.9	5.9	7.8

	ごみの不法投棄が増加	空き家・老朽家屋が増加	耕作放棄地が増加	森林管理が困難	離農者の増加	神社・仏閣が荒廃	自然・農山村景観が荒廃	鳥獣被害が増加	その他	無回答
計	40	111	79	54	70	22	31	119	11	118
割合(%)	10.3%	28.5%	20.3%	13.9%	18.0%	5.7%	8.0%	30.6%	2.8%	30.3%
(年齢別) %										
10 歳代	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
20 歳代	4.3	34.8	4.3	8.7	17.4	0.0	4.3	13.0	13.0	17.4
30 歳代	10.0	34.0	26.0	20.0	16.0	2.0	6.0	32.0	2.0	30.0
40 歳代	7.3	29.1	9.1	3.6	9.1	3.6	3.6	21.8	3.6	20.0
50 歳代	8.3	27.1	20.8	16.7	20.8	6.3	6.3	33.3	4.2	25.0
60 歳代	8.2	28.6	22.4	13.3	18.4	3.1	6.1	35.7	0.0	35.7
70 歳代	17.5	33.3	24.6	15.8	22.8	17.5	17.5	42.1	3.5	21.1
80 歳以上	11.8	15.7	25.5	19.6	19.6	3.9	9.8	23.5	2.0	51.0

⑦ 地域住民が協力して取り組むべきものだと思う項目をお答えください(すべてに○)

- 「防災対策」(53.5%)が最も多く、次いで「地域のお祭りや行事」(49.4%)、「高齢者の見守り、支援」(49.1%)の順となっています。
- 年齢別に見ると、50 歳代では「防災対策」(68.8%)であり、他の年齢と比較すると多くなっています。



<その他の記述回答>

- ・ どの項目も類似しており、答えにくい。
- ・ 民法の改正がなければ、空家が益々増加。

<年齢別における「地域住民が協力して取り組むべきもの」のクロス集計結果>

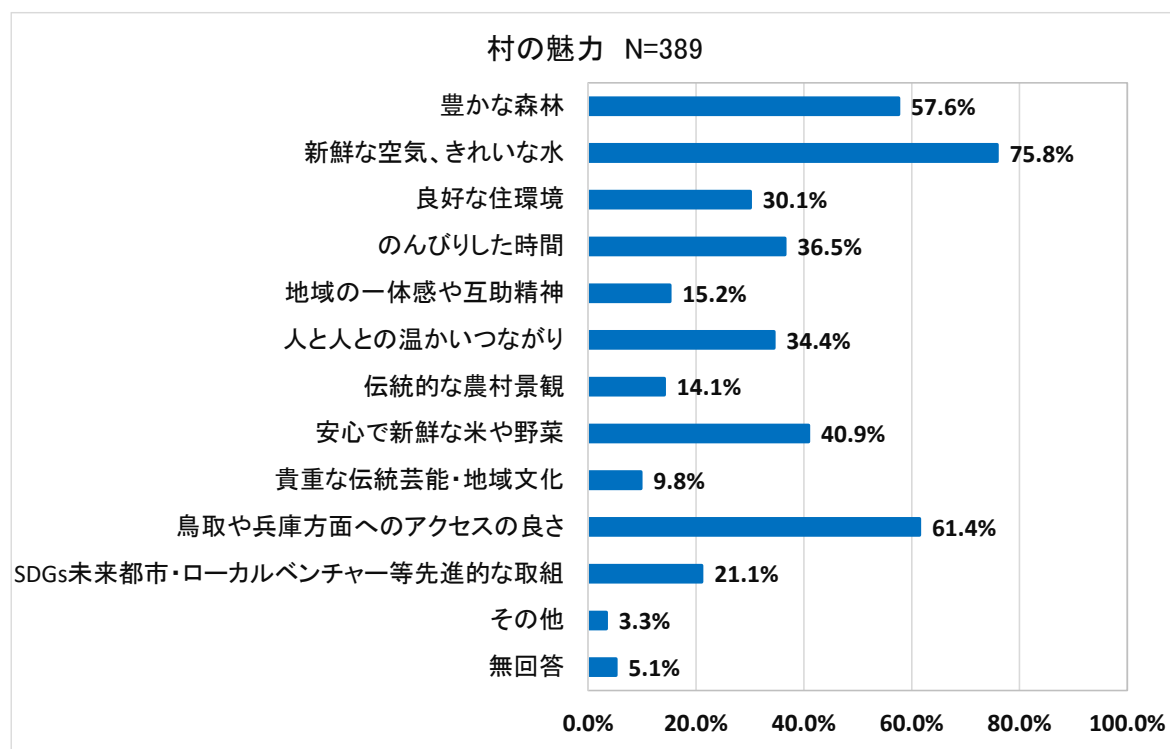
	回答者数	地域のお祭りや行事	日常生活の協力体制	防災対策	高齢者の見守り、支援	安全や防犯への取り組み	地域美化活動（草刈り等）	地域住民の生きがい（役割づくり）
計	389	192	134	208	191	157	154	107
割合(%)		49.4	34.4	53.5	49.1	40.4	39.6	27.5
(年齢別) %								
10 歳代	4	25.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
20 歳代	23	56.5	52.2	47.8	47.8	30.4	34.8	17.4
30 歳代	50	44.0	26.0	50.0	40.0	26.0	34.0	28.0
40 歳代	55	45.5	25.5	52.7	45.5	38.2	40.0	30.9
50 歳代	48	50.0	33.3	68.8	47.9	35.4	37.5	27.1
60 歳代	98	48.0	35.7	53.1	52.0	46.9	38.8	25.5
70 歳代	57	59.6	42.1	56.1	57.9	54.4	49.1	31.6
80 歳以上	51	49.0	33.3	43.1	47.1	37.3	39.2	25.5

	世代間交流	住民同士の移動支援	高齢者への支援	子どもの見守り、教育支援	障がいのある人への支援	その他	無回答
計	124	80	151	139	128	4	51
割合(%)	31.9%	20.6%	38.8%	35.7%	32.9%	1.0%	13.1%
(年齢別) %							
10 歳代	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0
20 歳代	43.5	30.4	52.2	56.5	39.1	0.0	8.7
30 歳代	40.0	24.0	34.0	44.0	32.0	0.0	20.0
40 歳代	38.2	14.5	29.1	38.2	21.8	0.0	7.3
50 歳代	25.0	14.6	33.3	33.3	27.1	2.1	12.5
60 歳代	25.5	23.5	37.8	35.7	37.8	1.0	11.2
70 歳代	35.1	21.1	52.6	31.6	42.1	0.0	7.0
80 歳以上	25.5	17.6	39.2	23.5	29.4	3.9	23.5

問 12 西粟倉の魅力や将来の村づくりについて

① 村の魅力は何だと思いますか(すべてに○)。

- 「新鮮な空気、きれいな水」(75.8%)と最も多く、次いで「鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ」(61.4%)、「豊かな森林」(57.6%)の順となっています。
- 年齢別を見ると、50 歳代で「新鮮な空気、きれいな水」(81.3%)であり、またどの年齢においても「新鮮な空気、きれいな水」を回答した人が7割を超えており、村内の自然環境に魅力を感じている人が多いことが分かります。
- 10 歳代・20 歳代では、「豊かな森林」を7割以上が選択しており、他の世代に比べ高い割合となっています。また、「SDGs 未来都市・ローカルベンチャー等先進的な取組」は20～40 歳代は、3割から4割を占める一方、50 歳代以上は2割、またそれ以下の占める割合となっており、世代による差異が出ています。
- 「新鮮な空気や水」、「豊かな森林」など村内の自然環境に関しては、過去のアンケート結果と同様に高い評価になっています。また、どの年齢においても「鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ」については20%以上の大幅な増加が見られています。



<その他の記述回答>

- ・ ベンチャースピリット
- ・ 中学校までの子育て環境はすばらしい
- ・ 人と人の距離感がほどよい
- ・ 村に価値があると住民が信じていること
- ・ 特になし
- ・ 森林だけでなく、昔の様にワラビ、フキ等のとれる森が再現出来る事
- ・ 民間へのアウトソーシングも含めて事業を積極的に進めていくところ
- ・ 村役場が主体で取り組んでいて安心です
- ・ 住民同士のほどよい距離感
- ・ オープンな気質
- ・ 排他的なところが少ない
- ・ 見た目、言葉だけ

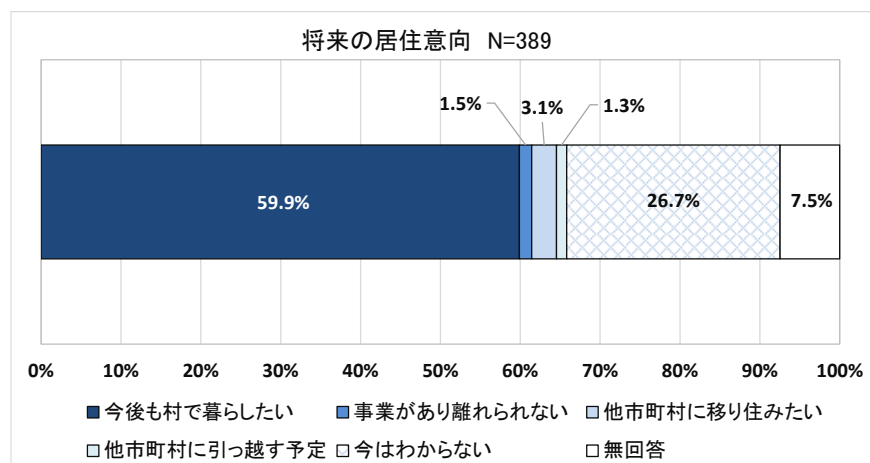
<年齢別における「村の魅力」のクロス集計結果>

	回答者数	豊かな森林	新鮮な空気、きれいな水	良好な住環境	のんびりした時間	地域の一体感や互助精神	人と人との温かいつながり
計	389	224	295	117	142	59	134
割合(%)		57.6	75.8	30.1	36.5	15.2	34.4
(年齢別)							%
10 歳代	4	75.0	100.0	50.0	50.0	25.0	75.0
20 歳代	23	73.9	73.9	21.7	34.8	0.0	39.1
30 歳代	50	56.0	70.0	22.0	32.0	18.0	32.0
40 歳代	55	58.2	76.4	16.4	29.1	12.7	32.7
50 歳代	48	43.8	81.3	29.2	33.3	14.6	22.9
60 歳代	98	55.1	76.5	34.7	38.8	17.3	30.6
70 歳代	57	63.2	77.2	35.1	42.1	10.5	42.1
80 歳代	51	64.7	74.5	43.1	41.2	23.5	45.1

	伝統的な農村景観	安心して新鮮な米や野菜	貴重な伝統芸能・地域文化	鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ	SDGs 未来都市・ローカルベンチャー等先進的な取組	その他	無回答
計	55	159	38	239	82	13	20
割合(%)	14.1	40.9	9.8	61.4	21.1	3.3	5.1
(年齢別)							%
10 歳代	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	8.7	30.4	13.0	65.2	39.1	4.3	0.0
30 歳代	8.0	30.0	14.0	58.0	36.0	10.0	8.0
40 歳代	12.7	36.4	3.6	49.1	32.7	5.5	1.8
50 歳代	14.6	35.4	14.6	64.6	22.9	0.0	0.0
60 歳代	14.3	44.9	8.2	68.4	17.3	2.0	7.1
70 歳代	22.8	45.6	10.5	68.4	3.5	0.0	3.5
80 歳以上	15.7	52.9	9.8	54.9	13.7	3.9	9.8

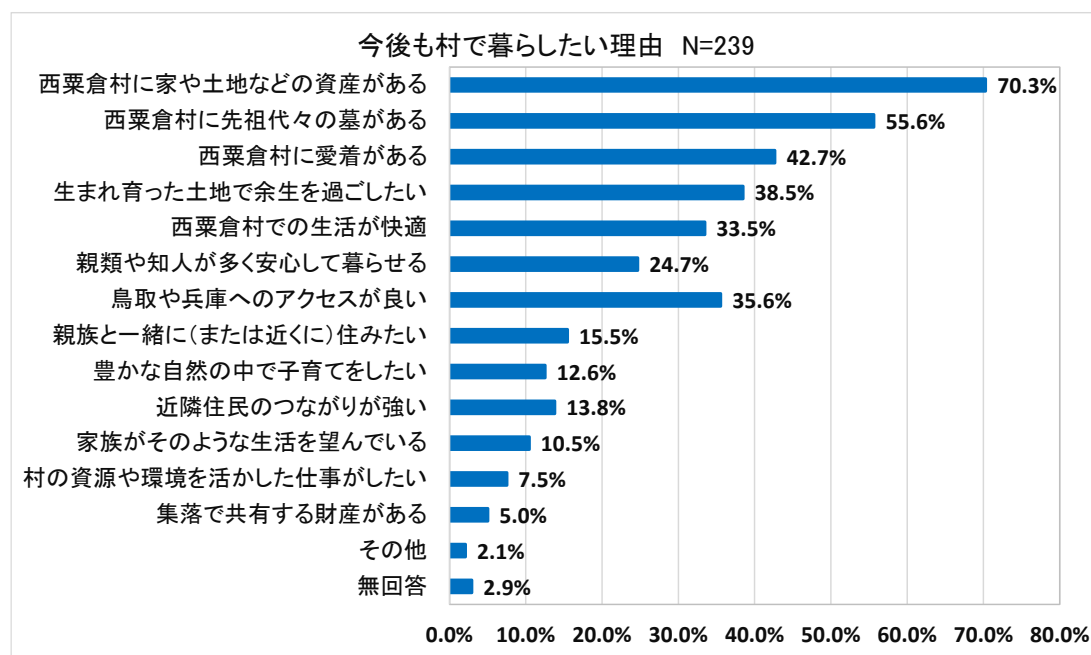
② 将来の居住意向についてお聞きます(1 つに○)。

- 「今後も村で暮らしたい」、「事業があり離れられない」と思う人が 61.4%であり、「他市町村に移り住みたい」、「他市町村に引っ越す予定」と思う人が 4.4%となっています。
- 「今はわからない」が 26.7%であり、全体の 1/4 の割合をしめています。
- 過去のアンケートと比較すると、居住意向に変化はほとんど見られません。



③ 前問②で「1.今後も村で暮らしたい」「2.事業があり離れられない」を選択した方にお聞きます。その理由に該当する番号に○をつけてください。(すべてに○)

- 「西粟倉村に家や土地などの資産がある」が 70.3%と最も多く、次いで「西粟倉村に先祖代々の墓がある」(55.6%)、「西粟倉村に愛着がある」(42.7%)の順となっています。
- 家や土地、墓などの地縁的理由は過去のアンケート結果と同様に多くなっていますが、「兵庫や鳥取へのアクセスの良さ」の割合が倍増しています。

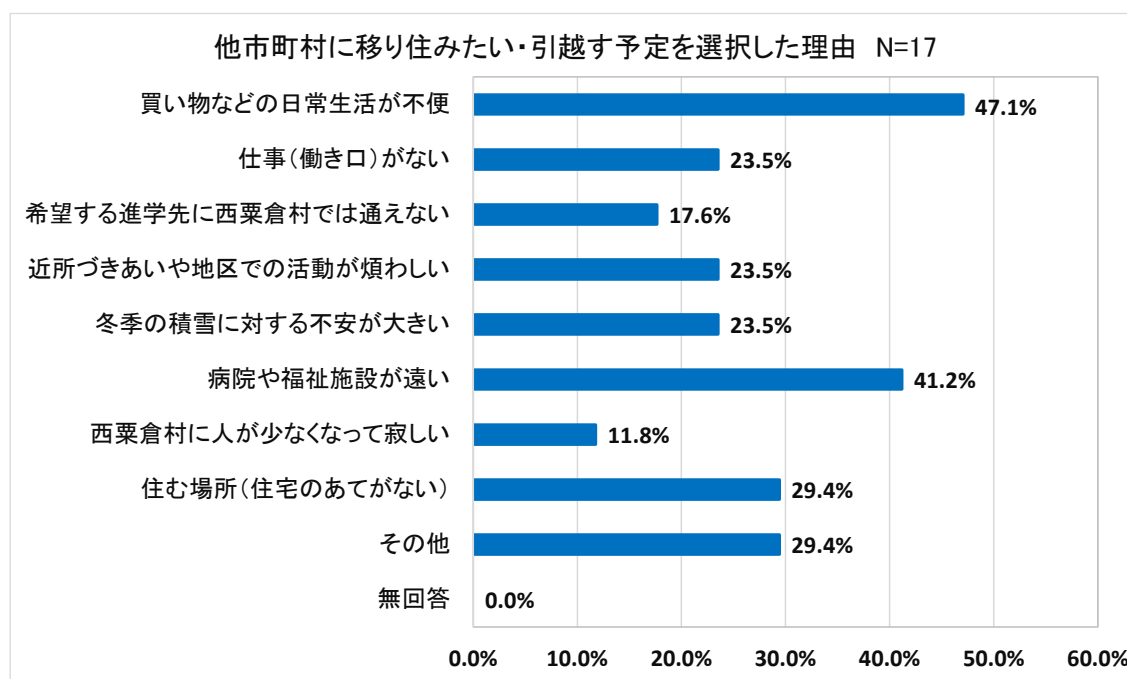


<その他の記述回答>

- ・ 理由なんかない
- ・ 水がおいしい
- ・ 通勤環境
- ・ ただ好きだから
- ・ 子どもが大切にされるから

- ④ 前問②で「3.他市町村に移り住みたい」と「4. 他市町村に引越す予定」を選択した方にお聞きます。
その理由に該当する番号に○をつけてください。(すべてに○)

- 「買い物などの日常生活が不便」が 47.1%と最も多く、次いで「病院や福祉施設が遠い」(41.2%)、「住む場所(住宅のあてがない)」(29.4%)の順となっています。
- 「その他」の回答には、大学や研究所がない、地域性に魅力を感じなくなった、住みづらい、などが挙げられています。
- 「買い物などの日常生活が不便」、「病院や福祉施設が遠い」については過去のアンケート結果と同様に多くなっています。一方、「住む場所」に関しては過去のアンケートの2倍以上となっており、住宅需要が大幅に増加していることが分かります。

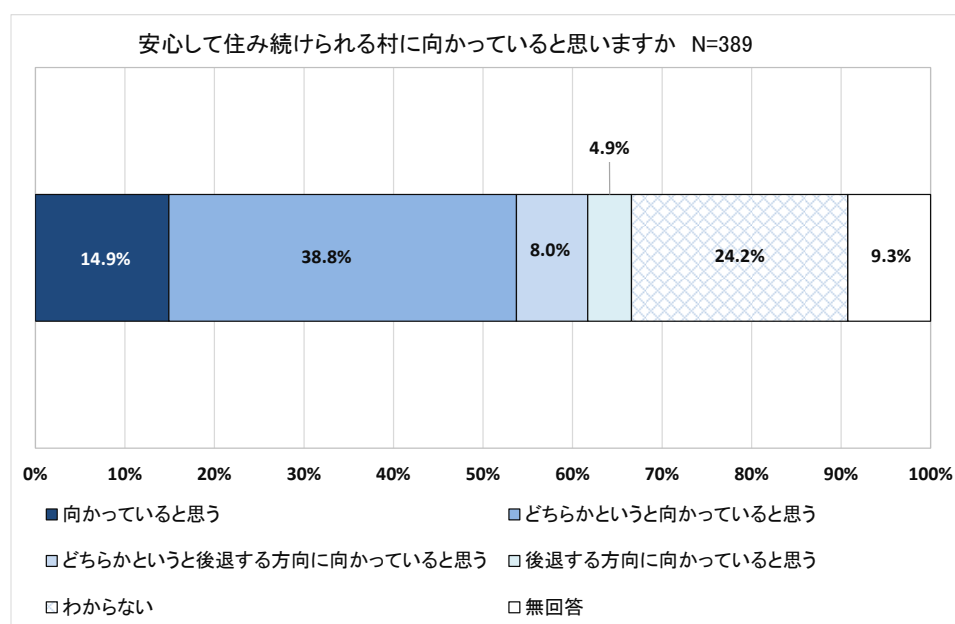


<その他の記述回答>

- ・ 大学、研究所がない
- ・ 家賃が高く、エアコンがない
- ・ いろんな地域に住んでみたい
- ・ 住みづらい。地域性に魅力を感じなくなった。
- ・ 介護が終わったら、前の居住地に戻る

⑤ 安心して住み続けられる村に向かっていると思いますか(1つに○)。

- 「向かっていると思う」、「どちらかという向かっていると思う」をあわせた『向かっている』と思う人が 53.7%であり、「どちらかという後退する方向に向かっていると思う」、「後退する方向に向かっていると思う」をあわせた『後退する方向に向かっている』と思う人が 12.9%となっています。
- 「わからない」と思う人が 24.2%となっており、全体の 1/4 程度となっています。
- 年齢別に見ると、「どちらかという向かっていると思う」において、20 歳代では 52.2%、30 歳代では 54.0%となっており、過半数を上回っています。

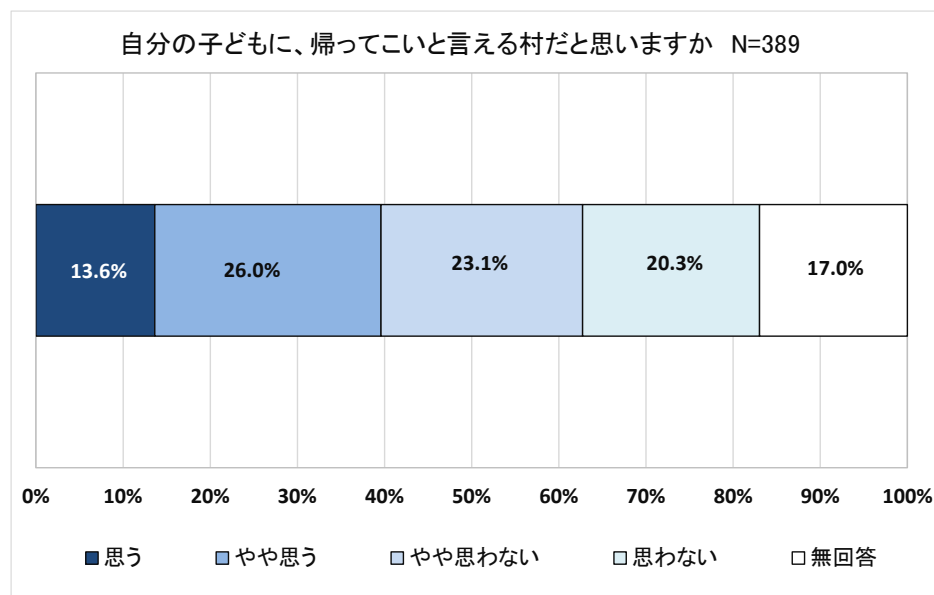


<年齢別における「安心して住み続けられる村に向かっていると思いますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	向かっていると思う	どちらかという向かっていると思う	どちらかという後退する方向に向かっていると思う	後退する方向に向かっていると思う	わからない	無回答
計	389	58	151	31	19	94	36
割合(%)		14.9	38.8	8.0	4.9	24.2	9.3
(年齢別)							%
10 歳代	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0
20 歳代	23	17.4	52.2	8.7	8.7	13.0	0.0
30 歳代	50	16.0	54.0	4.0	6.0	14.0	6.0
40 歳代	55	12.7	45.5	1.8	7.3	32.7	0.0
50 歳代	48	12.5	27.1	27.1	6.3	22.9	4.2
60 歳代	98	11.2	38.8	5.1	3.1	30.6	11.2
70 歳代	57	7.0	42.1	10.5	3.5	26.3	10.5
80 歳以上	51	33.3	23.5	2.0	2.0	17.6	21.6

⑥ 自分の子どもに、帰ってこいと言える村だと思いますか(1つに○)。

- 「思う」、「やや思う」をあわせた『思う』と回答した人が 39.6%であり、「やや思わない」、「思わない」をあわせた『思わない』と回答した人が 43.4%であり、『思う』の回答を上回っています。
- 年齢別に見ると、80 歳代では「思う」が 29.4%であり、他の年齢よりも多くなっています。一方、40 歳代では「思わない」が 25.5%であり、他の年齢よりも多くなっています。

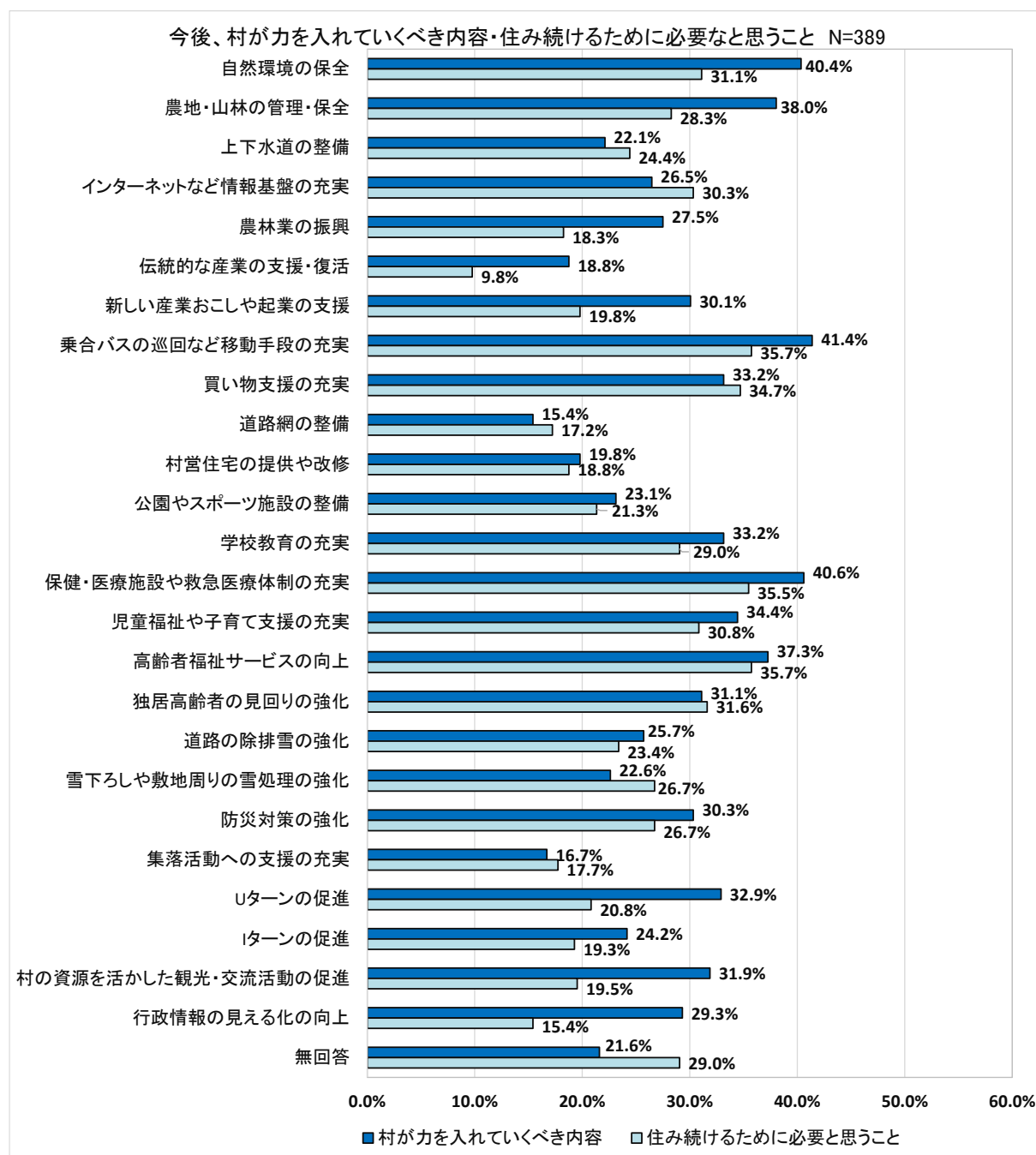


<年齢別における「自分の子どもに、帰ってこいと言える村だと思いますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	思う	やや思う	やや思わない	思わない	無回答
計	389	53	101	90	79	66
割合(%)		13.6	26.0	23.1	20.3	17.0
(年齢別)						%
10 歳代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
20 歳代	23	17.4	30.4	21.7	21.7	8.7
30 歳代	50	14.0	30.0	26.0	12.0	18.0
40 歳代	55	10.9	27.3	21.8	25.5	14.5
50 歳代	48	12.5	27.1	27.1	22.9	10.4
60 歳代	98	9.2	24.5	25.5	22.4	18.4
70 歳代	57	8.8	28.1	28.1	22.8	12.3
80 歳以上	51	29.4	19.6	9.8	11.8	29.4

⑦ 今後、村が力を入れていくべきことは何だと思いますか。また、住み続けるために、何が必要だと思いますか。(それぞれすべてに○)

- 村が力を入れていくべきことでは、「乗合バスの巡回など移動手段の充実」(41.4%)が最も多く、次いで、「保健・医療施設や救急医療体制の充実」(40.6%)、「自然環境の保全」(40.4%)の順となっています。
- 村に住み続けるために必要なことでは、「乗合バスの巡回など移動手段の充実」(35.7%)及び「高齢者福祉サービスの向上」(35.7%)が最も多く、次いで、「保健・医療施設や救急医療体制の充実」(35.5%)の順となっています。
- 過去のアンケートと比較すると、村が力を入れていくべき内容では、自然環境の保全や公共交通の充実を求める人が増えています。一方、村に住み続けるために必要なことでは「インターネットなど情報基盤の充実」を望む人が2倍以上に増えています。

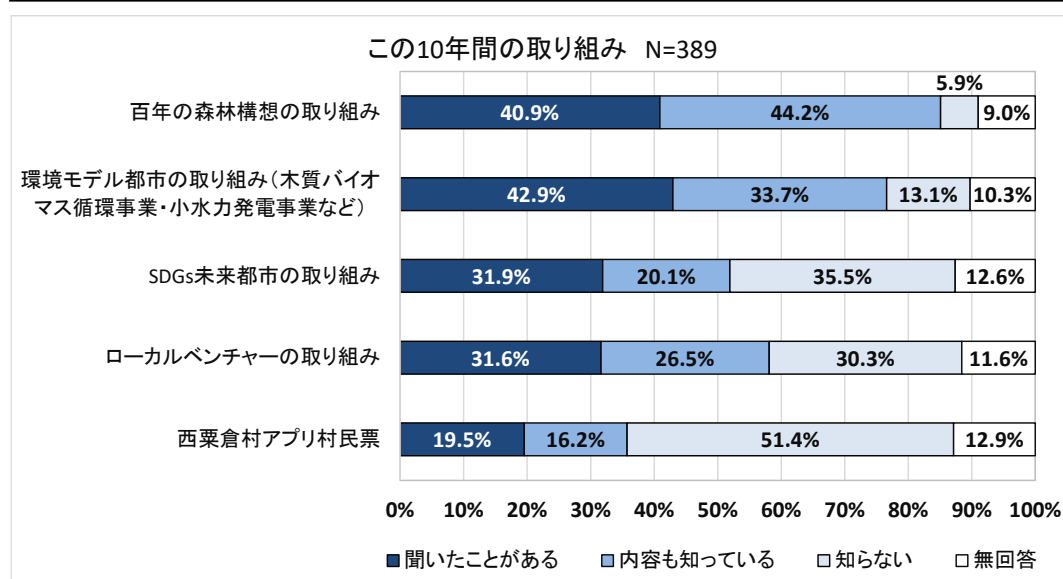


<その他の記述回答>

○村が力を入れていくべき内容	○住み続けるために必要なこと
・ 中学校を他市町と統合 ・ 企業誘致 ・ 村内で生活が成り立つ仕組みづくり ・ 住民が自分の村をつくる ・ まもることのできる仕組みづくり ・ 特定「ローカルベンチャー」依存から脱却 ・ 地域おこし協力隊制度依存から脱却 ・ 移住者が安心して定住できるサポート ・ 移住を問わず事業における人材の確保	・ インターネット回線を良好にする ・ 村で働ける場所を増やす ・ 高校通学のためのバスを出す ・ 素晴らしい人間性を育てる教育を作り、村外からの移住者を増やす ・ カタカナが多いので平易な言葉で、こまめな説明を行う ・ 企業誘致 ・ こども・高齢・障害関係なく、人に対するサービスの充実 ・ こどもの成長や自身が歳をとっていくこと、病気をしたときなど、何かあった時でも安心して暮らせる地であることの見える化 ・ 高齢化やインフラの老朽化が進む中で再投資できるだけの財政基盤を築く、 ・ 村内の産業が育っているかどうか ・ 利権を集中させず、競い磨いて村全体をアップデートさせること

⑧ この 10 年間の取組について、どの程度ご存じですか(1つに○)。

- 内容も知っているでは、「百年の森林構想の取り組み」(44.2%)が最も多く、聞いたことがあるでは、「環境モデル都市の取り組み(木質バイオマス循環事業・小水力発電事業など)」(42.9%)と最も多くなっています。
- 「百年の森林構想の取り組み」、「環境モデル都市の取り組み(木質バイオマス循環事業・小水力発電事業など)」においては、聞いたことがあると内容も知っているを合わせると 8 割近くの人が知っており、村民の中での認知度が非常に高いことが分かります。
- 一方、知らないでは「西粟倉村アプリ村民票」(51.4%)と最も高く、過半数の人は認知していない状況です。
- 「内容も知っている」を回答した人を年齢別で見ると、どの項目においても 20 歳代が、5 割近くが内容まで認知しており、他の年齢と比べて高くなっています。

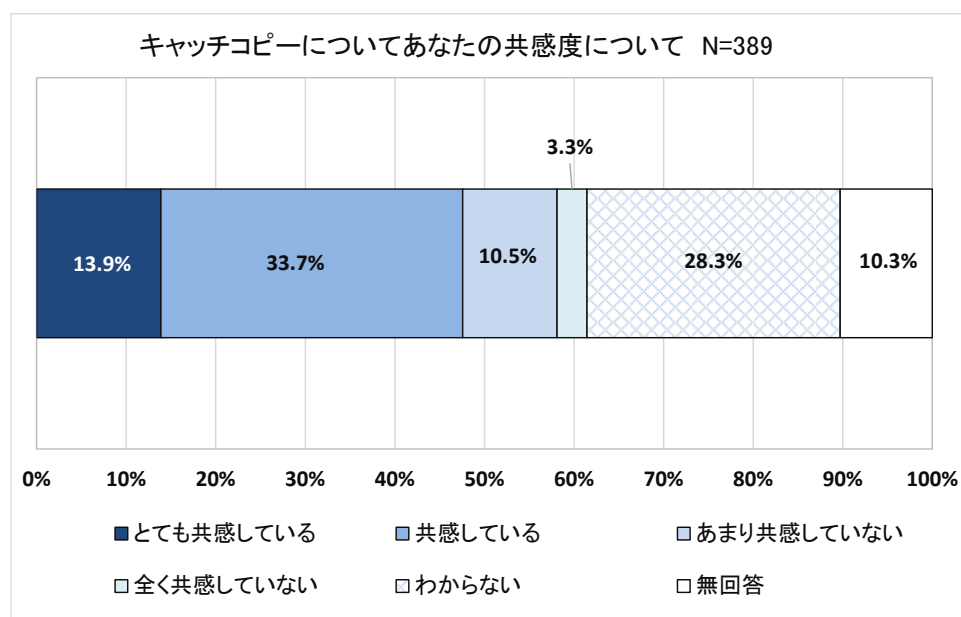


<年齢別における「この 10 年間の取組み」について「内容も知っている」のクロス集計結果>

	回答者数	百年の森林構想の取り組み	環境モデル都市の取り組み(木質バイオマス循環事業・小水力発電事業)	SDGs未来都市の取り組み	ローカルベンチャーの取り組み	西粟倉村アプリ村民票
計	389	172	131	78	103	63
割合(%)		44.2	33.7	20.1	26.5	16.2
(年齢別)		%				
10 歳代	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	23	52.2	52.2	47.8	47.8	47.8
30 歳代	50	62.0	48.0	42.0	58.0	38.0
40 歳代	55	41.8	34.5	21.8	38.2	30.9
50 歳代	48	41.7	29.2	18.8	25.0	12.5
60 歳代	98	37.8	28.6	14.3	15.3	8.2
70 歳代	57	45.6	36.8	15.8	19.3	1.8
80 歳以上	51	43.1	23.5	3.9	7.8	2.0

- ⑨ 西栗倉村では、2030 年に向かって「生きるを楽しむ」をキャッチコピーに、一人ひとりの人生にフォーカスした取組を進めています。このキャッチコピーについて、あなたの共感度について教えてください（1 つに○）。

- 「とても共感している」、「共感している」をあわせた『共感している』の回答が 47.6%であり、「あまり共感していない」、「共感していない」をあわせた『共感していない』の回答が 13.8%となっています。また、「分からない」の回答が 28.3%です。
- 年齢別に見ると、20 歳代では『共感している』と思う人があわせて 78.2%であり、他の年齢と比べると高くなっています。また、60 歳代、70 歳代では「分からない」と思う人が 3 割を超えて、他の年齢と比べると高くなっています。

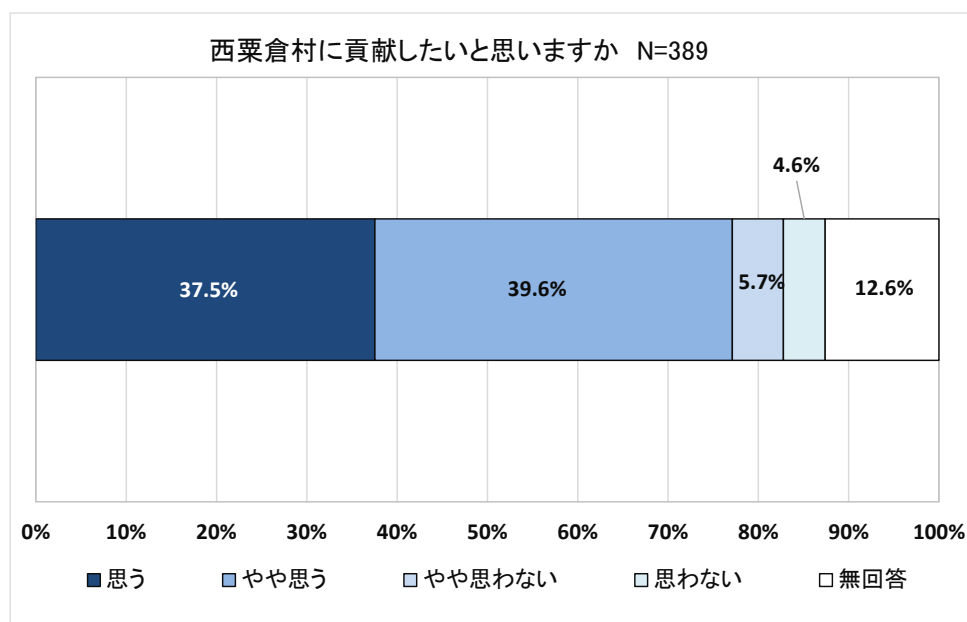


<年齢別における「キャッチコピーについて、あなたの共感度」のクロス集計結果>

	回答者数	とても共感している	共感している	あまり共感していない	全く共感していない	わからない	無回答
計	389	54	131	41	13	110	40
割合(%)		13.9	33.7	10.5	3.3	28.3	10.3
(年齢別)							%
10 歳代	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0
20 歳代	23	21.7	56.5	4.3	0.0	17.4	0.0
30 歳代	50	26.0	40.0	6.0	4.0	18.0	6.0
40 歳代	55	32.7	23.6	9.1	5.5	27.3	1.8
50 歳代	48	6.3	41.7	14.6	4.2	27.1	6.3
60 歳代	98	9.2	33.7	7.1	2.0	36.7	11.2
70 歳代	57	1.8	22.8	19.3	5.3	31.6	19.3
80 歳以上	51	7.8	35.3	9.8	0.0	25.5	21.6

⑩ 西栗倉村に貢献したいと思いますか(1つに○)。

- 「思う」、「やや思う」をあわせた『思う』の回答が 77.1%であり、「やや思わない」、「思わない」をあわせた『思わない』の回答が 10.3%となっています。
- 年齢別に見ると、30 歳代では『思う』の回答があわせて 88.0%であり、他の年齢と比べて高くなっています。一方、20 歳代では『思わない』の回答があわせて 26.1%であり、他の年齢と比べて高くなっています。



<年齢別における「西栗倉村に貢献したいと思いますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	思う	やや思う	やや思わない	思わない	無回答
計	389	146	154	22	18	49
割合(%)		37.5	39.6	5.7	4.6	12.6
(年齢別)						%
10 歳代	4	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0
20 歳代	23	43.5	30.4	17.4	8.7	0.0
30 歳代	50	50.0	38.0	2.0	2.0	8.0
40 歳代	55	45.5	32.7	3.6	7.3	10.9
50 歳代	48	41.7	35.4	8.3	8.3	6.3
60 歳代	98	29.6	46.9	7.1	2.0	14.3
70 歳代	57	24.6	54.4	5.3	5.3	10.5
80 歳以上	51	45.1	23.5	2.0	2.0	27.5

問 13 最後に、あなたが思うワクワクする村の姿についてお聞きます。あなたの目に浮かぶ、10 年後の未来の村の姿(暮らしや仕事、地域環境(森林、農業、交通、福祉、子育て等)など)について自由に記載してください。また、10 年後の村で、どんな自分になりたいですか。

＜生活環境や日常生活などの村内での暮らし全般について＞

- 家にこもらないで、気軽に出かけられ、ゆっくり過ごせる場所がある。公園や多目的スペースに子供の声が響いている。
- 村内で買物がもっと便利に出来る様にしてほしい
- 自然とテクノロジーのバランスがよく取れている村
- 誰もが心穏やかに暮らせる村
- 子供達が楽しく走り回って、大人が笑顔で見守っている姿。
- 豊かな自然の中で暮らしたい
- 誰もが楽しく生きる村
- 食べ物も善意もぐるぐるめぐる村
- 誰もが安心して生活できる村
- やさしくたのしい村
- 自給自足ができる村
- 誰もが西粟倉村を自慢出来る村。
- 人に優しい村
- 子供たちの笑い声が今以上に響き渡る村
- 自然溢れる村
- 美しい自然の中に、老若男女が集い、くつろげる場所がほしい。気楽に参加できる楽しいレジャー施設を作してほしい。
- 家がなくなっていない
- 子供たちはもちろん、大人も童心に返ることができる村
- 誰もが安心して暮せる村
- 災害時に安心してくらせる村
- 誰もが生きがいを感じながら生活をおくれ、退屈しない村。
- 人が集まってくる村
- あたたかい村にしたい
- 村内だけでも生活できる
- 誰もが気兼ねせずのびのびと過ごせる村。今と変わらない自分。
- 誰もが穏やかに生活出来るような村
- 人口が増え豊かに暮らせる村。
- 生きるを楽しむために、もう少しのんびりと過ごしたい。
- 誰にも優しい村・人になってほしい。
- 楽しいイベントが開催され、山や森も楽しい場所になり、自然と人が集まる。村で独立し、循環した日本のモデル地
- 各世代が安心して暮らせる村
- 誰もが生きることを楽しんでいる村
- 美しい風景の大茅地区を「新しい文化・芸術」と「伝統文化」がマッチし、ワクワクする様な里山にした

い。

- 村民誰もが笑顔に溢れ、いきいきと過ごせる村
- 人口増加
- 自分なりの生きがいを見つけて、自然の中で生き生きのびのびと楽しく暮らせる村
- 高齢者も住みやすく、誰もが生活に困らない村にしてほしい
- 年をとっても安心して暮せる村であれば、独居になっても大丈夫な気がする。
- 人口が増えて、若い子育て世代が村内各地区に増えている
- 趣味を楽しむ余裕のある暮らしをしたい
- 村外に住んでいる子供や孫が、祖父母や両親の生活した村に戻り生活を送っている姿が想像できる村であってほしい。
- 村民それぞれに多様な「生きるを楽しむ」が実践されている
- 誰もが10年後の未来をいきいきと語れ、子どもが帰ってきたくなるような安心感のある村。
- これ以上人口を減らさず、活気あふれる西栗倉村にしてほしい。
- 老後の生活、お金に対して不安がない村。老後、家族に負担をかけず生活できる施設の充実
- ソサエティ5.0に即した先進技術と農林業が融合した村
- 他県からドシドシ人が集まってくるような観光地にしたい。
- 村民のみんなに活気があり、行動している。子供の減少を食い止め明るい村になってほしい。
- 大人が人生を目一杯楽しめる村であり、自分も元気で人生を楽しんでいたい。
- 遠方からでも買いに来たくなるような魅力的な何かで雇用を創り、若者の流出が減ってほしい。
- 定住できなくても、子供を育てる世代が充実して暮らせる教育環境の溢れる村にしたい
- 一番に空気が良いこと。住民同志仲良くしています。
- 10年後、家族の為に野菜を作り、ノンビリした日々を送っている。
- 都会に住むのと比べて便利さが変わりなければ、自然もありいいと思う。仕事を含めた日常生活が不便なく過ごせ、時々旅行へ行く時などのアクセスが良ければと思います。
- まず、健康であり、出来れば、他の人と色々な面で手助けできる様な日々を送りたい。農業においては、現在の数倍の不耕作地が増え、田園風景も悪い方で様変わりしているだろう。
- 定期的に村へのボランティア活動で貢献している自分の姿を思う。健康であれば、何かしらで社会へ恩返ししたい。親族一同お世話になったことは一生忘れません。
- 自立した考えで行動する人が増え、風通しのよい環境の中でのびのびと生活できる村。無駄なものをそぎ落として、身軽に生きる自分
- 老若男女が自分らしく生きるを楽しんでいる村
- 誰もがいつでも気軽に來れて、泊まれる村。インターネット環境が整備され、在宅ワークが出来る村。
- 人口と子供が増え、景観が良く、村外から人が集まる。大きな施設等があり、雇用が守られる活気ある村。
- 思いやりのある豊かな心を持つ村。ごみのない豊かな自然に溢れる村。子どもや孫に囲まれて、笑顔が続く自分。
- 高齢になっているが、健康で近所の方々と助け合いながら、自分の生活を楽しんでいる姿。
- 差別のない村であってほしい。「新しいことをしている」ことがすばらしく、そうでないものはだめだという空気にはなあってほしくない。「他にないもの」を求めすぎているようで、それによって発生する新しい形の差別が心配です。
- 緑のすばらしい村がずっと続いてほしい。また、村にコンビニエンスストアがある

- 誰もが食べることに困る事のない暮らしを送り、良好な人間関係を築いている。また、十分な休息を取れ、心身ともにリラックスしている。
- 稼ぎや(地域の)仕事だけでなく、村や世界のこの先を作っていくことに時間を割ける自分になりたい。面白いと思うことに挑戦できる村になるといい。
- 今の生活状況は子供夫婦が跡継ぎしてくれ、今までとそう変わりはないが、田は急傾斜の為、管理が行き届かなくなると思う。百森のような体制づくり等何らかの対策が必要と思う。山林は、百森により継続管理がされ、山主に大きな収入をもたらすと思う。交通・福祉では、充分行き届くと思う。
- 子どもの声や遊ぶ姿が身近で見ることができる元気な村。年寄りも何か役割が持てる村。10年後も元気で畑などを楽しめる自分であるために健康に過ごしたいです。
- 子育てや福祉が充実し、一人一人が尊重される心温まる村
- Iターン・Uターン問わず、若者が適度にやって来たり、帰ってくる。既存の仕事と新しい仕事が適度にあることで、生活に困らない。新しい仕事は、先進的な取組にチャレンジしている。
- 人に迷惑をかけないで元気に生活を送りたい。その為にも、日頃から一つ一つ頑張っておこうと思います。皆との交流することで、毎日楽しく笑顔で暮らせる様、努力していきたいです。
- 自然環境の循環が守られ、村内で必要なもの(衣食住・エネルギーなど)が村内でまかなわれながら、自然との共存が実現している。村外から様々な人が集い、村の資源を活かして持続可能な商売を営んでいる。また、自然農業特区となり村内の食べ物はすべて無農薬の安心・安全なものになっている。自分は生物循環を維持しながら自然農を営み、収穫物をパン・菓子に加工することで生計を立てている。村内に店舗を持ちながら、収益の大部分はECによってまかなっている。
- 現在の新しい生活が定着し、ネットを利用した仕事も普及するため、ネット環境のよい西栗倉は自分の生活(生き方)に視点を当てた移住者であられると思う。10年後には子供も進学のため村を離れているので、今と同じように健康で働いていたい。
- すべての村民が夢や生きがいを持ち、楽しそうに生きている。10年後、社会人になった今の小中学生が「村で育ったからいろんな機会に恵まれて、自分の人生の幅が広がり、納得のいく進路決定ができた」と周囲に話している。その「いろんな機会」をつくる自分でありたい。
- 日本一「環境負荷の少ない村」「地球にやさしい村」になっていると思う。暮らしでは、自分で衣食住をまかなえる。子育てでは、ファミリーサポートの組織が出来上がっていて、子育てがしやすい村になっている。「森の幼稚園@西栗倉」の体制が良く、体を鍛える幼児教育を実現している。公共交通ではバス、タクシーが30分に一本走っており、近隣まで行き、デマンドバスの利用が当たり前になっている。福祉では、認知症でも安心して暮らせ、見守り・訪問サポートが充実している。
- 年寄りでも気持ち良く命を全うでき、赤ちゃんから年寄りまでいきいき楽しいと思える生活のできる村。通学する子供の声が毎朝聞こえる。また、通学手段が充実して、家から高等学校等や「生き甲斐を感じる職場」へ通学・通勤できる。健診体制が整い、病気の早期発見早期治療で安心して健康を維持できる。高齢者は、安心して介護を受けられる充実した施設があり、在宅介護や見守り体制の整備が行き届き、安心して自宅で暮らせる。さらに、免許がなくても、安心して福祉タクシーなどが利用でき必要な買い物、病院通い等が出来る。村民が気軽に集い、趣味やお話ができ、生涯学習が出来る施設が有る。山林は手入れが行き届き、他町村に誇れる美林が見られ、春には芝桜公園等で大勢の観光客が訪れる。夏には姫螢が西栗倉のイメージを上げてくれ、秋には紅葉で美しい景色が見られる。村自慢の原生林に登山客が多く訪れ、田圃は手入れが行き届き耕作放棄地が見られない。家の周りの樹木は管理が行き届いている環境である。

<地域のコミュニティについて>

- 子どもからお年寄りまで多様性のある村
- 人と人と交わりがあって楽しい村であってほしい

人と人と交わりがあって楽しい村であってほしい

- I ターン者のみや元々の村民のみが盛り上がるのではなく、年代を問わず、村民誰もがいつでも集まれるような居場所作りがあると良い。
- 多世代間の交流が自然にされている
- 誰もが住みやすい西栗倉村になっている
- 世代間交流がさかんであり、村全体でひとつの家族のような人間関係
- 役場と住民がもっと信頼しあえる関係になれば、村はもっと輝けると思います。
- 「田舎」で敬遠される対人関係を交流したい人はする、したくない人はしなくてもいいというようなことを誰もが自然と理解できたらいいです。都会と田舎のハイブリッドな感じがいいです。
- 自分も家族も安心して生活でき、I ターンや村出身にかかわらず誰でも気軽にイベントなどに参加でき楽しめる村
- 村民と移住者が一体となる。
- 移住者と村民の垣根がなく、交流の進んでいる村
- 子育てが楽しい村になっている。移住者でも村のおじいちゃんおばあちゃんと触れ合える。子どもたちは元気いっぱいに遊んでいる。
- 高齢者が増加し、入れ替わりの激しいI ターン者が増加する。昔ながらの考えを持つお年寄りや地元の人と、現代の風潮に影響を受ける若者とのギャップが大きくなりそう。
- 子どもがたくさんいて、大人が笑顔で見守り、昔のように地域の人との交流も行い、時間がゆっくり流れる村。耕作地の荒廃がなくなっていてほしい。
- 人口の増加と百森の充実・発展
- 村内で知人やそうでない人など様々な人が往来している。人の集まるカフェや商店が所々にあり、いつも賑わっている。車の有無に関係なく、自由に移動している。
- 誰もが地域をつくる一員であるという誇りと責任をもって、暮らしや仕事などあらゆる場面で支え合える村。また、多世代が交流し、自分の興味や関心に応じた活動に参加することにより、だれもが自己表現できる村。そのためにも、すべての世代が学び合える環境を実現したい。
- 年齢、性別、出身地などを越え、障がいのある人もそうでない人も、色々な人がこの場所で、多様性を受け入れ、生きるを楽しむ村であってほしいです。子どもたちの心の中には、西栗倉が誇れる場所であって、帰ってこれなくても、いつまでもふるさとだと思ってもらえると嬉しい。
- 村に住みながら世界中の人を相手に仕事ができ、世界最高の教育が受けられる。また、森や川を活かした遊び場があり、テニスコートも再整備され仕事後にテニスが出来る。
- 村が世界のお手本となるような、「地球と共生する」、「地球と生態系に負担をかけない」コミュニティになっていること。地元・I ターン・U ターン等の区別がなくなり、村全体で子どもや高齢者を大事にするという関係になっていること。世界中の人に誇れるような村となり、そのプレイヤーとなり、学びあう拠点になりたい。

<学校教育について>

- 新しい教育の在り方を実践している。
- 子供に関わるトラブル・不登校など人数が少ない中で頻発していることは憂慮すべき。すべての子供

が健やかに育つことが何よりも目指すべきだと思う。

<自然環境の保全や森林事業について>

- 現在の自然を大事に残してください
- 「自然を大事に」が一番
- 空気と川がキレイでいてほしい。
- 今以上に林道伐採等が進み、山林も整備されていると思う。
- 森林環境が多様化し、農地もしっかり保全されている。
- 年寄りでも気持ち良く命を全うでき、赤ちゃんから年寄りまでいきいき楽しいと思える生活のできる村。通学する子供の声が毎朝聞こえる。また、通学手段が充実して、家から高等学校等や「生き甲斐を感じる職場」へ通学・通勤できる。健診体制が整い、病気の早期発見早期治療で安心して健康を維持できる。高齢者は、安心して介護を受けられる充実した施設があり、在宅介護や見守り体制の整備が行き届き、安心して自宅で暮らせる。さらに、免許がなくても、安心して福祉タクシーなどが利用でき必要な買い物、病院通い等が出来る。村民が気軽に集い、趣味やお話ができ、生涯学習が出来る施設が有る。山林は手入れが行き届き、他町村に誇れる美林が見られ、春には芝桜公園等で大勢の観光客が訪れる。夏には姫蚩が西栗倉のイメージを上げてくれ、秋には紅葉で美しい景色が見られる。村自慢の原生林に登山客が多く訪れ、田圃は手入れが行き届き耕作放棄地が見られない。家の周りの樹木は管理が行き届いている環境である。

<仕事や人材育成について>

- 人と関わり元気で働いていたい
- 子どもたちの為になるような事がしたい。
- 職人の村になってほしい。オンリーワンをもっと増やしてほしい。
- 好きなことできちんと稼ぎ、自立した人が増えている。
- 様々な人が自分の好きなことを生業にして、それが上手く循環している村
- 村内外問わず事業を遂行出来るスキルを身につけたい
- 村民の誰もが自分の特技を活かし、村全体が会社、工場みたいになり、何らかの収入を得られる様な仕組みを作れたら良いと思います。楽しみながら収入を得ることで、生きがいを感じ、健康維持につながると思う。人との交流、意見交換が行われ、共に遊び笑う生活にしたい
- 「初心忘るべからず」の精神で知恵を絞り色んな方々から協力を頂きながら、10年後も村の中で存在感のある事業所として有り続けたいです。「質の高い教育を受けたい」と全国から若者が集う村になってほしい。
- 田舎だから出来ないではなく、田舎でも出来る田舎だからこそ出来ることをたくさん作り、選択肢がないから村を出るということがない状態にしたい。そんな村で選択肢を広げることに繋がる仕事をしていきたい。
- 多くの人が村を拠点に実現したいことが実現できて、多くの人が輝いている村になってほしい。自分もその輝く一人になりたいと思う。
- 自らの強みと情熱を活かして、世界を舞台に活躍する人材を育てたいと思います。また、村内で本物の芸術に触れる機会が増えてほしい。
- 農業、林業の後継者が多数定住し、一次産業からの派生事業(加工、商品化)が発達して、雇用が増えている。私個人は、半自給自足の暮らしが続けられ、子供たちがよい環境で成長している。また、

森林は広葉樹林化が進んでいる。

- 村内に高校がなくても、村を離れなくてもいい環境づくりを(村内に就職、もしくはインターネットによる高校・大学への進学)進めてほしい。また、村外に出た人が、普通に U ターンできる環境をつくってほしい。
- 60 才以上の退職した世代が地域活動を通して新たに起業し、日常生活の交流活動の中心となり活躍している。そこに刺激された青壮年の若い世代も無理なく楽しく仕事、子育て、地域活動に活躍している。死ぬまで多様に活躍し、人と交流する姿を実感できる村
- デジタル化とモビリティが進んだ暮らしやすい村になっていて、オンライン等で世界とつながっている自分がいる。
- 林業がもっと身近に、山のことを多くの人が自分事として考えられるような村。そして、色んな人・家族が住み、受け入れられる村。そこで、楽しく林業の一端を担いたい。

<医療福祉や子育てについて>

- 高齢化が進行中であり、高齢者施設の充実をもっとはかってほしい。
- 残りの生活を自力で生活出来る様に健康体でありたい。
- 福祉、高齢者が多数となり、介護支援が大変困難になっている。
- 健康でマイペースに楽しく暮らしている。
- 10 年後も元気で動いていたい
- 日本一「環境負荷の少ない村」「地球にやさしい村」になっていると思う。暮らしでは、自分で衣食住をまかなえる。子育てでは、ファミリーサポートの組織が出来上がっていて、子育てがしやすい村になっている。「森の幼稚園@西栗倉」の体制が良く、体を鍛える幼児教育を実現している。公共交通ではバス、タクシーが 30 分に一本走っており、近隣まで行き、デマンドバスの利用が当たり前になっている。福祉では、認知症でも安心して暮らせ、見守り・訪問サポートが充実している。
- 年寄りでも気持ち良く命を全うでき、赤ちゃんから年寄りまでいきいき楽しいと思える生活のできる村。通学する子供の声が毎朝聞こえる。また、通学手段が充実して、家から高等学校等や「生き甲斐を感じる職場」へ通学・通勤できる。健診体制が整い、病気の早期発見早期治療で安心して健康を維持できる。高齢者は、安心して介護を受けられる充実した施設があり、在宅介護や見守り体制の整備が行き届き、安心して自宅で暮らせる。さらに、免許がなくても、安心して福祉タクシーなどが利用でき必要な買い物、病院通い等が出来る。村民が気軽に集い、趣味やお話ができ、生涯学習が出来る施設が有る。山林は手入れが行き届き、他町村に誇れる美林が見られ、春には芝桜公園等で大勢の観光客が訪れる。夏には姫蛍が西栗倉のイメージを上げてくれ、秋には紅葉で美しい景色が見られる。村自慢の原生林に登山客が多く訪れ、田圃は手入れが行き届き耕作放棄地が見られない。家の周りの樹木は管理が行き届いている環境である。

<公共交通や移動について>

- 快適に村内外へストレスなく移動することができる村
- 車がなくとも不自由ない暮らしができる。
- 買い物に行きやすい街(毎回佐用に行くが、往復 1 時間となると負担が大きい)。産婦人科、小児科が遠いので、通いやすく近くに欲しい。診療所の月二回の小児科では常時に対応できない。
- 日本一「環境負荷の少ない村」「地球にやさしい村」になっていると思う。暮らしでは、自分で衣食住をまかなえる。子育てでは、ファミリーサポートの組織が出来上がっていて、子育てがしやすい村になっ

ている。「森の幼稚園@西栗倉」の体制が良く、体を鍛える幼児教育を実現している。公共交通ではバス、タクシーが 30 分に一本走っており、近隣まで行き、デマンドバスの利用が当たり前になっている。福祉では、認知症でも安心して暮らせ、見守り・訪問サポートが充実している。

- 年寄りでも気持ち良く命を全うでき、赤ちゃんから年寄りまでいきいき楽しいと思える生活のできる村。通学する子供の声が毎朝聞こえる。また、通学手段が充実して、家から高等学校等や「生き甲斐を感じる職場」へ通学・通勤できる。健診体制が整い、病気の早期発見早期治療で安心して健康を維持できる。高齢者は、安心して介護を受けられる充実した施設があり、在宅介護や見守り体制の整備が行き届き、安心して自宅で暮らせる。さらに、免許がなくても、安心して福祉タクシーなどが利用でき必要な買い物、病院通い等が出来る。村民が気軽に集い、趣味やお話ができ、生涯学習が出来る施設が有る。山林は手入れが行き届き、他町村に誇れる美林が見られ、春には芝桜公園等で大勢の観光客が訪れる。夏には姫螢が西栗倉のイメージを上げてくれ、秋には紅葉で美しい景色が見られる。村自慢の原生林に登山客が多く訪れ、田圃は手入れが行き届き耕作放棄地が見られない。家の周りの樹木は管理が行き届いている環境である。

<その他>

- 村民の輪をつくるのが一番大事です。輪が出来ればどんなに難しい仕事、環境問題も出来ないことはないと思います。長生きして理想の村を見たいと思います。
- 10 年後、こんな村にはいたくない。
- 少なくとも現状維持
- 村としてチャレンジを続けてほしいです。
- 今後 10 年に、村内出身者がどれだけ帰村したかが問われると思う。
- 高齢となり、自分で出来るような事が少なく、若い人にお世話になる事が多くなり、申し訳なく思う。
- 偏見や恨み、妬み、根拠のない噂が流れないこと
- 三井住友の参入に期待
- 一部の人、団体、特定の人だけが優遇された村になっている。そこを改善しなければ、ワクワクする村の姿にはならない。
- 10 年では変化がないかも。生きていないかもしれない。
- 村で生まれ育った人と新たに村外から入村した人との人間関係がうまくいかない様な気がする。行政のリーダーシップのやり方で少しは良くなると思う。
- 自然な心で 1 日が過ぎる日がつづくと思うのでワクワクしない。
- 自分の健康のことでいっぱい、未来の村について考えにくい
- 老人が「生きるを楽しむ」には、どんな方法や手段があるのか指導してほしい。
- 村独自の交通問題を構築している。未就農者に自家栽培などの講習会をし、耕作放棄地を自由に利用して貰える様な政策を行っている。

問 14 その他、ご意見があれば、ご自由に記載ください。

- 美作市のケーブルテレビ「みまチャンネル」への情報提供、または、村との共同の情報番組の製作
- 昆虫、小鳥、野生小動物をもっと大切に
- 昆虫や小鳥等がたくさん見れるよう自然を大切に
- 暮らし、しごと、子育ての自分の中での理想を実現するべく、移住してきました。これからもよろしくお願いします。「村」という単位だからこそ、住民の意思が届きやすい願いが叶いやすい所がいっぱいあると思います。何事も前向きに進めて行く西粟倉村のパワーを信じています。村民ひとりひとりの意見を丁寧に聞こうとする姿勢がこのアンケートからも伝わってきます。これからも頑張ってください。応援しています。
- 地区名と住所名が違うのでわかりにくいです。今は困っていませんが、移住してきた人はわからないと思います。
- 村民は考え方、やり方が汚い。
- アンケートの内容が高齢者向けに思える。これから支える世代を中心に考えることも大いに必要ではないか。
- もう少し以前から住んでいる村民にもう少し目を向けてほしい。今は「地域おこし協力隊」を中心に事業が進んでいるように思う。
- 横文字を町内放送で流して高齢者の方々は解るのでしょうか。私には理解に苦しみます。老若男女すべてが解るという表現を徹底して頂きたいです。
- 村で生まれ育った若者が、そのまま村で働ける様な村づくりをしてほしい。現在、ローカルベンチャーや協力隊等他方面から村に来ている。西粟倉の人材をもっと活用できないものか。
- 高齢者の福祉を宜しくお願い致します。
- 近い内に村の人口も千人を割り、空き家が目立つ。田畑を担う者も減る。
- 楽しむ、ワクワクは人それぞれなので、押し付けのようで共感できない。それよりは幅広い年代が安定して安心して暮らせる村がいいと思う。
- 産前・産後ケアが公的にもっと充実し、産み育てやすい環境になってほしい。
- 老若男女、誰もが参加できる村民運動会が復活して欲しい。
- 村まるごと wi-fi 環境の整備希望
- I ターン向けの政策が多い。U ターンや村でずっと住む人の政策をしっかりとしてほしい。推進的な政策以外の普通業務で行っている事の説明や公表等で可視化してほしい。
- 少なくとも村で払った税金は、村のために使われていると実感できる。安心して稼いで税金を納めようと思えるのは幸福に感じる。村内放送での村長の呼びかけはいつも村民のことを考えており、いい話だと感動しています。
- 村の若者に勉強させる機会をもっと作って欲しい。短期ではなく 10 年ぐらいの長期で人を紹介する等の形でも良いので行ってほしいと思う。夢をかなえる機会のある村にしたい
- コンビニをつくって頂きたい。
- アンケートの結果及びこれに対する取組は、分かり易く周知してください。
- 西粟倉は温かい人が多いので、素敵です。
- この先、考え方の変化やテクノロジーの発展、気候変動等様々な環境の変化が予測され、様々なアプローチの仕方や正解への近道がわからない状況となると思うが、これから村と住民がチャレンジしていくことに否定的になる人のいないような『共創』できる環境にしていきたい。
- 知らない人が多すぎる。大事にしすぎている。

- このようなアンケートを実施している点が大変良いと思います。
- 高齢者にはこのアンケートは難しい。
- もっと具体的な設問にしてほしかった。西栗倉の将来像が見えない。
- 色々と考えられていると思う。
- 村で生まれ育った子供たちが、都会と連携し、村で仕事をしてほしいと思う。
- 家にインターネットがないのは不便すぎる。帰ってきたいと思える村にしてください。
- 皆が希望を持ち、後継者が住みやすい村にしてほしい
- 2020 年以降の地球が向かうべき方向は、江戸時代のような究極の循環型エコシステムを現代のテクノロジーでどう置き換えるか、を追求することだと思っています。それにともない必要になるのは脱資本主義、この村ならできると思ってます。
- アンケートが分かりにくく、答えづらかった。問 9 は「村で生じている問題に対して村でおこしたアクション」のことなのか、村外の問題だけど村の中で何かした(募金箱の設置とか)のか、とかが分からなかった。
- アンケートの質問の意図やどのように解答をしたら良いか、迷うところがあった。
- アンケートが複雑すぎる。若い人でも複雑で長いと思うくらいなので、お年寄りをもっと分からないと思う。
- 長すぎて諦めました。
- 盆の川送りについて、川が汚れると思うので考えてほしい。10 年後は西栗倉にも小さくてもいいので老人ホームがほしい。
- 美作市、奈義町、勝央町は商品券、現金を配っているのに西栗倉村はそれが無いので驚いた。10 年先を見て、今の足元は見えてないように思う。このことについて説明をお願いしたい。提案として商品券総額 8000 円分を配布してほしい。
- 多様な動植物と多様な人が関わりあう村が良いです。再エネ 100%の達成もぜひ実現して欲しいです。
- 特になし
- 川で魚の姿が見たい
- やっつけ感のあるアンケートだった。
- 全ての地場産業を利用、育成し地場の経済を地場で回せるように施策を実行してほしい。
- アンケート調査お疲れ様でした。より良い方向へ向かっていけたらいいですし、自分もその一助になれば嬉しいです。
- 特になし
- 一緒にゆる〜く頑張りましょう！
- 村民をまとめて頼られ引っ張れるリーダーが現れることを願っています。
- 「生きるを楽しむ」ことを目指すのであれば、外面や知名度ではなく、実際に住んでいる人々、特に村出身で住み続けている人々の視点が重要ではないだろうか。移住者が増えたといっても地域おこし協力隊制度の濫用ともいえる状況であり、この制度がない場合の実力値をもって村の状況を測るべきである。聞こえのよい「ベンチャー」や「起業」は、成長すればやがてビジネス上利便性のいいところへ引っ越すリスクを孕んでいる。「ローカルベンチャー」への依存が長い目で見て村にリターンがあるのかどうか見極める必要がある。一方で、引っ越すことのできない林業や農業の後継者が育っているのか、村内の生産設備が持続可能な状態になっているのか、製造業の現場従業員は満足しているのかといったことから目を離してはいけな。とくに村が利権を与えている、あるいは公金の恩恵を与えている企業が、村に投資しているのか、有形で残るものを作っているのか監視しなければならな

い。そうでないなら、そこに利権を与える理由はない。幸か不幸か、農林業の現場では役に立たないが、経験知見の豊富な移住者が集まってきているのだから、これらの者を組織して客観的な村の姿、行く末を論じる委員会のようなものを設定しても面白いのではないか。経済的利害関係のあるローカルベンチャーやコンサルからは経済的利害を考慮した意見しかでてこない。西粟倉は自己実現のために人生の一時を過ごす場所なのか、生きるを楽しむ場所なのか。新計画に期待しております。

- 移住者を増やすのはいい事だが、移住したあとの公的なサポートがあまりないと感じている。単身移住者が体調不良になった時はどこに相談すればいいのか、職場や生活で悩みが出た時にプライバシーが守られ、安心して相談できる場所はあるのか。移住者仲間が多くてとてもありがたいが、仲間内で頼るには負担が大きすぎる。他地域では、サポートセンターやサポーターがいる所もあると聞いている。生活や今後も移住者を増やし、定住をめざしているのであれば、サポートセンターなどあった方がより良いと思う。”

【村出身者・関係人口向けアンケート】

5. 実施内容

(1). 調査目的

- ・ 現行計画の政策評価、村民の生活行動等の実態を知り、村民目線の村でのライフビジョンを描くための資料とする。

(2). 調査対象

- ・ 15 歳以上の全村民を対象とする。

(3). 調査方法および配布・回収方法

- ・ 世帯へ世帯人員分を同封して、郵送を行った。
- ・ なお、回収にあたっては、郵送での回収または WEB での回答とした。

(4). 調査機関

令和 2 年 8 月 7 日～令和 2 年 9 月 11 日

(5). 配布・回収率

- ・ 回収数は 211 名（郵送 47、WEB164）であった。

郵送回収	47
WEB 回収	164
回収合計	211

(6). その他

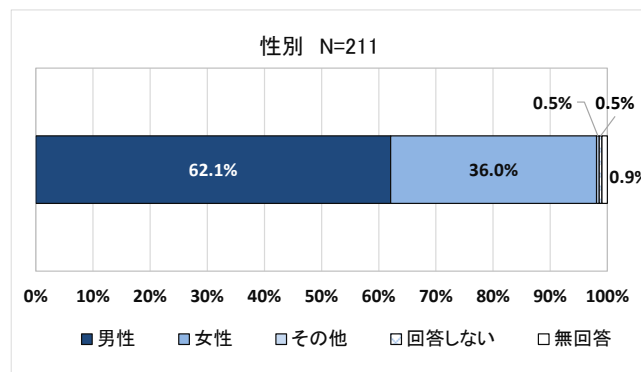
- ・ 集計では、小数点第 2 位を四捨五入しており、数値の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 図表中の N とは、回答者総数（または該当設問での該当者数）を表しています。また、無回答を含みます。
- ・ クロス集計結果では、各属性(年齢別、出身地別、居住地別)において、回答者総数を N とし、行の合計が 100%となるようにしています。ただし、複数回答の設問に関しては、行の合計が 100%を超える場合もあります。

6. 結果

問1 あなたご自身のこと、西栗倉村との関わりについて

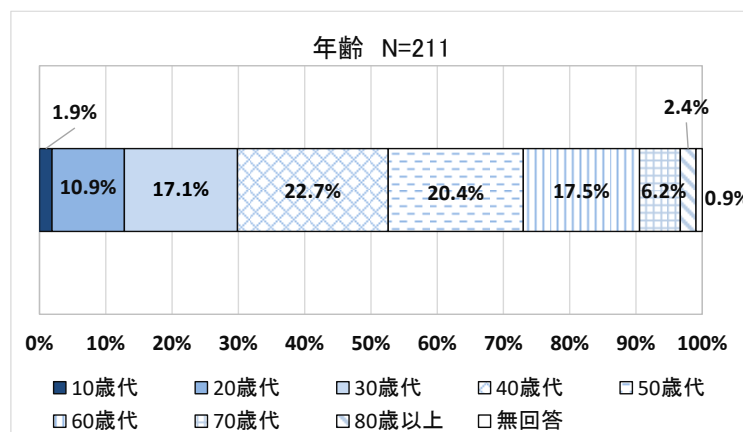
① あなたの性別をおしえてください(1つに○)

	回答数	割合
男性	131	62.1%
女性	76	36.0%
その他	1	0.5%
回答しない	1	0.5%
無回答	2	0.9%
合計	211	100.0%



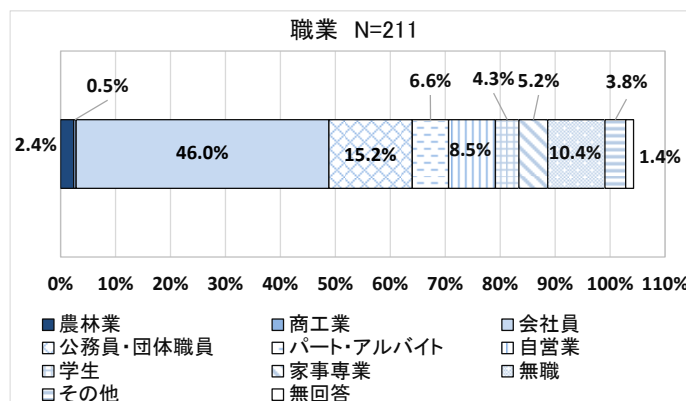
② あなたの年齢を教えてください(1つに○)。

	回答数	割合
10歳代	4	1.9%
20歳代	23	10.9%
30歳代	36	17.1%
40歳代	48	22.7%
50歳代	43	20.4%
60歳代	37	17.5%
70歳代	13	6.2%
80歳以上	5	2.4%
無回答	2	0.9%
合計	211	100.0%



③ あなたの職業を教えてください(すべてに○)。

	回答数	割合
農林業	5	2.4%
商工業	1	0.5%
会社員	97	46.0%
公務員・団体職員	32	15.2%
パート・アルバイト	14	6.6%
自営業	18	8.5%
学生	9	4.3%
家事専業	11	5.2%
無職	22	10.4%
その他	8	3.8%
無回答	3	1.4%
合計	220	104.3%



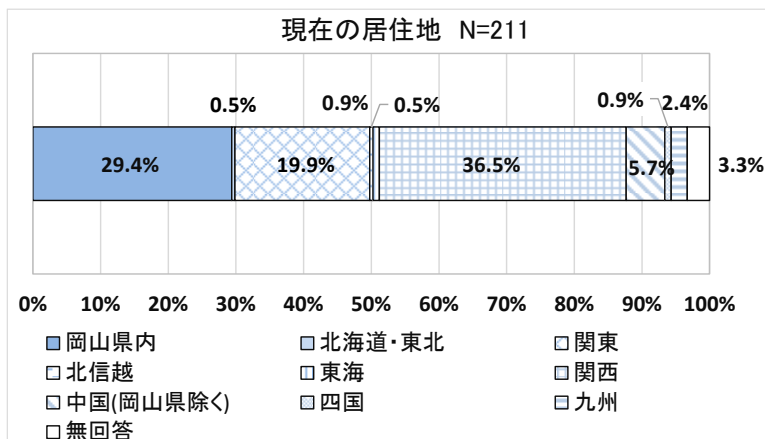
<その他の記述回答>

- ・看護師 ・大学教員 ・会社役員 ・NPO 職員 (2)
- ・個人投資家 ・草刈り等

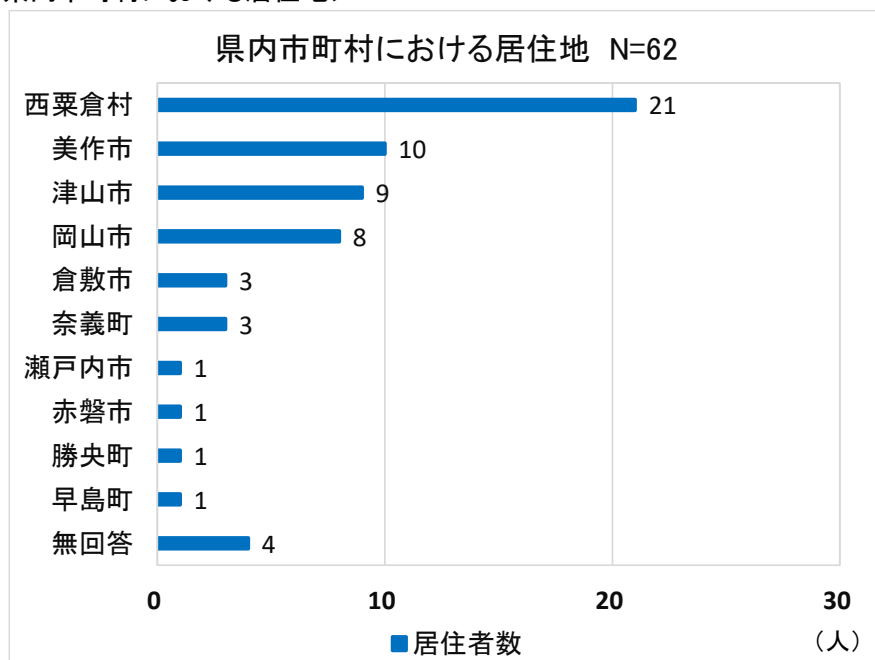
④ 現在の居住地を教えてください。

- 居住地について、関西地方が 68 人と最も多く、次いで岡山県内が 58 人、関東地方が 33 人の順になっています。
- 岡山県内市町村で最も多い居住地は、西粟倉村が 21 人で最も多く、次いで美作市が 10 人、津山市が 9 人の順となっています。
- 関西地方の市町村には、神戸市、大阪市、姫路市などの居住地が挙げられています。

	回答数	割合
岡山県内	62	29.4%
北海道・東北	1	0.5%
関東	42	19.9%
北信越	1	0.5%
東海	2	0.9%
関西	77	36.5%
中国 (岡山県除く)	12	5.7%
四国	2	0.9%
九州	5	2.4%
無回答	7	3.3%
合計	211	100.0%



<岡山県内市町村における居住地>



<居住地の回答一覧>

北海道 津別町
群馬県 伊勢崎市
東京都 (4)
東京都 新宿区(2)
東京都 杉並区(2)
東京都 品川区(2)
東京都 台東区(2)
東京都 港区
東京都 世田谷区
東京都 文京区
東京都 大田区
東京都 荒川区
東京都 江東区
東京都 江戸川区
東京都 足立区
東京都 板橋区
東京都 八王子市
東京都 東久留米市
神奈川県 (3)
神奈川県 横浜市(6)
神奈川県 川崎市(3)
神奈川県 平塚市
神奈川県 海老名市
千葉県 千葉市(3)
埼玉県 さいたま市
長野県 松本市
愛知県 田原市
三重県 鈴鹿市
滋賀県 東近江市

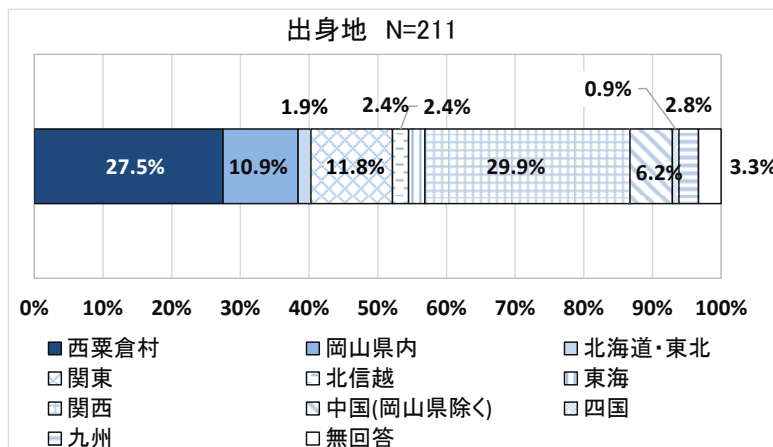
京都府 京都市(3)
京都府 宇治市
京都府 綾部市
大阪府 (3)
大阪府 大阪市(9)
大阪府 寝屋川市(3)
大阪府 高槻市(2)
大阪府 八尾市(2)
大阪府 池田市(2)
大阪府 堺市
大阪府 吹田市
大阪府 豊中市
大阪府 枚方市
大阪府 柏原市
大阪府 河内長野市
兵庫県 (5)
兵庫県 神戸市(9)
兵庫県 姫路市(6)
兵庫県 加古川市(5)
兵庫県 明石市(3)
兵庫県 三木市(3)
兵庫県 西宮市(2)
兵庫県 三田市(2)
兵庫県 尼崎市
兵庫県 伊丹市
兵庫県 加西市
兵庫県 丹波篠山市
兵庫県 豊岡市
兵庫県 たつの市

兵庫県 佐用町
兵庫県 神崎郡市川町
奈良県 北葛城郡河合町
岡山県 (4)
岡山県 西栗倉村(21)
岡山県 美作市(10)
岡山県 津山市(9)
岡山県 岡山市(8)
岡山県 倉敷市(3)
岡山県 奈義町(3)
岡山県 瀬戸内市
岡山県 赤磐市
岡山県 勝央町
岡山県 早島町
広島県 広島市(3)
広島県 福山市
広島県 安芸郡府中町
鳥取県 (3)
鳥取県 鳥取市
鳥取県 倉吉市
鳥取県 境港市
山口県 下松市
徳島県 徳島市
愛媛県 伊予郡砥部町
福岡県 福岡市(2)
福岡県 筑紫野市
福岡県 飯塚市
福岡県 みやこ町

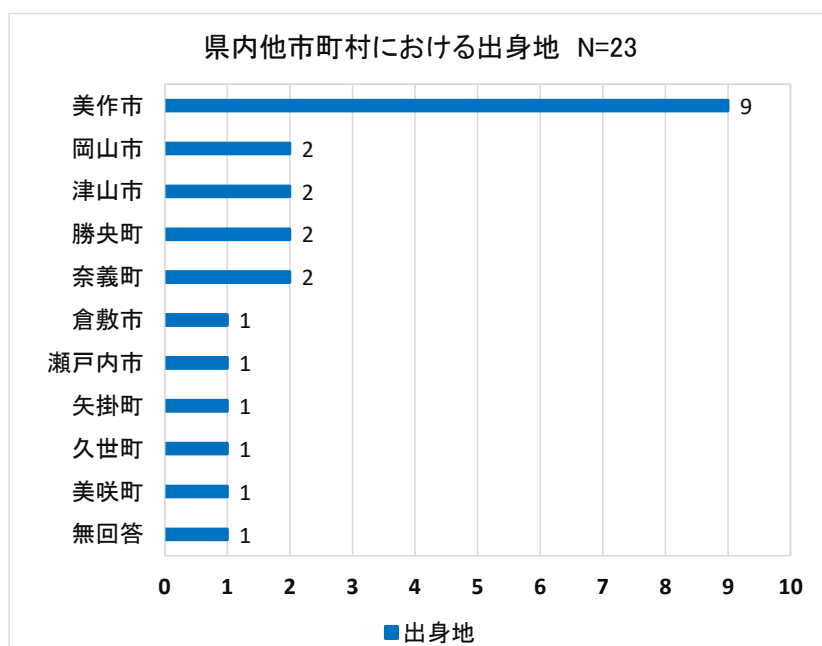
⑤ あなたの出身地はどこですか。

- 居住地について、関西地方が 68 人と最も多く、次いで岡山県内が 58 人、関東地方が 33 人の順になっています。
- 岡山県内市町村で最も多い居住地は、西粟倉村が 21 人で最も多く、次いで美作市が 10 人、津山市が 9 人の順となっています。
- 関西地方の市町村には、神戸市、大阪市、姫路市などの居住地が挙げられています。

	回答数	割合
西粟倉村	58	27.5%
岡山県内	23	10.9%
北海道・東北	4	1.9%
関東	25	11.8%
北信越	5	2.4%
東海	5	2.4%
関西	63	29.9%
中国 (岡山県除く)	13	6.2%
四国	2	0.9%
九州	6	2.8%
無回答	7	3.3%
合計	211	100.0%



<岡山県内各市町村における居住地>

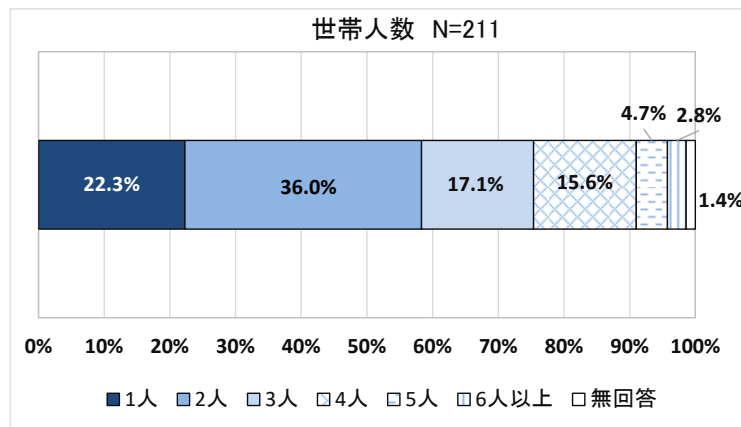


<出身地の回答一覧>

北海道 札幌市	京都府 城陽市	岡山県 岡山市 (2)
北海道 北見市	大阪府	岡山県 津山市 (2)
北海道 亀田郡七飯町	大阪府 大阪市 (4)	岡山県 勝央町 (2)
福島県 田村市	大阪府 寝屋川市 (3)	岡山県 奈義町 (2)
群馬県 高崎市	大阪府 堺市 (2)	岡山県 倉敷市
東京都 (6)	大阪府 高槻市	岡山県 瀬戸内市
東京都 杉並区 (2)	大阪府 豊中市	岡山県 小田郡矢掛町
東京都 渋谷区	大阪府 枚方市	岡山県 久世町
東京都 目黒区	大阪府 八尾市	岡山県 美咲町
東京都 荒川区	大阪府 富田林市	広島県 広島市 (2)
東京都 練馬区	大阪府 羽曳野市	広島県 安芸郡熊野町 (2)
東京都 三鷹市	大阪府 高石市	広島県 福山市
神奈川県 (2)	兵庫県 (3)	広島県 尾道市
神奈川県 横浜市 (3)	兵庫県 神戸市 (7)	広島県 江田島市
神奈川県 平塚市	兵庫県 姫路市 (5)	広島県 安芸郡府中町
神奈川県 藤沢市	兵庫県 加古川市 (4)	鳥取県 東伯町
神奈川県 茅ヶ崎市	兵庫県 明石市 (3)	島根県 大田市 (2)
神奈川県 横須賀市	兵庫県 三木市 (3)	山口県 下松市
埼玉県 さいたま市	兵庫県 佐用町 (3)	山口県 光市
埼玉県 東松山市	兵庫県 加西市	愛媛県
新潟県 新潟市	兵庫県 洲本市	愛媛県 四国中央市
新潟県 豊栄市	兵庫県 三田市	福岡県
長野県 松本市	兵庫県 たつの市	福岡県 北九州市
岐阜県	兵庫県 神崎郡市川町	福岡県 みやこ町
岐阜県 大垣市	奈良県 奈良市	佐賀県
静岡県 (2)	奈良県 大和郡山市	佐賀県 佐賀市
愛知県 名古屋市 (3)	奈良県 吉野郡川上村	佐賀県 多久市
京都府 (2)	和歌山県	熊本県
京都府 京都市 (4)	岡山県	
京都府 宇治市 (2)	岡山県 美作市 (9)	

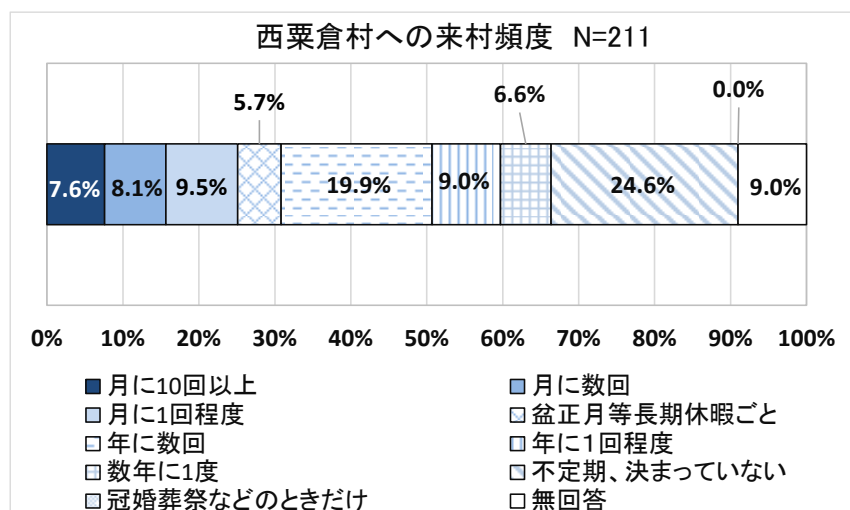
⑥ 世帯人数を教えてください（1つに○）。

	回答数	割合
1人	47	22.3%
2人	76	36.0%
3人	36	17.1%
4人	33	15.6%
5人	10	4.7%
6人以上	6	2.8%
無回答	3	1.4%
合計	211	100.0%



⑦ ここ1年間の西栗倉村への来村頻度はどれくらいですか（1つに○）。

- 「不定期、決まっていない」(24.6%)が最も多く、次いで「年に数回」(19.9%)、「月に1回程度」(9.5%)となっています。
- 年齢別に見ると、30歳代、40歳代では「不定期、決まっていない」が3割を超えており、他の年齢と比べると多くなっていることが分かります。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「月に1回以上」来村している25%を超え、割合の増加し、来村頻度が増えていることが分かります。また、「冠婚葬祭などのときだけ」の来村はしていないことが分かります。

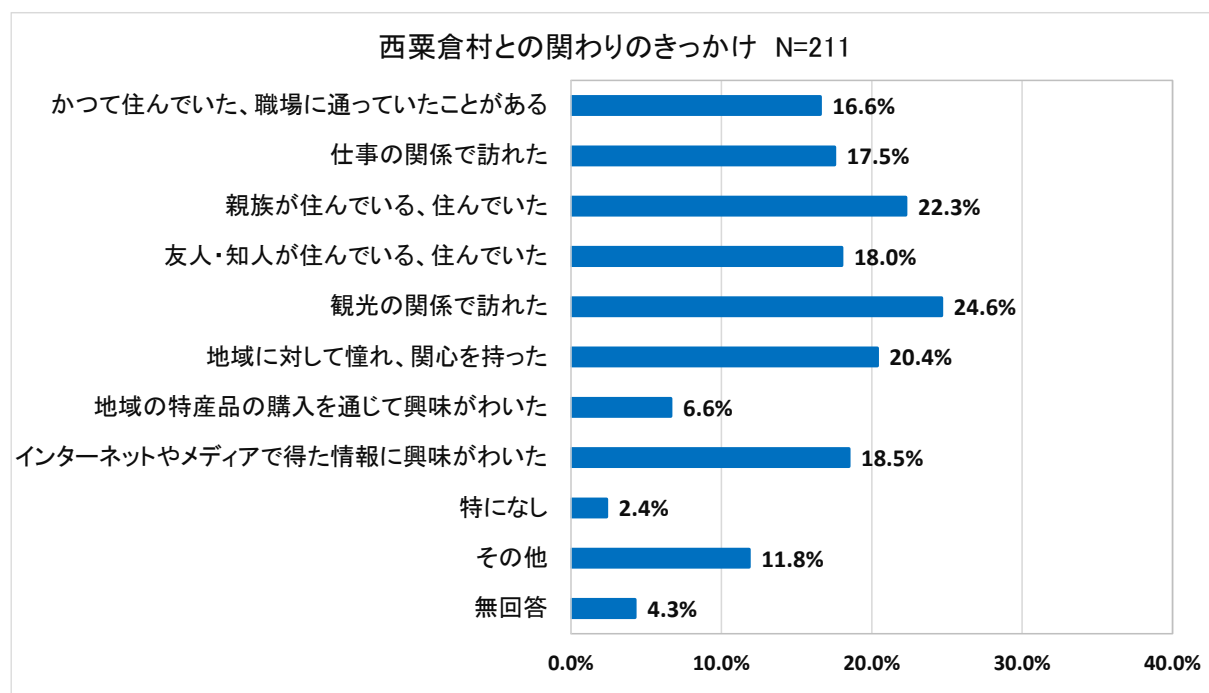


＜年齢別における「西栗倉村への来村頻度」についてのクロス集計結果＞

	回答者数	月に10回以上	月に数回	月に一回程度	盆正月等長期休暇ごと	年に数回	年に一回程度	数年に一度	不定期、決まっていない	冠婚葬祭などのときだけ	無回答
計	211	16	17	20	12	42	19	14	52	0	19
割合 (%)		7.6	8.1	9.5	5.7	19.9	9.0	6.6	24.6	0.0	9.0
(年齢別)											%
10 歳代	4	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	23	13.0	13.0	0.0	17.4	17.4	13.0	4.3	17.4	0.0	4.3
30 歳代	36	11.1	8.3	2.8	5.6	22.2	2.8	5.6	33.3	0.0	8.3
40 歳代	48	6.3	0.0	12.5	0.0	27.1	10.4	4.2	39.6	0.0	0.0
50 歳代	43	0.0	9.3	14.0	2.3	23.3	7.0	16.3	23.3	0.0	4.7
60 歳代	37	13.5	5.4	13.5	5.4	18.9	16.2	2.7	10.8	0.0	13.5
70 歳代	13	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	15.4	0.0	46.2
80 歳以上	5	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0

⑧ 西栗倉村との関わりのきっかけについてお答えください（すべてに○）。

- 「観光の関係で訪れた」(24.6%)が最も多く、次いで「親族が住んでいる、住んでいた」(22.3%)、「地域に対して憧れ、関心を持った」(20.4%)の順となっています。
- 年齢別に見ると、20 歳代では「親族が住んでいる、住んでいた」、「かつて住んでいた、職場に通っていたことがある」が4割を上回っており、他の年齢と比べると多くなっています。一方、40 歳代では「観光の関係で訪れた」がともに4割を超えており、他の年齢と比べると多くなっています。



<その他の記述回答>

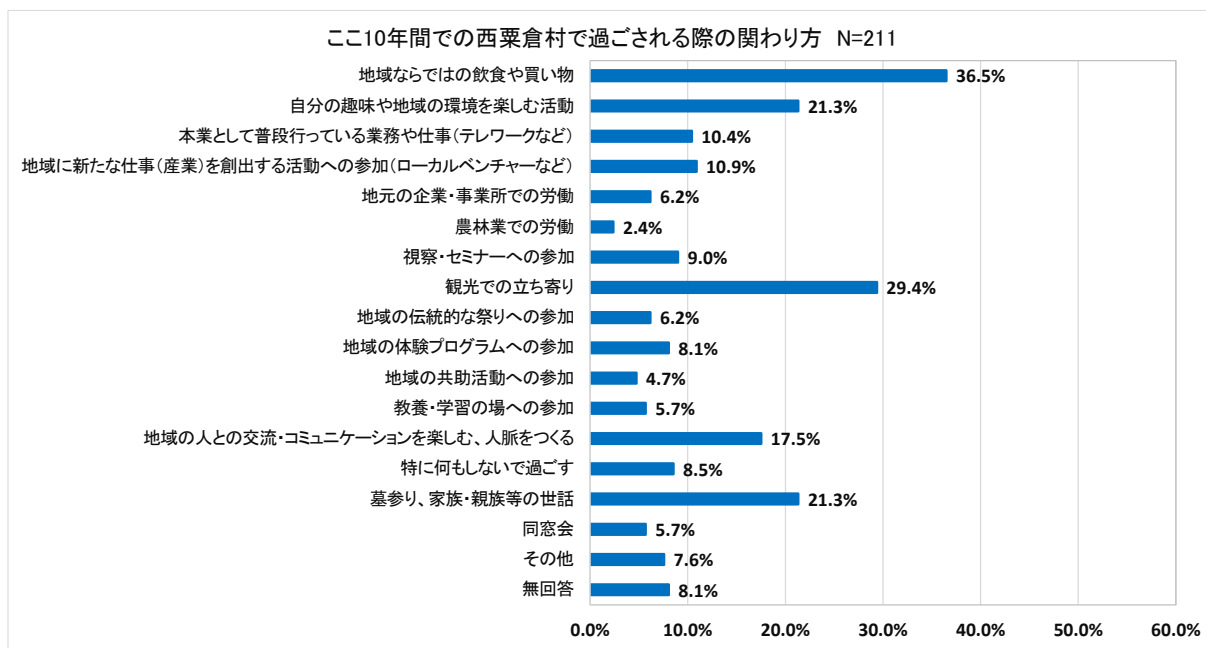
- ・ 職場がある

<年齢別における「西栗倉村との関わりのきっかけ」についてのクロス集計結果>

	回答者数	かつて住んでいたことがある	仕事の関係で訪れた	親族が住んでいる、住んでいた	友人・知人が住んでいる、住んでいた	観光の関係で訪れた	地域に対して憧れ、関心を持った	地域の特産品の購入を通じて興味があった	インターネットやメディアで得た情報に興味があった	特になし	その他	無回答
計	211	35	37	47	38	52	43	14	39	5	25	9
割合(%)		16.6	17.5	22.3	18.0	24.6	20.4	6.6	18.5	2.4	11.8	4.3
(年齢別)												%
10 歳代	4	25.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
20 歳代	23	43.5	8.7	52.2	26.1	4.3	17.4	0.0	13.0	0.0	13.0	0.0
30 歳代	36	16.7	19.4	16.7	27.8	16.7	19.4	2.8	22.2	2.8	25.0	0.0
40 歳代	48	8.3	27.1	6.3	14.6	43.8	25.0	8.3	16.7	0.0	14.6	0.0
50 歳代	43	11.6	14.0	16.3	18.6	34.9	34.9	14.0	30.2	4.7	4.7	2.3
60 歳代	37	13.5	21.6	29.7	8.1	18.9	10.8	5.4	13.5	0.0	8.1	10.8
70 歳代	13	23.1	7.7	38.5	23.1	7.7	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0
80 歳以上	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0

⑨ ここ 10 年間で西栗倉村で過ごされる際の関わり方を教えてください（すべてに○）。

- 「地域ならではの飲食や買い物」(36.5%)が最も多く、次いで「観光での立ち寄り」(29.4%)、「自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動」、「墓参り、家族・親族等の世話」(ともに 21.3%)の順となっています。
- 年齢別に見ると、20 歳代では「墓参り、家族・親族等の世話」が 52.2%もあり、過半数を上回っています。



<その他の記述回答>

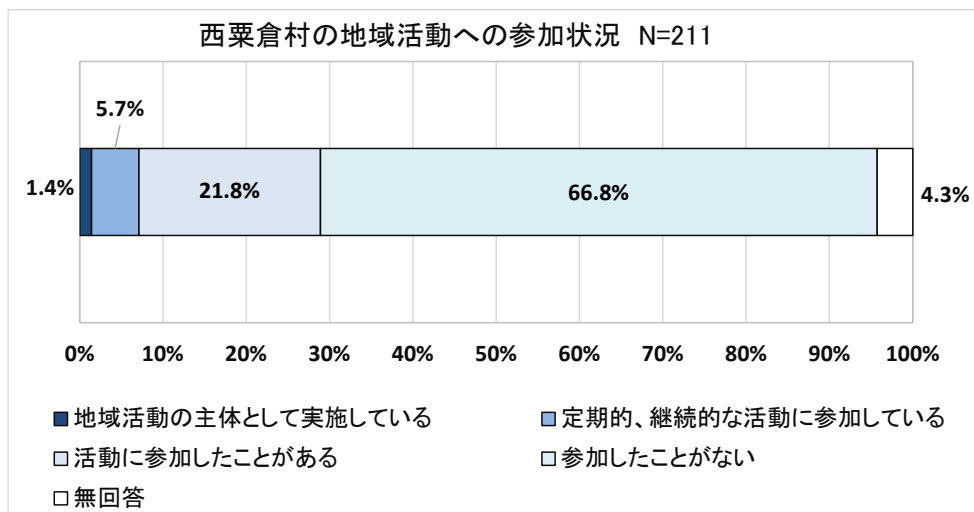
- ・ 行ったことがない(4)
- ・ 友達と会う
- ・ スキー
- ・ 今回初めて
- ・ 友達の家に行き、遊びや勉強をした
- ・ 道の駅で休憩し、食事や買い物をした
- ・ 今後関わっていききたい(2)
- ・ 家の管理
- ・ 役場との連携業務
- ・ 少しばかりの畑仕事
- ・ 親戚への訪問
- ・ 未だ訪問していないので希望を書きました。

＜年齢別における「ここ10年間の西栗倉村で過ごされる際の関わり方」についてのクロス集計結果＞

	回答者数	地域ならではの飲食や買い物	自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動	本業として普段行っている業務や仕事（テレワークなど）	地域に新たな仕事（産業）を創出する活動への参加（ローカルベンチャーなど）	地元の企業・事業所での労働	農林業での労働	視察・セミナーへの参加	観光での立ち寄り	地域の伝統的な祭りへの参加	地域の体験プログラムへの参加	地域の共助活動への参加	教養・学習の場への参加	地域の人の交流・コミュニケーションを楽しむ、人脈をつくる	特に何もしないで過ごす	墓参り、家族・親族等の世話	同窓会	その他	無回答
計	211	77	45	22	23	13	5	19	62	13	17	10	12	37	18	45	12	16	17
割合（％）		36.5	21.3	10.4	10.9	6.2	2.4	9.0	29.4	6.2	8.1	4.7	5.7	17.5	8.5	21.3	5.7	7.6	8.1
（年齢別）																			%
10 歳代	4	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	23	4.3	4.3	26.1	0.0	0.0	0.0	8.7	8.7	13.0	0.0	4.3	4.3	8.7	21.7	52.2	13.0	4.3	8.7
30 歳代	36	41.7	30.6	13.9	25.0	8.3	8.3	11.1	25.0	11.1	16.7	2.8	5.6	25.0	5.6	22.2	2.8	5.6	11.1
40 歳代	48	39.6	27.1	14.6	12.5	10.4	0.0	16.7	47.9	4.2	6.3	4.2	4.2	16.7	8.3	4.2	2.1	6.3	2.1
50 歳代	43	48.8	32.6	7.0	14.0	2.3	0.0	11.6	39.5	0.0	7.0	4.7	7.0	16.3	4.7	16.3	0.0	9.3	2.3
60 歳代	37	35.1	2.7	2.7	2.7	8.1	2.7	0.0	18.9	5.4	2.7	0.0	0.0	8.1	5.4	29.7	10.8	8.1	10.8
70 歳代	13	23.1	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	23.1	15.4	15.4	38.5	15.4	15.4	15.4	23.1	15.4
80 歳代	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0

⑩ 西粟倉村の地域活動への参加状況について教えてください（１つに○）。

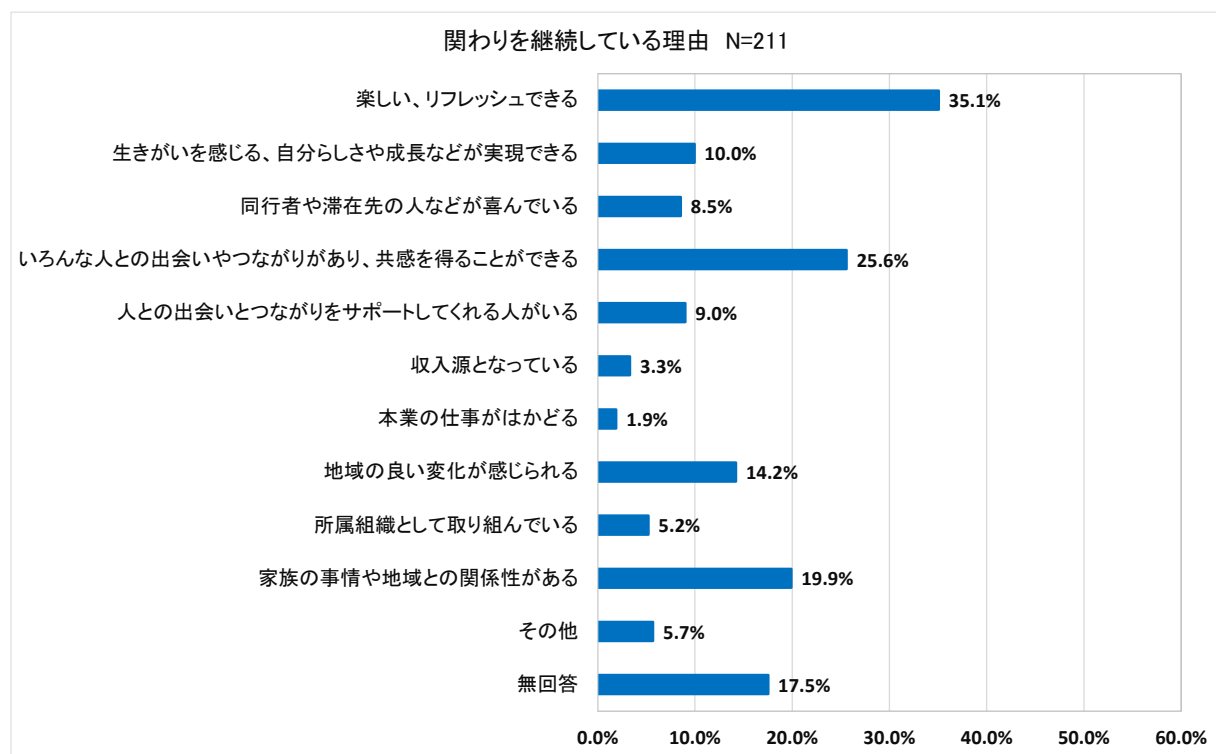
○ 「参加したことがない」が 66.8%で最も多くなり、過半数を大きく上回っています。また、「地域活動の主体として実施している」「定期的、継続的な活動に参加している」を含めた『地域活動に定期的に参加している』のが 7.1%にとどまっています。



	回答数	割合
地域活動の主体として実施している	3	1.4%
定期的、継続的な活動に参加している	12	5.7%
活動に参加したことがある	46	21.8%
参加したことがない	141	66.8%
無回答	9	4.3%
合計	211	100.0%

⑪ 関わりを継続している理由は何ですか（すべてに○）。

- 「楽しい、リフレッシュできる」(35.1%)が最も多く、次いで「いろんな人との出会いやつながりがあり、共感を得ることができる」(25.6%)、「家族の事情や地域との関係性がある」(19.9%)の順となっています。
- 年齢別に見ると、20 歳代では「家族の事情や地域との関係性がある」が 43.5%であり、他の年齢と比べると高くなっています。30 歳代から 50 歳代では、「楽しい、リフレッシュできる」が 4 割程度と高くなっています。また、この回答は 20 歳代と 60 歳代を除くと、どの年齢においても回答割合が特に多くなっています。



<その他の記述回答>

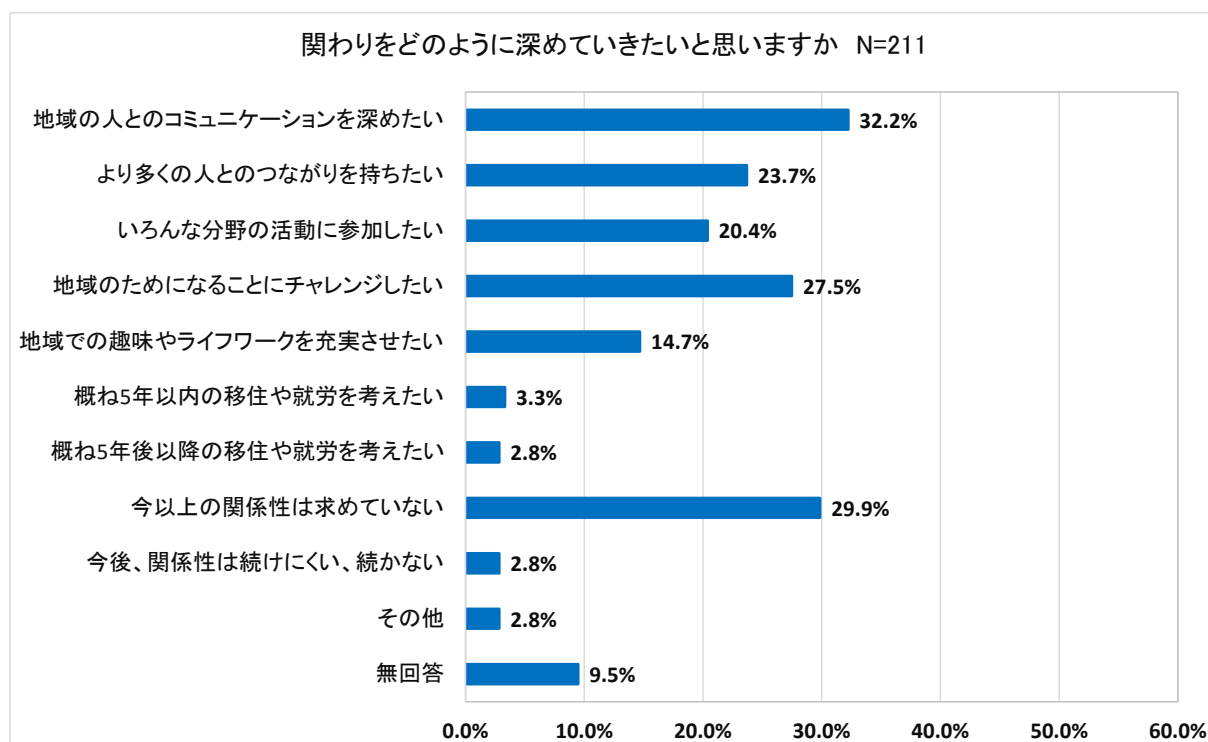
- ・ 今後、関わりを持ちたい(3)
- ・ LV 支援によってお互いの成長が得られる
- ・ 旬の里が美味しい
- ・ 一度行ってみたい
- ・ いま現在はほとんど関わっていない
- ・ 関係人口の一人としての関わり
- ・ 共感できる人がポツポツいる
- ・ 日本のモデルとして注目している
- ・ 田舎暮らしに憧れる
- ・ 別荘があるから

<年齢別における「関わりを継続している理由」についてのクロス集計結果>

	回答者数	楽しい、リフレッシュできる	生きがいを感じる、自分らしさや成長などが実現できる	同行者や滞在先の人などが喜んでい	いろんな人との出会いやつながりがあり、共感を得ることができ	人との出会いとつながりをサポートしてくれる人がいる	収入源となっている	本業の仕事がはかどる	地域の良い変化が感じられる	所属組織として取り組んでいる	家族の事情や地域との関係性がある	その他	無回答
計	211	74	21	18	54	19	7	4	30	11	42	12	37
割合 (%)		35.1	10.0	8.5	25.6	9.0	3.3	1.9	14.2	5.2	19.9	5.7	17.5
(年齢別)													%
10 歳代	4	50.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
20 歳代	23	21.7	4.3	8.7	13.0	8.7	4.3	0.0	4.3	17.4	43.5	4.3	17.4
30 歳代	36	38.9	22.2	11.1	27.8	13.9	5.6	11.1	19.4	2.8	25.0	0.0	25.0
40 歳代	48	41.7	10.4	10.4	35.4	8.3	4.2	0.0	14.6	8.3	8.3	8.3	6.3
50 歳代	43	41.9	7.0	4.7	23.3	2.3	0.0	0.0	16.3	2.3	11.6	9.3	14.0
60 歳代	37	18.9	5.4	8.1	27.0	10.8	5.4	0.0	10.8	2.7	27.0	2.7	21.6
70 歳代	13	38.5	7.7	0.0	15.4	23.1	0.0	0.0	23.1	0.0	7.7	15.4	30.8
80 歳以上	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0

⑫ 関わりをどのように深めていきたいと思いますか

- 「地域の人とのコミュニケーションを深めたい」(32.2%)が最も多く、次いで「今以上の関係性は求めている」(29.9%)、「地域のためになることにチャレンジしたい」(27.5%)の順となっています。一定数、地域の人とのコミュニケーションを深めたいという意向があることがわかります。
- その他の記述回答には、「村が少しでも長く存続できるような支援を考えたい」、「従来のつながりを継続したい」、「地域の展開に魅力がある」などが挙げられています。
- 年齢別に見ると、各世代ともに、一定数「地域の人とのコミュニケーションを深めたい」と回答しています。また、20～50 歳代においては、一定数が、「地域のためになることにチャレンジしたい」と回答しています。



<その他の記述回答>

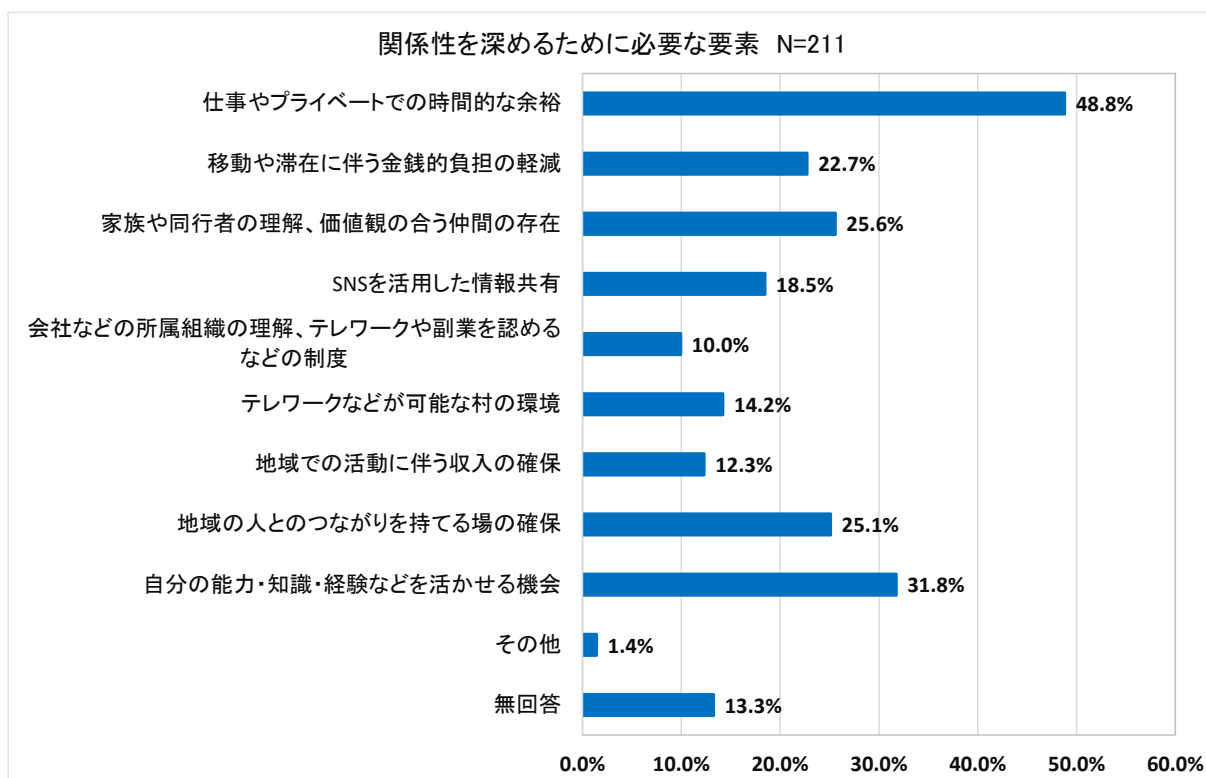
- ・ 従来のつながりを継続したい
- ・ 地域の人とのコミュニケーションを深めたい
- ・ 地域での趣味やライフワークを充実させたい
- ・ 自分自身の価値が提供出来れば嬉しい
- ・ 今後の情勢による
- ・ 情報不足でイメージが湧かない

＜年齢別における「関わりをどのように深めていきたいと思いますか」についてのクロス集計結果＞

	回答者数	地域の人のコミュニケーションを深めたい	より多くの人とのつながりを持ちたい	いろんな分野の活動に参加したい	地域のために becoming にチャレンジしたい	地域での趣味やライフワークを充実させたい	概ね5年以内の移住や就労を考えたい	概ね5年後以降の移住や就労を考えたい	今以上の関係性は求めている	今後、関係性は続けにくい、続かない	その他	無回答
計	211	68	50	43	58	31	7	6	63	6	6	20
割合 (%)		32.2	23.7	20.4	27.5	14.7	3.3	2.8	29.9	2.8	2.8	9.5
(年齢別)												%
10 歳代	4	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
20 歳代	23	26.1	17.4	13.0	26.1	13.0	4.3	0.0	30.4	4.3	4.3	13.0
30 歳代	36	38.9	25.0	27.8	30.6	22.2	2.8	5.6	25.0	0.0	2.8	5.6
40 歳代	48	35.4	27.1	31.3	37.5	25.0	4.2	4.2	18.8	0.0	4.2	4.2
50 歳代	43	23.3	23.3	16.3	25.6	11.6	7.0	0.0	41.9	2.3	2.3	4.7
60 歳代	37	35.1	21.6	5.4	18.9	5.4	0.0	5.4	27.0	8.1	2.7	18.9
70 歳代	13	30.8	23.1	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0	61.5	0.0	0.0	7.7
80 歳以上	5	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0

⑬ 関係性を深めるために必要な要素についてお答えください（すべてに○）

- 「仕事やプライベートでの時間的な余裕」(48.8%)が最も多く、次いで「自分の能力・知識・経験などを活かせる機会」(31.8%)、「家族や同行者の理解、価値観の合う仲間の存在」(25.6%)の順となっています。
- 年齢別に見ると、20 歳代から 50 歳代の働いている人が多い年齢では、「仕事やプライベートでの時間的な余裕」が 4 割以上を超えており、60 歳代以上と比較すると多くなっていることが分かります。
- 一方、60 歳代、70 歳代では「地域の人とのつながりを持てる場の確保」がともに 3 割を上回っています。



<その他の記述回答>

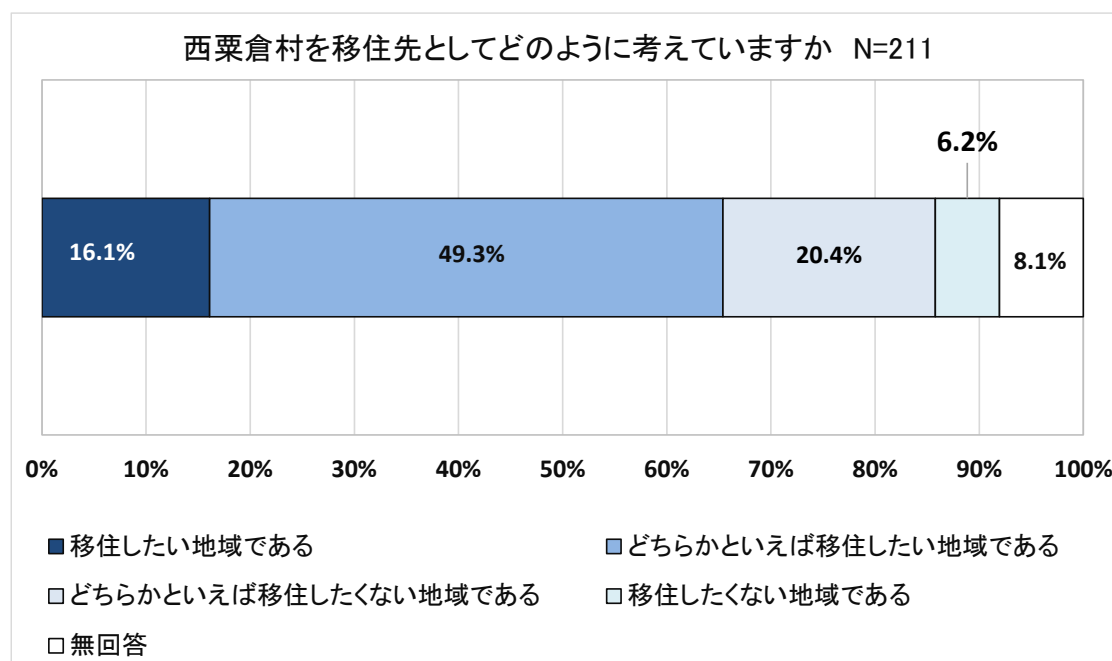
- ・ 共感できる、興味を持てる物事がある
- ・ 親族が住み続けたいかどうか
- ・ 今住んでいる地域にないものに、興味がある。

＜年齢別における「関係性を深めるために必要な要素」についてのクロス集計結果＞

	回答者数	仕事やプライベートでの時間的な余裕	移動や滞在に伴う金銭的負担の軽減	家族や同行者の理解、価値観の合う仲間の存在	SNSを活用した情報共有	会社などの所属組織の理解、テレワークや副業を認めるなどの制度	テレワークなどが可能な村の環境	地域での活動に伴う収入の確保	地域の人のつながりを持てる場の確保	自分の能力・知識・経験などを活かせる機会	その他	無回答
計	211	103	48	54	39	21	30	26	53	67	3	28
割合(%)		48.8	22.7	25.6	18.5	10.0	14.2	12.3	25.1	31.8	1.4	13.3
(年齢別) %												
10 歳代	4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	23	47.8	13.0	17.4	8.7	0.0	13.0	21.7	8.7	13.0	4.3	17.4
30 歳代	36	58.3	30.6	36.1	16.7	19.4	22.2	13.9	19.4	52.8	0.0	0.0
40 歳代	48	75.0	29.2	41.7	22.9	20.8	18.8	22.9	37.5	43.8	0.0	2.1
50 歳代	43	58.1	20.9	14.0	25.6	2.3	18.6	9.3	14.0	27.9	0.0	11.6
60 歳代	37	13.5	10.8	10.8	8.1	5.4	2.7	2.7	37.8	18.9	5.4	35.1
70 歳代	13	7.7	30.8	23.1	23.1	0.0	7.7	0.0	30.8	30.8	0.0	23.1
80 歳以上	5	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0

⑭ 西栗倉村を移住先としてどのように考えていますか（１つに○）。

- 「移住したい地域である」、「どちらかといえば移住したい地域である」をあわせた『移住したい地域である』が 65.4%あり、過半数を上回っていることが分かります。一方、「どちらかといえば移住したくない地域である」、「移住したくない地域である」をあわせた『移住したくない地域である』は 26.6%となっています。
- 年齢別に見ると、どの年齢においても「どちらかといえば移住したい地域である」が最も多くなっています。



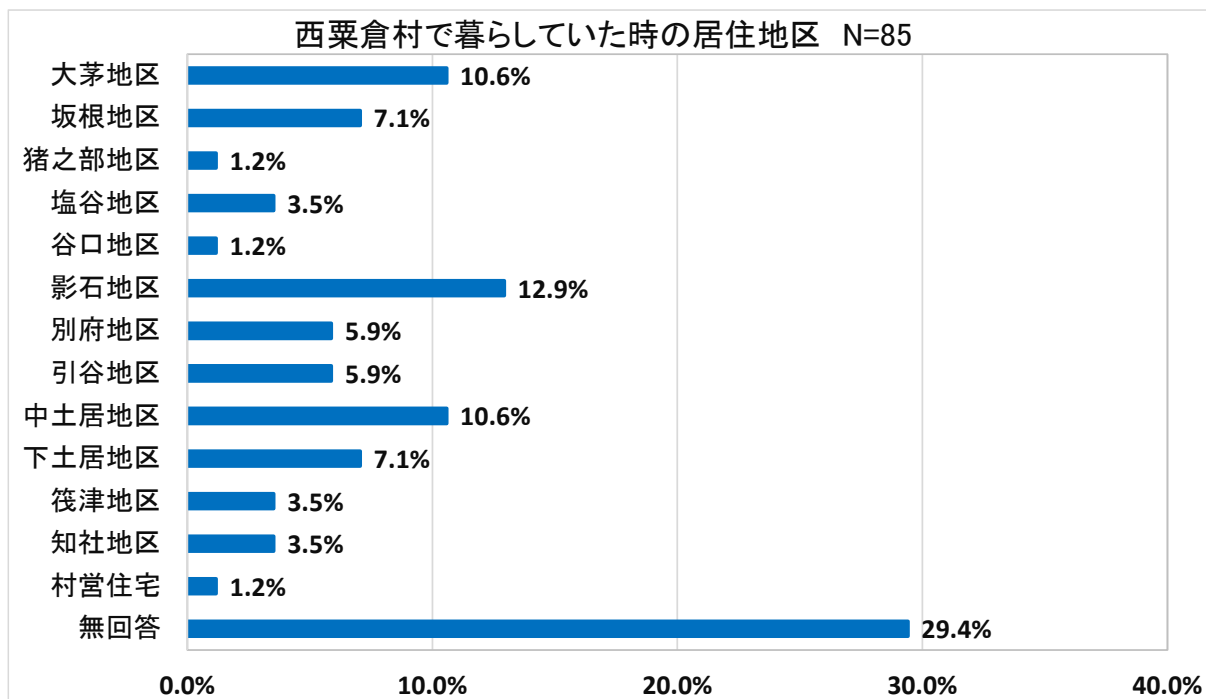
<年齢別における「西栗倉村を移住先としてどのように考えていますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	移住したい地域である	どちらかといえば移住したい地域である	どちらかといえば移住したくない地域である	移住したくない地域である	無回答
計	211	34	104	43	13	17
割合 (%)		16.1	49.3	20.4	6.2	8.1
(年齢別)						%
10 歳代	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
20 歳代	23	17.4	34.8	34.8	8.7	4.3
30 歳代	36	25.0	38.9	22.2	2.8	11.1
40 歳代	48	12.5	58.3	20.8	8.3	0.0
50 歳代	43	16.3	65.1	14.0	2.3	2.3
60 歳代	37	13.5	48.6	13.5	8.1	16.2
70 歳代	13	15.4	30.8	30.8	7.7	15.4
80 歳以上	5	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0

問2 「西栗倉村に住んだことがある」方にお聞きします

※問2において設問を1問でも回答している。または問1-5 出身地で、「西栗倉村」を選択した回答者を母数（N=85）とした。

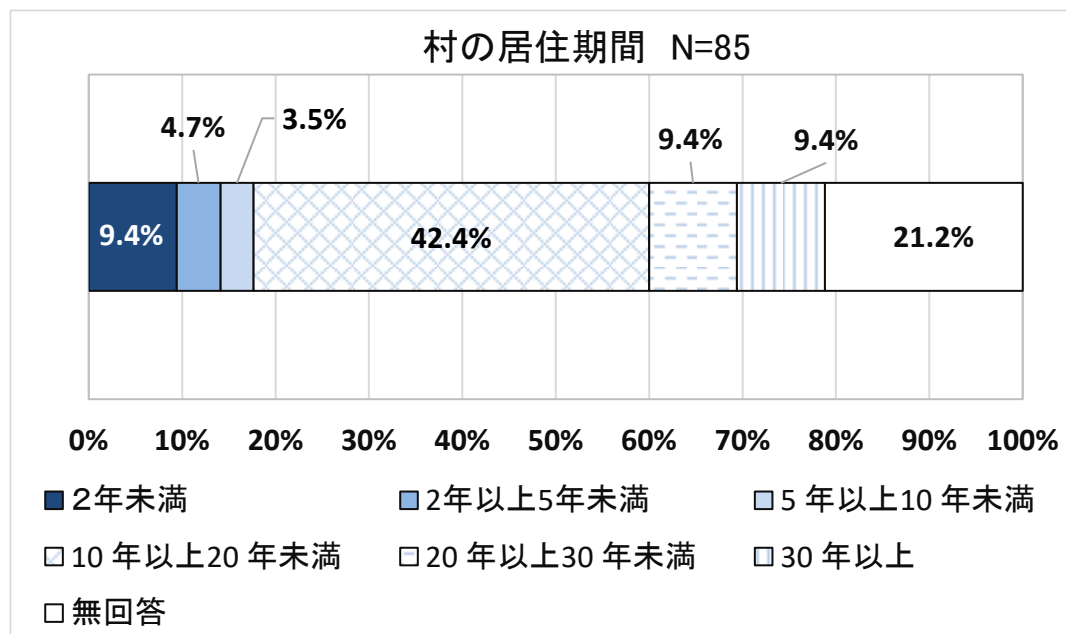
① 西栗倉村で暮らしていた時の居住地区はどこですか（すべてに○）。また、村営住宅にまわっていた方は、「13 村営住宅」にも○をしてください。



	回答数	割合
大茅地区	9	10.6%
坂根地区	6	7.1%
猪之部地区	1	1.2%
塩谷地区	3	3.5%
谷口地区	1	1.2%
影石地区	11	12.9%
別府地区	5	5.9%
引谷地区	5	5.9%
中土居地区	9	10.6%
下土居地区	6	7.1%
筏津地区	3	3.5%
知社地区	3	3.5%
村営住宅	1	1.2%
無回答	25	29.4%
合計	88	103.5%

② 村の居住期間は何年ですか（1 つに○）。

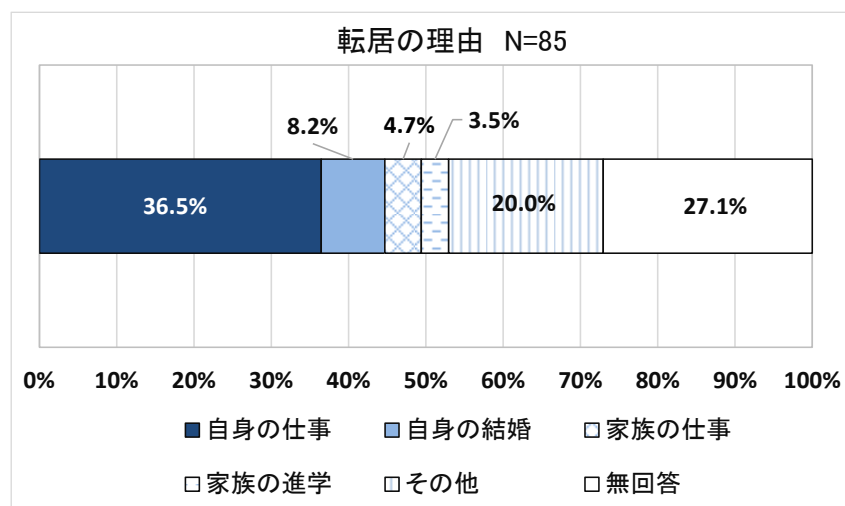
○ 「10 年以上 20 年未満」(43.9%)が最も多くなっており、4 割以上をしめています。次いで、「2 年未満」、「20 年以上 30 年未満」、「30 年以上」がともに 9.8%となっています。



	回答者数	パーセント
2 年未満	8	9.4%
2 年以上 5 年未満	4	4.7%
5 年以上 10 年未満	3	3.5%
10 年以上 20 年未満	36	42.4%
20 年以上 30 年未満	8	9.4%
30 年以上	8	9.4%
無回答	18	21.2%
合計	85	100.0%

③ 転居理由は何ですか（1 つに○）。

- 「自身の仕事」(36.5%)が最も多く、次いで「その他」(20.0%)、「自身の結婚」(8.5%)の順となっています。
- 年齢別に見ると、どの年齢においても「自身の仕事」が最も多くなっています。
- その他の回答としては、「自身の進学」(11 回答)が最も多く、進学のために村を離れている人が多いことが分かります。この他には、「別荘で使用」、「家族の出身地である慣れた地区に引越した」などが挙げられています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「自身の仕事」、「自身の結婚」の割合が変化がほとんど見られず、高い状況が続いています。



<その他の記述回答>

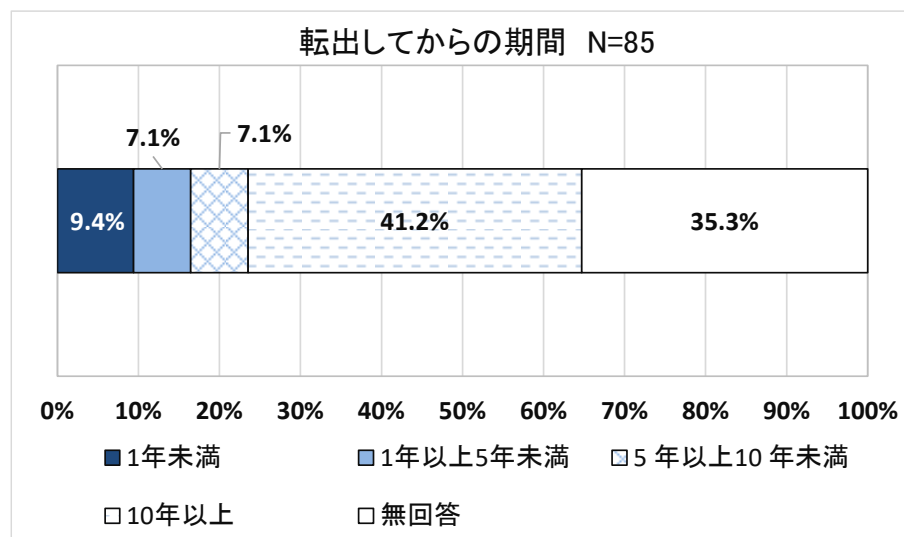
- ・ 自身の進学(11)
- ・ 自身の他市町村での就業
- ・ 住んでいません
- ・ 別荘で使用(2)
- ・ 家族の出身地である慣れた地区に引越した
- ・ 親族の死亡

<年齢別における「転居理由」のクロス集計結果>

	回答者数	自身の仕事	自身の結婚	家族の仕事	家族の進学	その他	無回答
計	85	31	7	4	3	17	23
割合 (%)		36.5	8.2	4.7	3.5	20.0	27.1
(年齢別)							%
10 歳代	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
20 歳代	14	35.7	0.0	0.0	14.3	35.7	14.3
30 歳代	11	63.6	0.0	0.0	0.0	18.2	18.2
40 歳代	11	18.2	9.1	9.1	0.0	18.2	45.5
50 歳代	13	30.8	7.7	7.7	0.0	15.4	38.5
60 歳代	18	50.0	16.7	5.6	0.0	0.0	27.8
70 歳代	11	36.4	9.1	0.0	9.1	27.3	18.2
80 歳以上	4	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0

④ 転出してからどれくらいの期間がたっていますか（1 つに○）。

- 「10 年以上」が 42.7%と最も多くなっており、村を離れてからの期間が長い人が多いことが分かります。次いで、「1 年未満」(9.8%)であり、約 1 割となっています。
- 年齢別に見ると、20 歳代を除くすべての年齢で「10 年以上」が最も多くなっています。また、40 歳代以降では「1 年以上 5 年未満」、「5 年以上 10 年未満」の人はほとんど確認されていません。

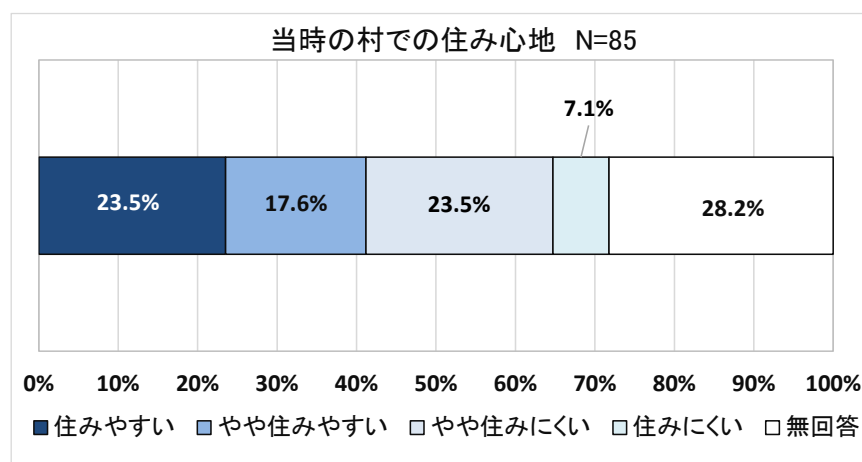


< 年齢別における「転出してから期間」についてのクロス集計結果 >

	回答者数	1 年未満	1 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上	無回答
計	85	8	6	6	35	30
割合 (%)		9.4	7.1	7.1	41.2	35.3
(年齢別)						%
10 歳代	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
20 歳代	14	7.1	28.6	35.7	14.3	14.3
30 歳代	11	27.3	9.1	0.0	36.4	27.3
40 歳代	11	9.1	0.0	0.0	27.3	63.6
50 歳代	13	7.7	0.0	0.0	53.8	38.5
60 歳代	18	0.0	0.0	5.6	66.7	27.8
70 歳代	11	9.1	0.0	0.0	45.5	45.5
80 歳以上	4	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0

⑤ 当時の村での住み心地はどうでしたか（1つに○）。

- 「住みやすい」、「やや住みやすい」をあわせた『住みやすい』が 42.7%であり、「やや住みにくい」、「住みにくい」をあわせた『住みにくい』が 31.7%となっています。
- 『住みやすい』理由としては、「自然が豊か」(6 回答)が最も多く、次いで「落ち着いた環境があるから」、「子どものころ過ごした場所であるため」がともに(3 回答)となっています。
- 『住みにくい』理由としては、「交通手段が少ない」(11 回答)が最も多く、次いで「買い物が不便」(4 回答)、「地域での共通のコミュニケーションの場が少ない」(2 回答)となっています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、『住みにくい』(「やや住みにくい」、「住みにくい」の合計)が高くなっています。一方、『住みやすい』(「住みやすい」、「やや住みやすい」の合計)については変化ほとんどありません。

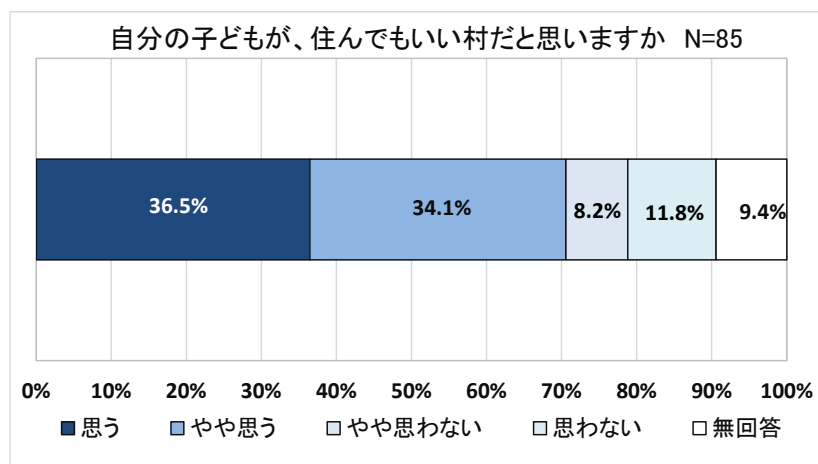


<理由の記述回答>

住みやすい、やや住みやすいの回答者の理由	やや住みにくい、住みにくい回答者の理由
・ 自然が豊か(6) ・ 子どものころ過ごした場所であるため(3) ・ 落ち着いた環境があるから(3) ・ 戸建てが多く、家が広い ・ アウトドアができる場所がある ・ 長い間住んでいたため ・ 人間関係が良く、人情味がある ・ おいしいレストランがたくさんあり、エンターテイメントも不自由しないくらいにある。 ・ 村民性が良い ・ 特になし ・ バイパスできて移動が楽になった ・ 自然が多く涼しい	・ 交通手段が少ない(11) ・ 買い物が不便(4) ・ 地域での共通のコミュニケーションの場が少ない(2) ・ 同年代の人が少ない(2) ・ コンビニのようなすぐ利用できる店が少ない ・ 積雪が多い ・ 病院、学校等が遠くて不便 ・ 近所の住民の目や口調が気になる ・ 習い事選択肢が少ない ・ 近くに娯楽施設が少ない ・ 閉鎖的な環境であった ・ 公共料金が高い ・ 若者が生活しやすい環境がまだ整っていない ・ 魅力に感じるものがあまりなかった ・ 道路整備が未熟 ・ 水道、下水道が無く生活等に制限があった ・ 物が少ない時代だった

⑥ 自分の子どもが、住んでも良い村だと思いますか（１つに○）。

- 「思う」、「やや思う」をあわせた『思う』が 73.2%であり、「やや思わない」、「思わない」をあわせた『思わない』が 20.7%となっており、『思う』と回答した人が過半数を上回っています。
- 性別に見ると、女性の方が男性よりも「自分の子どもが、住んでいいと思う」の割合が高くなっています。

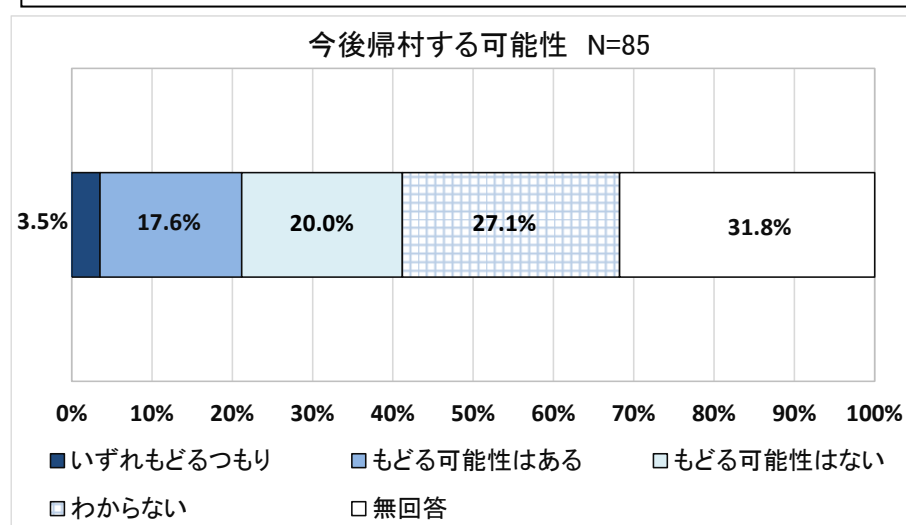


<性別における「自分の子どもが、住んでも良い村だと思いますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	思う	やや思う	やや思わない	思わない	無回答
計	85	31	29	7	10	8
割合 (%)		36.5	34.1	8.2	11.8	9.4
(性別)						%
男性	49	34.7	34.7	10.2	12.2	8.2
女性	33	39.4	33.3	6.1	12.1	9.1
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答しない	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

⑦ あなた自身は、今後帰村する可能性はありますか（1 つに○）。

- 「いずれもどるつもり」、「もどる可能性はある」をあわせた『もどるつもり』が 22.0%であり、「もどる可能性はない」が 20.7%と同じくらいの割合となっています。また、「わからない」が 28.0%となっています。
- 年齢別に見ると、50 歳代では「もどる可能性はある」が 30.8%であり、他の年齢と比べるとやや多くなっています。一方、30 歳代では「もどる可能性はない」が 36.4%となっており、他の年齢と比べると高くなっています。
- 「わからない」については、70 歳代で最も多く(45.5%)、次いで 50 歳代(38.5%)、20 歳代(35.7%)の順になっており、年齢による相関性がないと考えられます。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「もどる可能性はない」の割合が低下し、「分からない」の割合が増加したため、現在帰村に悩んでいる人が増えていることが分かります。

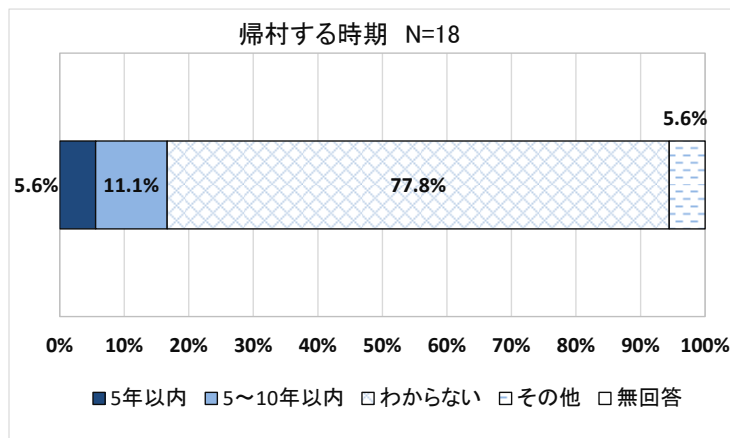


<年齢別における「今後帰村する可能性」についてのクロス集計結果>

	回答者数	いずれもどるつもり	もどる可能性はある	もどる可能性はない	わからない	無回答
計	85	3	15	17	23	27
割合 (%)		3.5	17.6	20.0	27.1	31.8
(年齢別)						%
10 歳代	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
20 歳代	14	7.1	28.6	14.3	35.7	14.3
30 歳代	11	0.0	27.3	36.4	9.1	27.3
40 歳代	11	0.0	9.1	27.3	0.0	63.6
50 歳代	13	0.0	30.8	7.7	38.5	23.1
60 歳代	18	11.1	16.7	22.2	16.7	33.3
70 歳代	11	0.0	0.0	27.3	45.5	27.3
80 歳以上	4	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0

⑧ 帰村する時期はいつごろを思われていますか（1つに○）。

○ 「わからない」(77.8%)が最も多くなっており、具体的に帰村する時期が決まっていない人が多いことが分かります。次に多いのは、「5～10年以内」(11.1%)となっています。



	回答数	割合
5年以内	1	5.6%
5～10年以内	2	11.1%
わからない	14	77.8%
その他	1	5.6%
無回答	0	0.0%
合計	18	100.0%

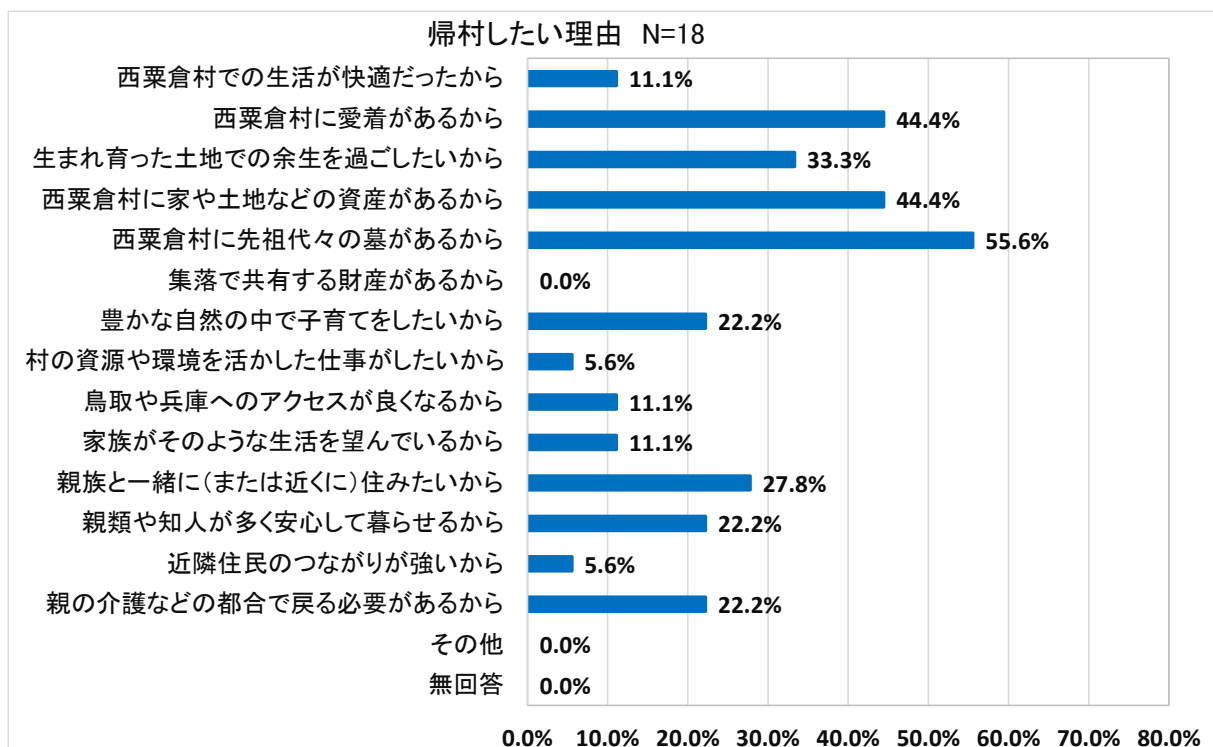
<その他の記述回答>

- ・ 住んでいる

⑨ 帰村したい理由は何ですか（すべてに○）。

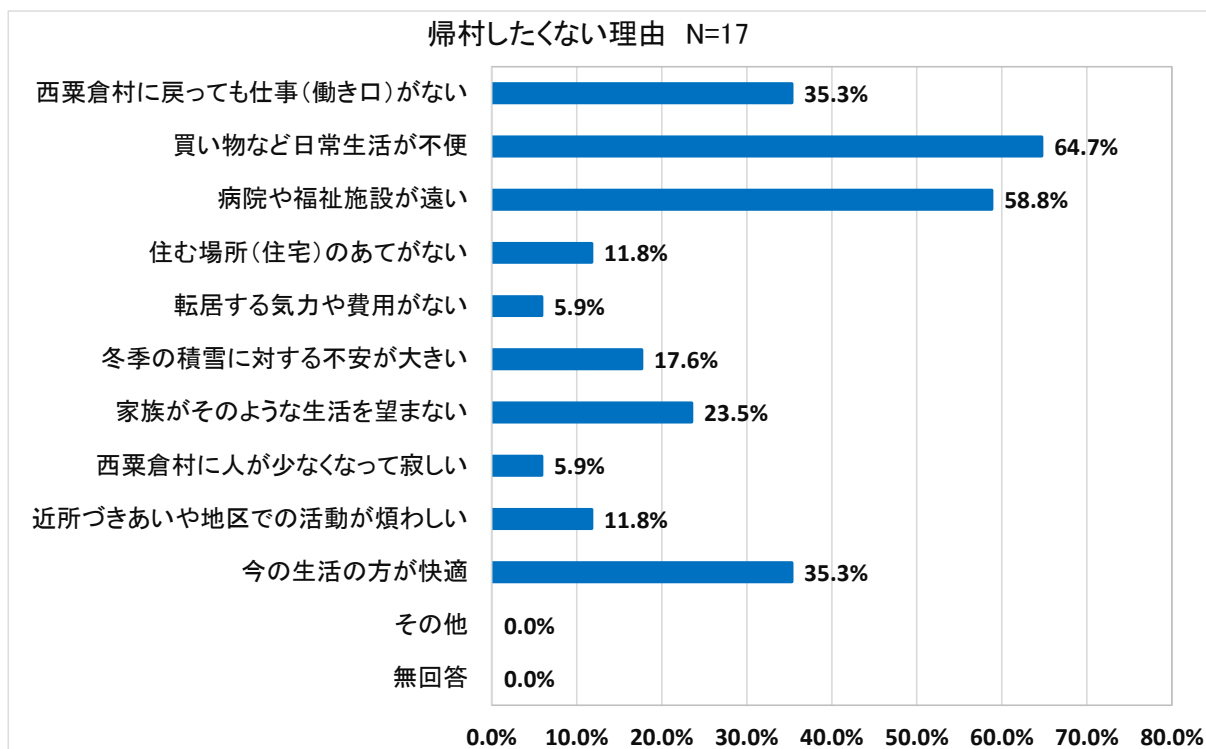
○ 「西栗倉村に先祖代々の墓があるから」(55.6%)が最も多く、次いで「西栗倉村に愛着があるから」(44.4%)、「西栗倉村に家や土地などの資産があるから」(44.4%)の順となっており、西栗倉村に家族の資産があることが理由で帰村を考えている人が多いことが分かります。

○ 過去のアンケート結果と比較すると、親族や知人の近くに住みたいや豊かな子育て環境を求めて帰村している人が増えており、帰村理由にも変化が見られています。



⑩ 帰村したくない理由は何ですか（すべてに○）。

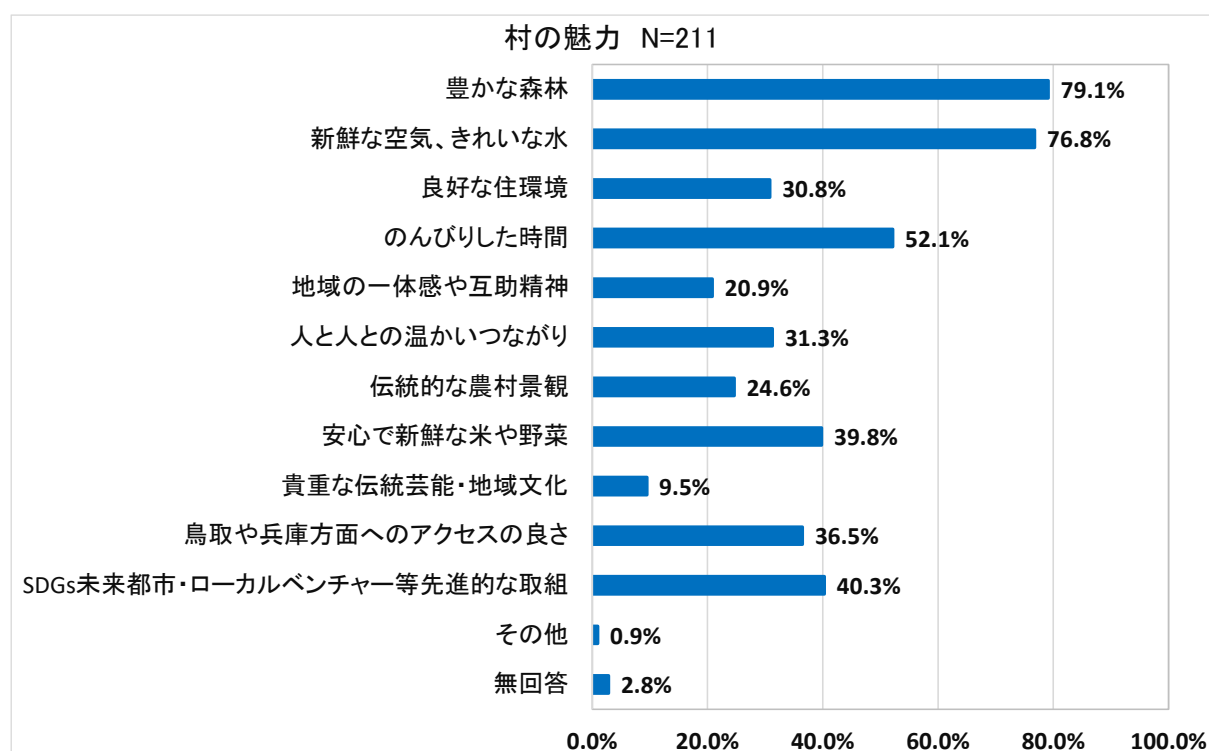
- 「買い物など日常生活が不便」(64.7%)が最も多く、次いで「病院や福祉施設が遠い」(58.8%)、が過半数を上回っており、非常に多くなっています。また、「西栗倉村に戻っても仕事（働き口）がない」、「今の生活の方が快適」も3割を超えています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「買い物など日常生活が不便」や「病院や福祉施設が遠い」の割合が倍増しており、日常生活の不安から帰村したくないと思う人が増えています。一方、「村での働き口がない」の割合は減少しております。



問3 全ての方にお聞きします。西栗倉村の魅力や将来の村づくりについて

① 村の魅力は何だと思いますか（すべてに○）。

- 「豊かな森林」(79.1%)が最も多く、「新鮮な空気、きれいな水」(76.8%)の順となり、7割を上回っており、村の自然環境に対する評価が非常に高いことが分かります。また、「のんびりした時間」(52.1%)も過半数を上回っています。
- 年齢別に見ると、20歳代では、自然環境に関する「豊かな森林」、「新鮮な空気、きれいな水」の項目が共に9割近くになっており、他の年齢と比べると高くなっています。どの年齢においても、自然環境に関する項目の回答が一番多くなっています。
- 「豊かな森林」や「新鮮な空気、きれいな水」の村の自然の豊かさは、過去のアンケート結果より高い評価を得ています。また、「のんびりした空間」や「鳥取や兵庫方面のアクセスの良さ」の割合も2割以上増加しており、評価を高めています。



<その他の記述回答>

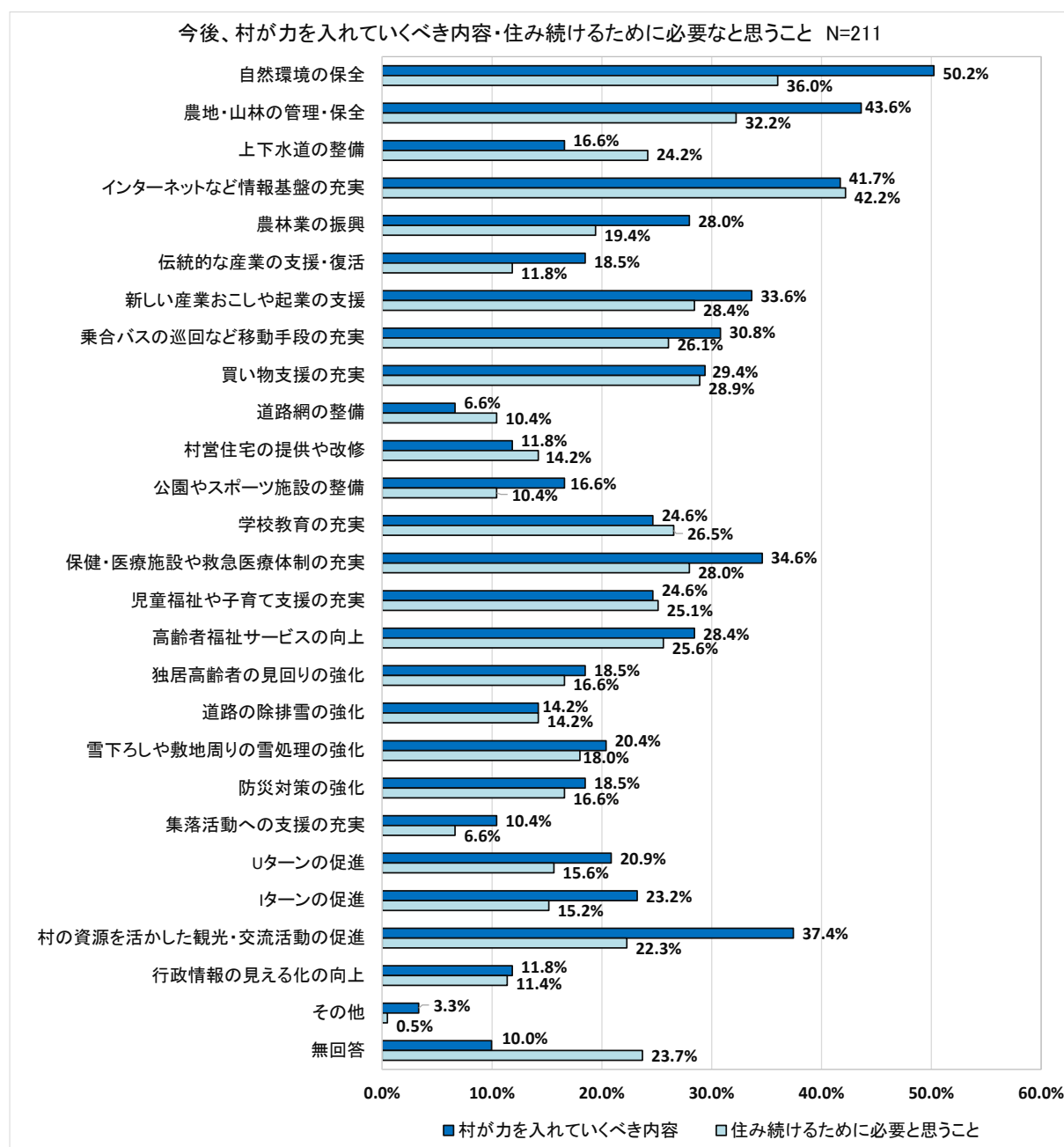
- ・ 地域外の人たちのチャレンジを受け入れる寛容さ
- ・ まだ分からない

＜年齢別における「村の魅力」についてのクロス集計結果＞

	回答者数	豊かな森林	新鮮な空気、きれいな水	良好な住環境	のんびりした時間	地域の一体感や互助精神	人と人との温かいつながり	伝統的な農村景観	安心で新鮮な米や野菜	貴重な伝統芸能・地域文化	鳥取や兵庫方面へのアクセスの良さ	SDGs 未来都市・ローカルベンチャー等先進的な取組	その他	無回答
計	211	167	162	65	110	44	66	52	84	20	77	85	2	6
割合(%)		79.1	76.8	30.8	52.1	20.9	31.3	24.6	39.8	9.5	36.5	40.3	0.9	2.8
(年齢別)														%
10 歳代	4	100.0	75.0	50.0	75.0	0.0	50.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
20 歳代	23	91.3	87.0	17.4	60.9	4.3	34.8	17.4	47.8	0.0	17.4	34.8	0.0	4.3
30 歳代	36	75.0	69.4	27.8	44.4	38.9	33.3	22.2	41.7	13.9	33.3	52.8	0.0	2.8
40 歳代	48	85.4	81.3	29.2	60.4	27.1	35.4	27.1	37.5	10.4	41.7	50.0	4.2	0.0
50 歳代	43	79.1	83.7	44.2	55.8	23.3	30.2	37.2	44.2	11.6	37.2	46.5	0.0	0.0
60 歳代	37	73.0	75.7	32.4	37.8	13.5	32.4	24.3	45.9	10.8	45.9	27.0	0.0	5.4
70 歳代	13	69.2	61.5	15.4	53.8	7.7	15.4	0.0	15.4	7.7	30.8	23.1	0.0	0.0
80 歳以上	5	60.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0

② 今後、村が力を入れていくべきことは何だと思えますか。また、もし、あなたが移住するとして、住み続けるために何が必要だと思えますか。(それぞれすべてに○)

- 村が力を入れていくべき内容は、「自然環境の保全」(50.2%)が最も多く、次いで「農地・山林の管理・保全」(43.6%)、「インターネットなど情報基盤の充実」(41.7%)の順となっており、自然環境の保全に対する意識が高いことが分かります。
- 住み続けるために必要なことは、「インターネットなど情報基盤の充実」(41.2%)が最も多く、次いで「自然環境の保全」(36.0%)、「農地・山林の管理・保全」(32.2%)の順となっています。
- 「その他」の記述内容には、「収入の確保」、「SDGs の推進とアピール」、「村づくりのいろいろな場面における女性参加」などが挙げられています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、住むために必要なものでは「インターネットなど情報基盤の充実」の割合が増加しています。村が力を入れるべき内容においても「インターネットなど情報基盤の充実」の割合が増加しています。



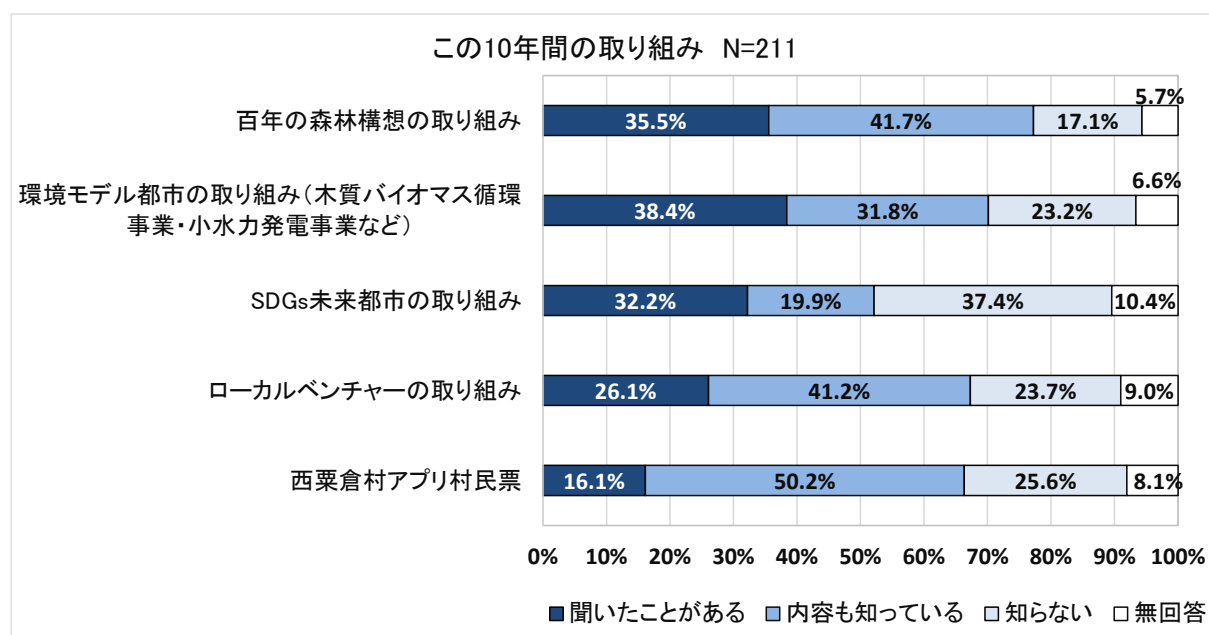
	村が力を入れていくべき内容 (%)	住み続けるために必要と思うこと (%)
自然環境の保全	50.2%	36.0%
農地・山林の管理・保全	43.6%	32.2%
上下水道の整備	16.6%	24.2%
インターネットなど情報基盤の充実	41.7%	42.2%
農林業の振興	28.0%	19.4%
伝統的な産業の支援・復活	18.5%	11.8%
新しい産業おこしや起業の支援	33.6%	28.4%
乗合バスの巡回など移動手段の充実	30.8%	26.1%
買い物支援の充実	29.4%	28.9%
道路網の整備	6.6%	10.4%
村営住宅の提供や改修	11.8%	14.2%
公園やスポーツ施設の整備	16.6%	10.4%
学校教育の充実	24.6%	26.5%
保健・医療施設や救急医療体制の充実	34.6%	28.0%
児童福祉や子育て支援の充実	24.6%	25.1%
高齢者福祉サービスの向上	28.4%	25.6%
独居高齢者の見回りの強化	18.5%	16.6%
道路の除排雪の強化	14.2%	14.2%
雪下ろしや敷地周りの雪処理の強化	20.4%	18.0%
防災対策の強化	18.5%	16.6%
集落活動への支援の充実	10.4%	6.6%
Uターンの促進	20.9%	15.6%
Iターンの促進	23.2%	15.2%
村の資源を活かした観光・交流活動の促進	37.4%	22.3%
行政情報の見える化の向上	11.8%	11.4%
その他	3.3%	0.5%
無回答	10.0%	23.7%

<その他の記述回答>

○村が力を入れていくべき内容	○住み続けるために必要なこと
・ 収入の確保 ・ 教育者の不祥事撲滅 ・ SDGs の推進とアピール ・ エネルギー活用 ・ 村づくりのいろいろな場面における女性参加 ・ 仕事 ・ 分からない(2)	・ すでにできていることもこれからもずっと必要だと思うのですべてに○を付けました ・ 収入の確保 ・ 分からない

③ この10年間の取り組みについて、どの程度ご存じですか（それぞれ1つに○）。

- 「内容も知っている」では、「西栗倉村アプリ村民票」(50.2%)が最も多く、過半数を上回っています。次いで、「百年の森林構想の取り組み」(41.7%)、「ローカルベンチャーの取り組み」(41.2%)となっています。
- 一方、「知らない」では、「SDGs 未来都市の取り組み」(37.4%)が最も多く、次いで「西栗倉村アプリ村民票」(25.6%)、「ローカルベンチャーの取り組み」(23.7%)の順になっています。特に、「SDGs 未来都市の取り組み」については、「内容も知っている」が 19.9%となっており、他の項目と比べて低くなっているため、村外に向けた取組の周知が必要になると思われます。
- 年齢別に見ると、40 歳代、50 歳代では「西栗倉村アプリ村民票」の認知度が 6 割を超えており、他の年齢と比べると高くなっています。



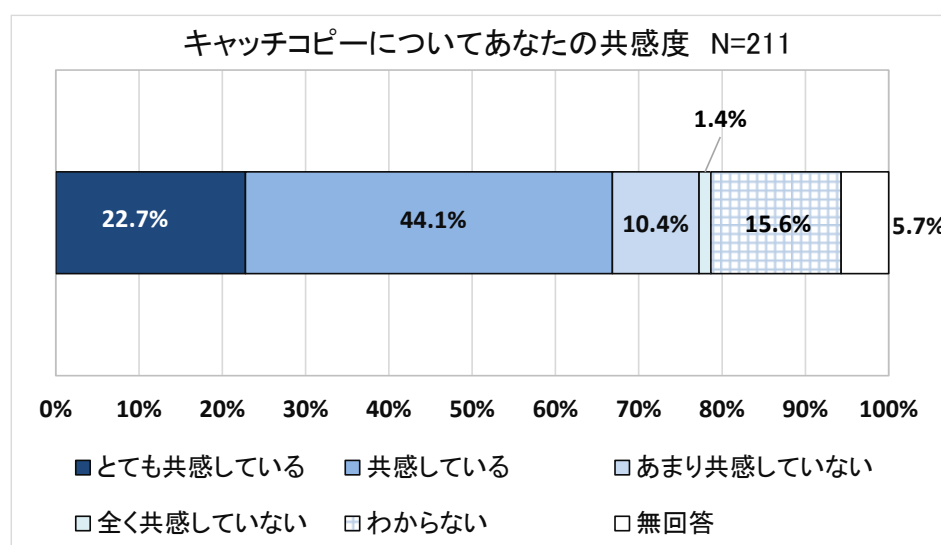
	聞いたことがある	内容も知っている	知らない	無回答
百年の森林構想の取り組み	35.5%	41.7%	17.1%	5.7%
環境モデル都市の取り組み(木質バイオマス循環事業・小水力発電事業など)	38.4%	31.8%	23.2%	6.6%
SDGs 未来都市の取り組み	32.2%	19.9%	37.4%	10.4%
ローカルベンチャーの取り組み	26.1%	41.2%	23.7%	9.0%
西栗倉村アプリ村民票	16.1%	50.2%	25.6%	8.1%

<年齢別における「この10年間の取り組み」について「内容も知っている」のクロス集計結果>

	回答者数	百年の森林構想の取り組み	環境モデル都市の取り組み (木質バイオマス循環事業・小水力発電事業など)	SDGs 未来都市の取り組み	ローカルベンチャーの取り組み	西栗倉村アプリ村民票
計	211	88	67	42	87	106
割合(%)		41.7	31.8	19.9	41.2	50.2
(年齢別)		%				
10 歳代	4	75.0	75.0	25.0	50.0	25.0
20 歳代	23	52.2	34.8	21.7	39.1	43.5
30 歳代	36	50.0	30.6	19.4	50.0	52.8
40 歳代	48	41.7	37.5	27.1	54.2	62.5
50 歳代	43	44.2	34.9	20.9	44.2	62.8
60 歳代	37	32.4	24.3	13.5	27.0	37.8
70 歳代	13	23.1	15.4	15.4	15.4	30.8
80 歳以上	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

- ④ 西栗倉村では、2030 年に向かって「生きるを楽しむ」をキャッチコピーに、一人ひとりの人生にフォーカスした取組を進めています。このキャッチコピーについて、あなたの共感度について教えてください（1 つに○）。

- 「とても共感している」、「共感している」をあわせた『共感している』が 66.8%となっており、過半数を上回っています。一方、「あまり共感していない」、「全く共感していない」をあわせた『共感していない』が 11.8%となっています。
- 年齢別に見ると、40 歳代では、「とても共感している」、「共感している」をあわせた『共感している』が 85.4%であり、他の年齢と比べると高くなっています。どの年齢においても、『共感している』の割合が高く、キャッチコピーに共感している人の多いことが分かります。

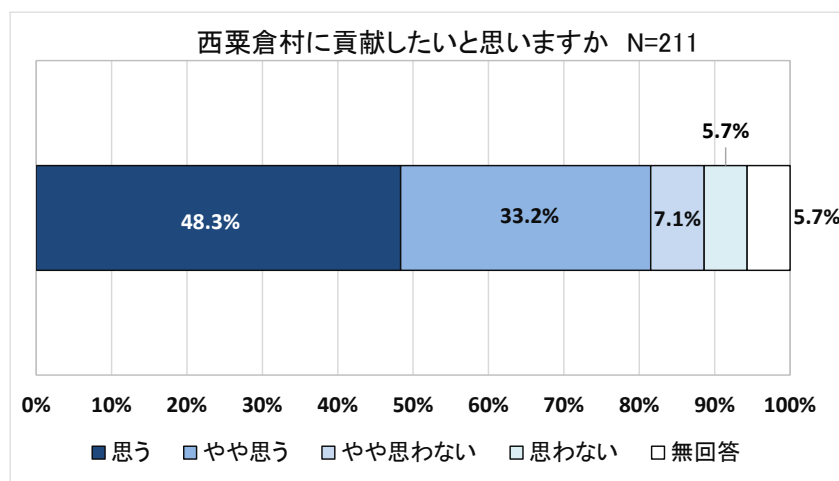


<年齢別における「キャッチコピーについてあなたの共感度」についてのクロス集計結果>

	回答者数	とても共感している	共感している	あまり共感していない	全く共感していない	わからない	無回答
計	211	48	93	22	3	33	12
割合 (%)		22.7	44.1	10.4	1.4	15.6	5.7
(年齢別)							%
10 歳代	4	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0
20 歳代	23	26.1	30.4	8.7	0.0	26.1	8.7
30 歳代	36	38.9	38.9	13.9	0.0	2.8	5.6
40 歳代	48	35.4	50.0	2.1	0.0	10.4	2.1
50 歳代	43	18.6	58.1	11.6	2.3	9.3	0.0
60 歳代	37	2.7	43.2	16.2	2.7	24.3	10.8
70 歳代	13	15.4	30.8	7.7	7.7	23.1	15.4
80 歳以上	5	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0

⑤ 西栗倉村に貢献したいと思いますか（1つに○）。

- 「思う」、「やや思う」をあわせた『思う』が 81.5%であり、8 割を超えているため、西栗倉村に貢献したいと思う人が数多くいることが分かります。一方、「やや思わない」、「思わない」をあわせた『思わない』が 12.8%となっています。
- 年齢別に見ると、10歳代を除く、すべての年齢においても「思う」の回答が一番多くなっており、30 歳代では「思う」が 6 割を超えて、特に多くなっています。



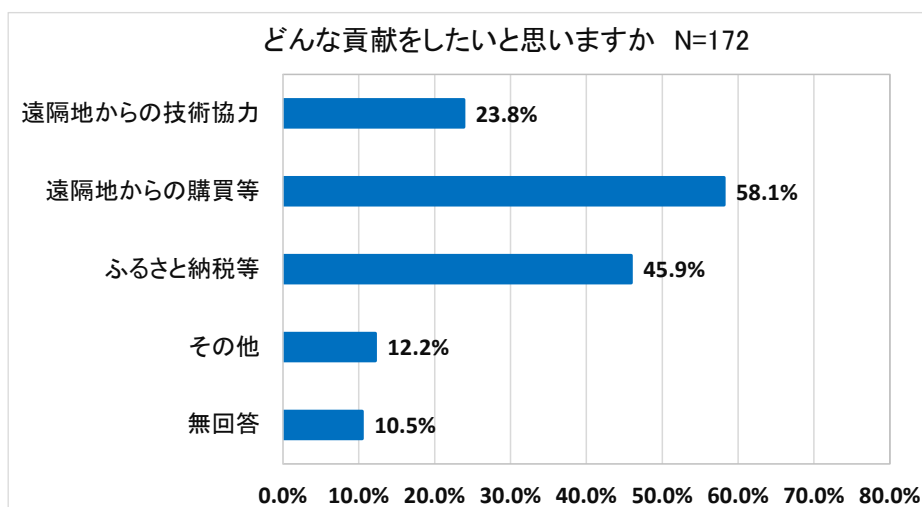
<年齢別における「西栗倉村に貢献したいと思いますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	思う	やや思う	やや思わない	思わない	無回答
計	211	102	70	15	12	12
割合 (%)		48.3	33.2	7.1	5.7	5.7
(年齢別)						%
10 歳代	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
20 歳代	23	39.1	34.8	0.0	17.4	8.7
30 歳代	36	66.7	25.0	0.0	2.8	5.6
40 歳代	48	58.3	31.3	8.3	0.0	2.1
50 歳代	43	44.2	44.2	9.3	2.3	0.0
60 歳代	37	40.5	29.7	13.5	5.4	10.8
70 歳代	13	30.8	23.1	7.7	23.1	15.4
80 歳以上	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

⑥ 全問⑤で「思う」「やや思う」と回答した方にお尋ねします。

どんな貢献をしたいと思いますか(すべてに○)。

- 「遠隔地からの購買等」(58.1%)が最も多くなっており、次いで「ふるさと納税等」(45.9%)となっています。また、遠隔地からの技術協力を一定数います。
- 「その他」の記述内容としては、「訪れて消費活動をする」、「観光」、「仕事」、「福祉活動」などが挙げられています。
- 年齢別に見ると、20 歳代や 30 歳代の若い年齢の世代では「ふるさと納税等」が 4 割以上となっており、他の年齢と比べる多くなっています。一方、40 歳代以上の世代では、「遠隔地からの購買等」が 6 割を超え、特に高くなっています。



<その他の記述回答>

○どんな貢献をしたいと思いますか。

- ・ 仕事上での貢献
- ・ 賑やかになるような事
- ・ 福祉活動
- ・ 林業再生支援活動
- ・ ローカルベンチャー支援
- ・ 観光
- ・ 移住して就労した上での社会活動
- ・ 地元の産業支援
- ・ 遠隔地からアドバイザーとして
- ・ 過疎化からくる活力減少みたいなはあると思うから出来ることはする
- ・ 仕事
- ・ 訪れて消費活動をする
- ・ 事業支援
- ・ 企業支援
- ・ 人と人の繋がり
- ・ 村での活動
- ・ 観光支援に携わりたい
- ・ 寄った時には売り上げ協力
- ・ 実際に訪れる

<年齢別における「どんな貢献をしたいと思いますか」についてのクロス集計結果>

	回答者数	遠隔地からの技術協力	遠隔地からの購買等	ふるさと納税等	その他	無回答
計	172	41	100	79	21	18
割合 (%)		23.8	58.1	45.9	12.2	10.5
(年齢別)						%
10 歳代	4	0.0	50.0	75.0	0.0	0.0
20 歳代	17	11.8	41.2	47.1	23.5	29.4
30 歳代	33	33.3	36.4	51.5	21.2	6.1
40 歳代	43	34.9	62.8	53.5	9.3	7.0
50 歳代	38	23.7	73.7	39.5	2.6	7.9
60 歳代	26	11.5	61.5	38.5	11.5	15.4
70 歳代	7	14.3	71.4	28.6	14.3	14.3
80 歳以上	2	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0

○遠隔地からの技術協力で具体的に何をしたいと思いますか。

・ ローカルベンチャー支援 (4) ・ IT 面での協力 ・ インターネット関連 ・ 教育の提供 ・ ドローンによる空撮、計測、レーザー計測 ・ 設計施工管理、運営保守など ・ 機械加工や修理ノウハウの提供 ・ ビジネス支援アイデア、作業、営業他 ・ ローカルベンチャーとの協働 ・ エネルギー、センサ技術等 ・ 経営学、プロジェクトマネジメント、プロダクトマネジメントによる LV 支援 ・ 副業のような形でノウハウ提供 ・ 財務経営支援 ・ ブロックチェーンによる分散型システム、電力 P2P ・ 環境学習 ・ 森林整備 ・ 企画のサポートや原稿制作等のサポート ・ 自分の仕事に関係した技術協力 ・ 機械設備や農機具整備	・ イベント協力 ・ 建築設計 ・ 林業振興 ・ 農業 ・ 無理なく活動を進めるための健康維持を目的とした運動の考え方と実践 ・ PR 広報、特産品の販売促進 ・ メニュー開発 ・ 仕組み作り ・ まちづくり ・ 地図の活用 ・ わからない (2)
---	--

問 4 最後に、あなたが思うワクワクする村の姿についてお聞きします。あなたの目に浮かぶ、10年後の未来の村の姿（暮らしや仕事、地域環境（森林、農業、交通、福祉、子育て等）など）について自由に記載してください。

- ジブリみたいな雰囲気を持ち、旅行で来村した都会の人が休めるいいの場になっている
- 誰もが住んでいることを自慢出来る村
- タクシーの半額券があると良いと思います
- ブランド力を発信して EC ショップ等活用による遠隔地からの購買を増やし、すべての世代の村民の福祉が維持できる村
- 田畑や山が整備されている村
- バスなどの移動手段を確保し、働きやすい村にしてほしい。
- 誰もが安心して暮らせる村
- 画期的な社会保障制度の発展と大自然を活かした集客施設
- ショッピングモール、テーマパーク等の集客施設を建設する。それにより仕事や移住者・観光者が増え、活性化される。
- 10 年ほど前はまだ活気があったと思いますが、10 年後にどうなっているか不安です。U ターン、I ターンで人口が増加する施策をお願いします。
- 高齢者の過ごしやすい村であり、食料品の宅配やバスの運行が行われている。
- 人の心が変わらぬまま暖かく長寿できる村であってほしい。あまり進捗しすぎて今までのイメージがなくなるのは淋しい。
- 交通面で自由に行き来ができること。
- 森林の今の様子がわからないので実際の働きを見たい
- 自然豊かでのどかである。5G 等の電波が来ていないでほしい。
- 見栄えではなく、村民体育館などがなくなるのはさみしい
- 村内で生活するために必要な物、事があり出来る。また、高齢者が 1 人でも不自由のない生活ができる村。
- 今の方針でやっていただきたい
- 不倫などの不祥事をおこす人材がいらない村
- 高齢者が充実した生活を送ることができる村
- 自然に囲まれながら多くのこと、人の考えに触れることができ、子供がイキイキと育つ場所。将来帰りたいと思う場所
- 誰もが認められる自分らしく生きることができる村
- 昔から住んでいる村民と移住者が対等な関係を築いていけるかわからない。今より分断が進んでいないと良い。
- 農林業などの伝統的な産業と、新規産業が共存・反映できる村作りが理想だと思う。
- 今とあまり変わらない
- 自然を残して地域活性化を図り、老若男女が暮らしやすい村
- 一人一人が村に住んで暮らし、多くの人と交流し、満足する。" 幸せ "を感じながらサステナブルに死ぬことが出来る村になれば良い。

- ICT 技術で村にいながら都心と変わらない環境でビジネスや経済活動ができる。医療福祉の分野で、診療所を中心に自立した循環が生まれる。村で生まれてから死ぬことが自然となる。
- 今とかわらず昔ながらの環境と人間関係の継続
- 自分の理想的な住空間、就労環境が模索できる村
- 自然と共生しつつ自立した生活ができる村
- 未来の里山の実験場
- あわくらんど横の公衆トイレのような木造建築がもっと増えている
- 誰もが生き生きできる村
- やりたいことを皆が応援し、いきいきとした生活が出来る村
- 新たな挑戦をしている
- 老若男女誰もが楽しく共存でき、生活しやすく、過疎でない村
- 色々な活動を通じた村の活性化
- 子育てのために保障や補助など安心して暮らせる仕組みがある
- 誰もが健康で、不自由があっても生き甲斐が持てること
- 山や自然の活動を検討した際に、まずは西栗倉が出てくるようなキャパの広さがある村になって欲しい
- 自然豊かな暮らし
- 起業の村と呼ばれ、中小企業の本社が多数ある村
- 誰もが安心して暮らし続けれる村
- 新しい形の起業の取組が発展し、いきいきした村になっている
- 多くの方がビジネスで訪れる村になって欲しい。学生ラグビー合宿の聖地である菅平のような多くの学校とのコミュニケーションや練習試合を通して、お互いが強くたくましくなる素晴らしい教育環境だと思う。その形のビジネス教育の場や環境教育の場として聖地化を狙うと、UターンやIターンに繋がる地縁が生まれると思うので、持続的な街づくりの仕組みが狙える考える。
- 生計が成り立つ産業復興をベースとして、都会とは違う暮らしが安全にできる環境を整える事で、村の暮らしを選ぶ人も自然と増えてくると思う。
- 森と豊かに楽しく暮らし、様々な人が交流する村
- インフラコストが最低限でありながら、自然と高度な教育体制があり、子供の育児、親の仕事がのびのびと出来る村
- 村の子どもは未来にわくわくしながら生活し、地域医療や福祉体制が整い村民全員が安心して受診できる。また、SDGs 未来都市に選定されている都市の中でも、設定したゴールに対して達成度が高く、村民がそれを実感している。教育分野ではローカルベンチャーのマインドを教育にも展開する等の特徴を持った教育が受けられる。
- インフラが整備され、かつ安全性が担保されている。また、教育にも非常に力を入れている。
- 産業のハブ的位置付けとなり、ブランド発信の地となる
- 誰もが居心地のよい空間を持つことができる村
- みんなで一緒に子育てする村
- 高齢者にも優しく自然と一緒に暮らす村
- 多世代が交流し、新しいことが起こる村
- ネイティブにもイミグラントにも優しい村
- 子育てと仕事のバランスがとれ、日々の生活が充実する村

- ワーケーション候補地
- 森の中の未来住居がある
- 森林、農業、豊かな自然が、過疎化で消滅せざるを得ない状況を防ぎ残り続けるようなシステムの構築を期待します。
- ニアショアの立場で発展し、移住者が増加
- 男性的なハードな村づくりから脱皮したソフトに多様な村づくり
- 子育てがしやすく、高齢者支援も充実し、家計負担が少しでも軽くなり生活しやすい村
- 山村であるが、生活様式やレベルは都心と変わらないという感覚が持てる。
- 誰もが日々生きがいを感じられる村
- 村民、移住者、旅行者が自然に交流できる村
- ローカルベンチャーの取組が更に広がっている村
- 仕事探し等が困らない様にして欲しい
- 子供たちの笑い声が聞こえる村
- 誰もが未来を志向できる村
- 独自性や個性にこだわることなく、無理のない村を目指してほしい
- 誰もが生き生きと安心して暮らせるまち
- 村が他拠点生活の場所として、当たり前になっている
- 生き生きした田舎暮らしが出来る村
- 子どもや孫が帰ることのできる村
- 自然を守りながら、近代化にも力を注いでほしい。
- 村に一体感があり、村民が得意分野を活かし協力し合い、他地域から憧れの的となっている村。
- 外部経済と調和した村の中にいて楽しいと感じる
- 色々な分野で、それぞれリーダーや関わる人の顔が思い浮かぶ村
- 遠いけど行って満足でき、癒される村
- 季節ごとに見に行くものがある
- インターネット環境が整備され、テレワークが可能かつ遠隔地にいる人たちとも協力してプロジェクトを推進できている。会社には託児所があったり、育児休暇や子連れワークが当たり前のような環境になると面白いと思います。
- 過度に収入が無くても、幸せに暮らせる村
- 西粟倉村から全国・世界へ発信でき、老若男女に関わらず活躍できる
- テレワークが盛んな村
- 都市の自由さと農村の暖かさが共存している村
- 適性診断した上で移住、就労の斡旋のようなものがあれば移住に対するハードルが低くなると思う。
- いつまでも自然豊かな所であってほしい
- 外見は日本の自然溢れる田舎、住んだり訪れると環境へ配慮された先進の村
- 若い人や子供が増え、お年寄りが元気になっている。また、丸太の価格が少し上がり、エネルギーの自給率も高くなっている。
- 多様な人々が刺激を与えあっている
- 若い世代が林業や農業に生きがいを感じて働いている村
- 全ての地域、世代が家族のように支え合える村

- 若者が多く住む活気のある村
- 安心安全な食材が手軽に購入出来て、自然豊かな森林の中でキャンプや車中泊が楽しめる。
- 自然を活かした小規模のテーマパークやキャンプ場を作り、観光業を活性化させて村を豊かにする。このことで村も活性化して豊かになり、医療や買い物が便利な村になる
- 日本一誇れる村
- 暮らし方はのんびり自由度が高いものであるが、テレワーク等で地域以外ともつながりや関わり、多くの情報も得られる状態になると良い。
- 将来に希望が持てる村
- 誰もが繋がり幸せを感じることが出来るようになっている村
- 子供があふれる村
- 全国から色々な方々が立ち寄ってくれる村
- 全国各地に関係人口がいて、広大な地域づくりのネットワークを持つ村
- 老若男女が働きやすく暮らしやすく助け合いのできる楽しい村
- 森林が多いので、山の中にリアルなサバイバル施設や本格的アスレチック、キャンプなどのアクティビティが充実していれば、子供達を育てる場所として良いと思う。
- 第一次産業から第三次産業まで、環境が整った住みやすい村。
- 個人の趣味や個性を村内外でも広く知ってもらいたい。また、安心安全で環境に考慮した村づくり。
- シェアハウスタイプの自分の第二の家があって、自分やシェアしてる人が行きたいときに数日その家にいけると楽しそう。
- 緑があり、先端のテクノロジーを導入している
- 西粟倉にしかないものがある
- オーガニック農産物を生産している。また、暮らしやすさを発信し、誰をも受け入れる村
- お年寄り、子供の交流が盛んな村
- 森林を復活させたエコ循環の村
- 豊かな自然を生かした産業の醸成
- 特にない

問5 その他、ご意見があれば、ご自由に記載ください。

- 西粟倉村だけ商品券がありません
- 各種施設について集中か選択をすべきと思う。手広くするのもありがたいが、今後 10～20 年を考えると行動すべきだと思う。
- 兄弟や甥など大切な人たちがこれからもいる。また、今までの西粟倉の姿を私は誇らしく思っている。
- 村の様子がまだわからないので困ります
- 西粟倉とてもいいところで大好きです。今後も応援しています。
- 村民を優先にした取組をするべきだと思う。
- 村民が、村及びその付属機関から収入を得て、村外で消費する循環サイクルを変更するシステムは考えられないか。また、高齢化に対して私営施設の誘致等による税收増加や雇用者数増加は出来ないか。
- あわくらんどの食事で使用する割りばしのサイズを大きくし、持ち帰って箸箸で使いたい。捨てるのはもったいない。
- アンケート良かったです。
- 不祥事を聞くことが多々あり、それをどうにかして下さい。
- アンケートの選択肢はもう少し絞った方がよいと思う。選択肢が多いとより具体的な集計結果に結びつき、分析に役立つが多すぎた。最後まで目を通さず、回答も適当になってしまうと思う。
- 魚が少なくなっている気がする
- 未だ訪問したことがないので、行く機会を設けたいです。
- 新生児誕生に破格の祝い金を検討してみたいかですか。起業誘致とセットで人口増加を狙い魅力ある村に発展すると思います。
- 一次産業を体験も合わせた 24 次産業に進化させてください。
- コロナの影響でいつ訪れていいかわからない
- 偶然訪れ全く知らない土地でしたが、大好きになりました。今後、色んな季節に足を運んでみようと思っています。大阪に在住していますが、移住を視野に入れてます。今後、休みに村に行くのを楽しみにしています。
- まずは関わる事で色々に見極めたい。
- 今後ベンチャー企業の支援関係で関わる予定です。西粟倉から地方創生を全国に展開できるモデルを創りたいと思います。
- ワークेशनや短期滞在時に、村のお店や畑をお手伝いのできるバイトみたいなことができると思います。
- 先進的な取り組みをしている村であり、日本の将来を感じます。
- 以前、アプリで生き物と植物の写真が出てましたが、不思議な気持ちでした。私個人の記憶の中にハッキリ残っている生き物や植物が載っていたからで、今ではアプリを開くのが楽しみにしています。故郷を離れ、毎年、いつも見ていた風景が県外になるとみることは出来ないの分かりました。故郷が農地整理等が行われ、記憶の中に留まる風景と変わり、妙に愛おしい気持ちになります。しかし、時代が変われども、昔見た原風景が人達を魅了し、共感できる自然が今も残り続いています。今後、生活が便利になることは、とても大事なことであるが、記憶の中にある故郷の西粟倉もこよなく愛しています。そんな自然と調和した村づくりを今後も応援しています。

- 西粟倉国を創って下さい
- 応援しております。
- 特になし
- 仕事や教育の充実などリターンをしやすい環境づくりをしていただけると嬉しいです
- 子供の関係で、この地域を知ったが、美しい自然と若い人との活力を期待する。
- 農業体験や豊かな森林を使った木材体験、綺麗な星が見れ都会と違う自然と触れあえる子供達キャンプなど、自然や農業に触れたことのない子供達に体験型イベントを知ってもらい、自然の有り難さを学ぶ場がほしい。
- 子供に手厚い施作を行い、人口増加に繋がるよう広く PR していくと良い。
- 私の住む加古川市は都会的な地域と田舎の地域とが合わさっているが、新しく住宅を建てるため田んぼや畑がどんどん減ってきている。人が移り住むことも村の維持の為には必要なことかもしれないが、古民家をリフォームして使うことや古い家屋を潰したら、畑や木を植えるなど 10 年後も緑の割合が変わらない村であってほしい。
- 「上質な田舎」というキャッチフレーズもあったと思いますが、最近の新しい建物を見ていると上質な田舎のための景観形成・誘導の具体的な方策が必要と思う。
- とても居心地の良い西粟倉村で、移住したいくらい気に入っています。
- 現時点で、まだ西粟倉村の事が勉強不足な為、何ができるか分かりませんが、何かしら関わりを持つ事で価値提供出来ればと思います。
- 年齢を問わず色々なイベントに参加できるようなことがあればいいかなと思います。
- 医療の充実と防災土砂崩れ防止など頑張ってもらいたいし、できることがあれば協力したい。また、大好きな故郷なので何かしたい気持ちがあります。クラウドファンディングなどでいいのがあれば協力とかしやすいです。

【小中学生向けアンケート】

5. 調査の概要

(1). 調査目的

- ・ 村の将来を担う子どもたちの生活行動等の実態を知るとともに、西粟倉に対して何を感じ、将来何を望んでいるか、村民目線の村でのライフビジョンを描くための資料とする。

(2). 調査対象

- ・ 村内に居住するすべての小学 5・6 年生及び中学生 62 人

(3). 調査方法および配布・回収方法

- ・ 学校にて配布・回収

(4). 調査期間

- ・ 令和 2 年 8 月

(5). 回収状況

- ・ 回収数は 62 通であった。

(6). その他

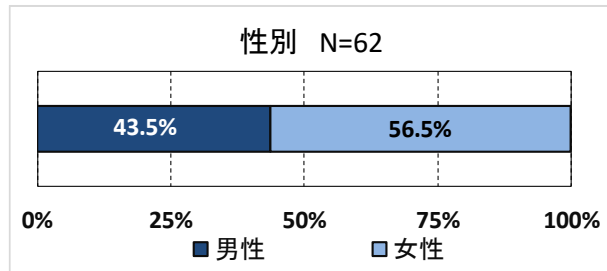
- ・ 集計では、小数点第 2 位を四捨五入しており、数値の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 図表中の N とは、回答者総数（または該当設問での該当者数）を表しています。また、無回答を含みます。

6. 調査結果

問1 あなたのことについて

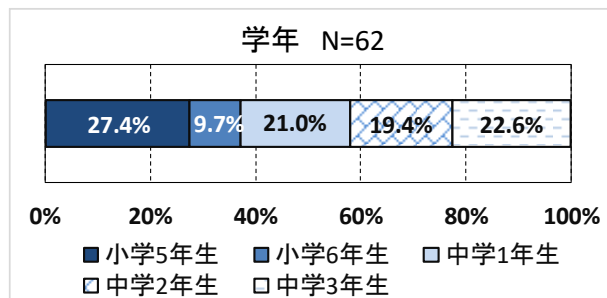
① あなたの性別を教えてください（1つに○）。

	回答数	割合
男性	27	43.5%
女性	35	56.5%
合計	62	100.0%



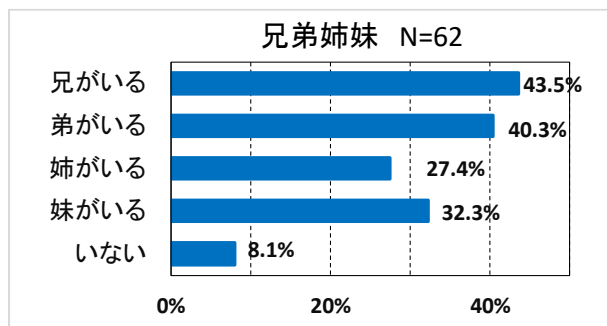
② あなたの学年を教えてください（1つに○）。

	回答数	割合
小学5年生	17	27.4%
小学6年生	6	9.7%
中学1年生	13	21.0%
中学2年生	12	19.4%
中学3年生	14	22.6%
合計	62	100.0%



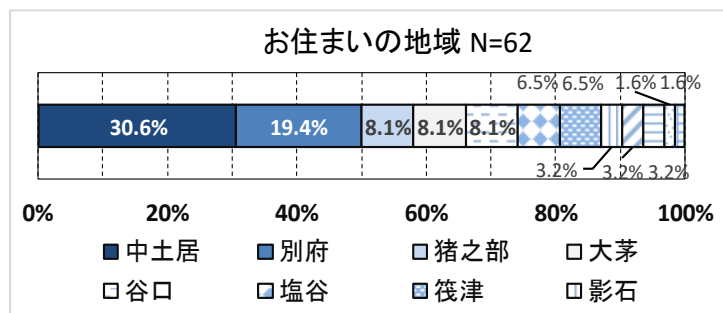
③ あなたに兄弟姉妹はいますか（すべてに○）。

	回答数	割合
兄がいる	27	43.5%
弟がいる	25	40.3%
姉がいる	17	27.4%
妹がいる	20	32.3%
いない	5	8.1%
合計	94	151.6%



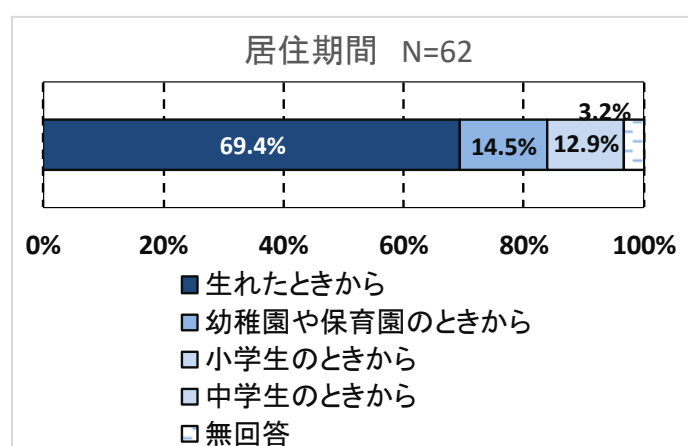
④ 現在の住んでいる地域はどこですか（1 つに○）。

	回答数	割合
中土居	19	30.6%
別府	12	19.4%
大茅	5	8.1%
猪之部	5	8.1%
谷口	5	8.1%
塩谷	4	6.5%
筏津	4	6.5%
影石	2	3.2%
引谷	2	3.2%
知社	2	3.2%
坂根	1	1.6%
下土居	1	1.6%
合計	62	100%



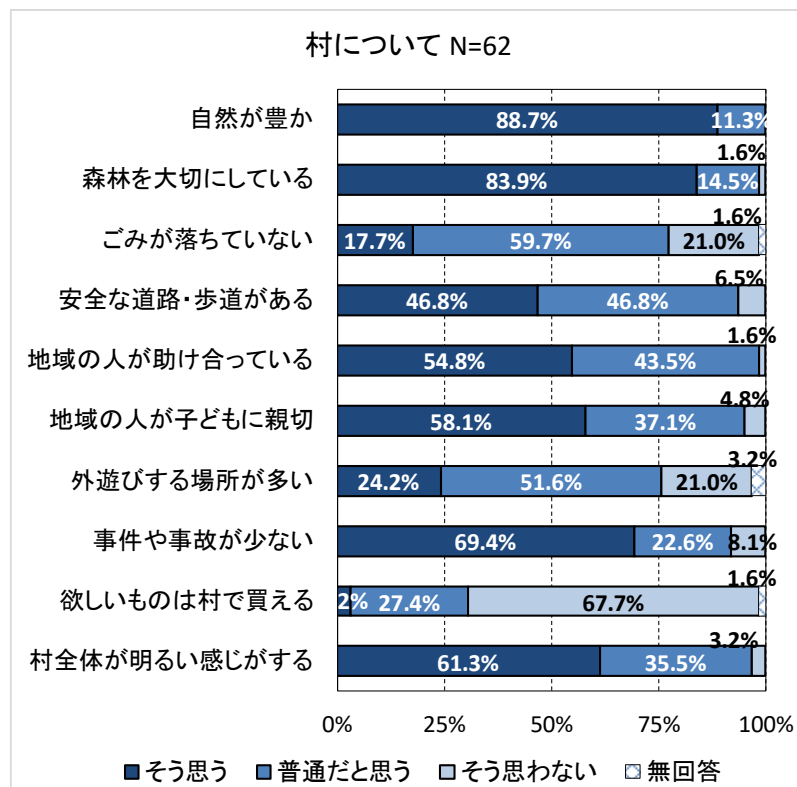
⑤ 西栗倉村にはいつから住んでいますか（1 つに○）。

	回答数	割合
生れたときから	43	69.4%
幼稚園や保育園のときから	9	14.5%
小学生のときから	8	12.9%
中学生のときから	0	0.0%
無回答	2	3.2%
無効	0	0.0%
合計	62	100.0%



問 2 村について感じることを教えてください。(それぞれ1つに○)

- 「自然が豊か」と「森林を大切にしている」と思う子どもが8割を超え高くなっています。また、「事件や事故が少ない」も7割と高いです。そのほか、「地域の人が助け合っている」と「地域の人子どもに親切」と思う子どもも半数を超えています。
- 一方、「欲しいものが村で買える」と思う子どもは3%と非常に少なく、そう思わない子どもが割近くとなっています。
- 村の豊かな自然や、地域の人に関わりに対して、評価が高いことがわかります。
- 過去のアンケート結果と比較すると、村の豊かな自然への評価が非常に高い状態を推移しています。一方、「欲しいものは村で買える」と思う割合がやや低下しています。



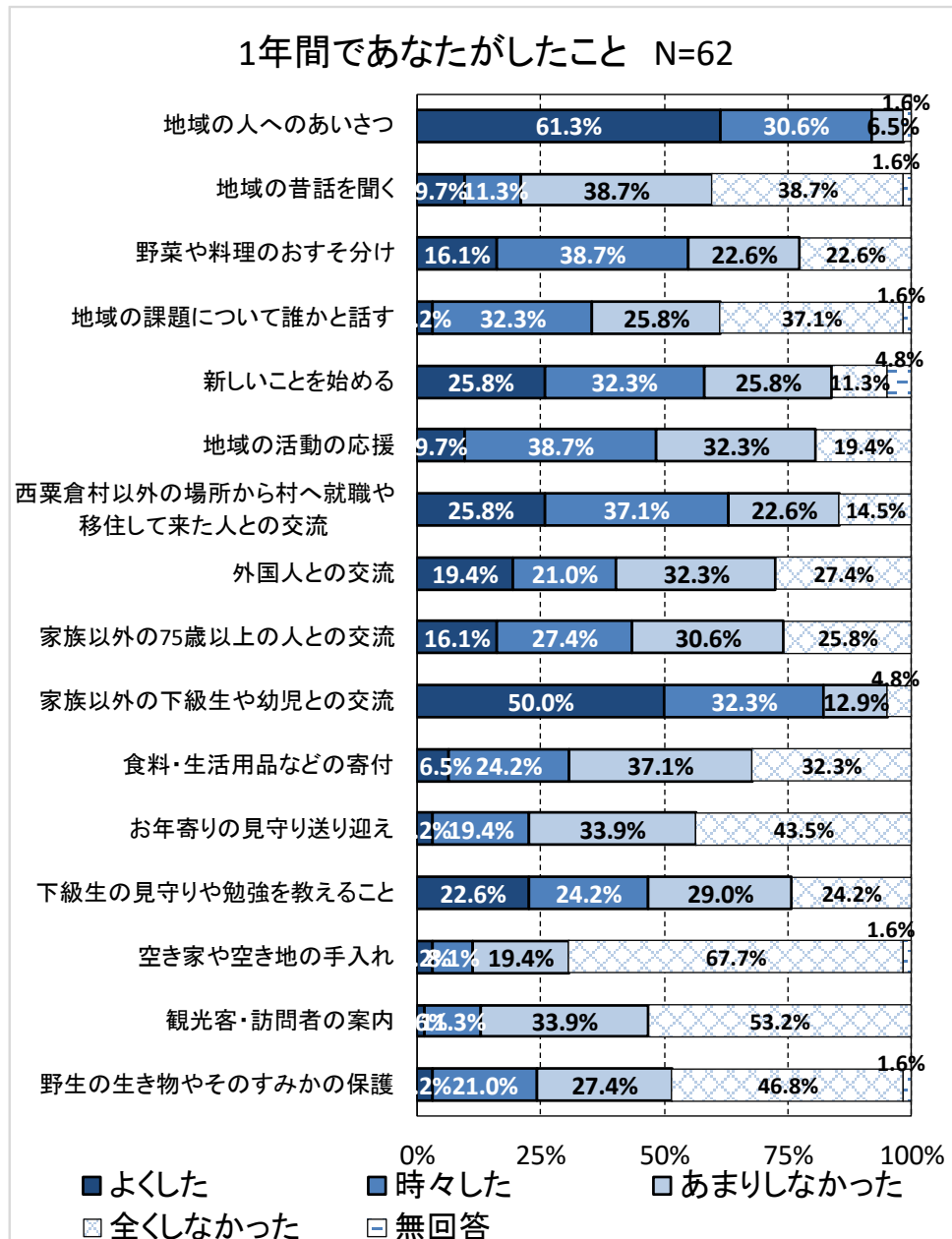
	自然が豊か	森林を大切にしている	ごみが落ちていない	安全な道路・歩道がある	地域の人助け合っている	地域の人子どもに親切	外遊びする場所が多い	事件や事故が少ない	村で買える欲しいものは	村全体が明るい感じがする
そう思う	88.7%	83.9%	17.7%	46.8%	54.8%	58.1%	24.2%	69.4%	3.2%	61.3%
普通だと思う	11.3%	14.5%	59.7%	46.8%	43.5%	37.1%	51.6%	22.6%	27.4%	35.5%
そう思わない	0.0%	1.6%	21.0%	6.5%	1.6%	4.8%	21.0%	8.1%	67.7%	3.2%
無回答	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	1.6%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 3 村内で、あなたがしたこと、していることについて

① この１年間あなたがしたことを教えてください。（それぞれ１つに○）

○ この１年間で『したこと』（「よくした」と「時々した」の合計）こととしては、「地域の人へのあいさつ」が９割と最も多く、次いで「家族以外の下級生や幼児との交流」が８割、「西栗倉村以外の場所から村へ就職や移住して来た人との交流」が６割となっています。

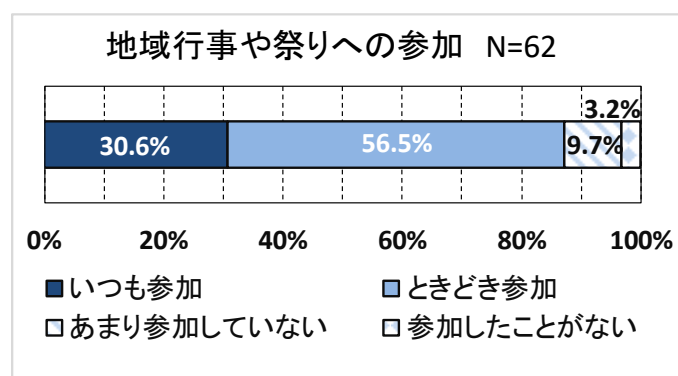
○ 地域の人々との身近なコミュニケーションを図っている子どもが多いことが分かります。



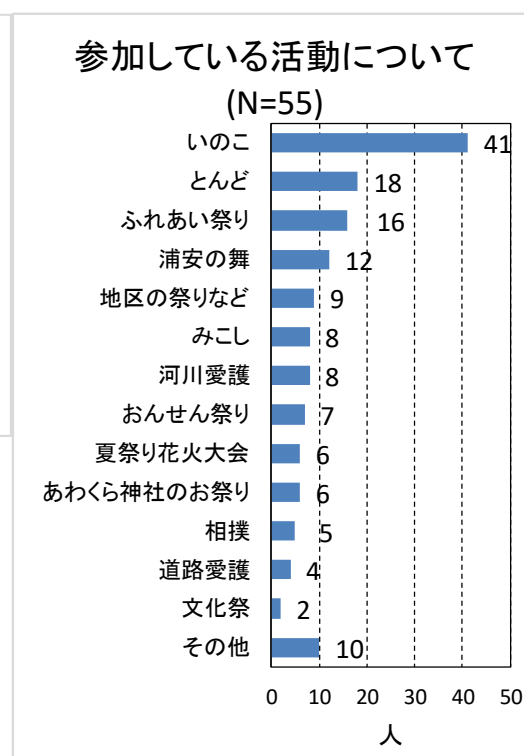
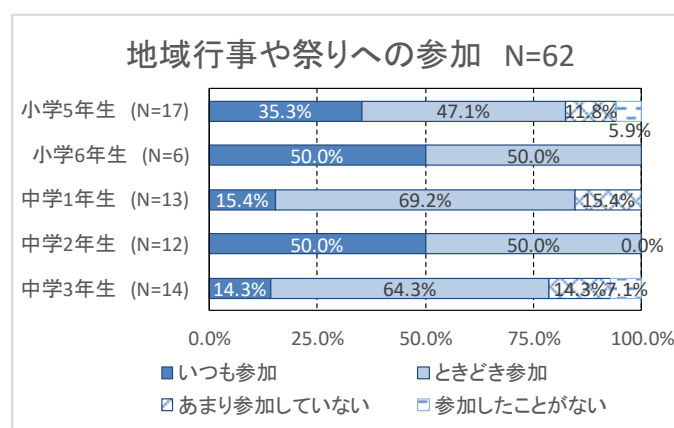
	地域の人へのあいさつ	地域の昔話を聞く	野菜や料理のおすすめ	地域の課題について誰かと話す	新しいことを始める	地域の活動の応援	西栗倉村以外の場所から村へ就職や移住して来た人との交流	外国人との交流
よくした	61.3%	9.7%	16.1%	3.2%	25.8%	9.7%	25.8%	19.4%
時々した	30.6%	11.3%	38.7%	32.3%	32.3%	38.7%	37.1%	21.0%
あまりしなかった	6.5%	38.7%	22.6%	25.8%	25.8%	32.3%	22.6%	32.3%
全くしなかった	0.0%	38.7%	22.6%	37.1%	11.3%	19.4%	14.5%	27.4%
無回答	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	家族以外の人との交流	家族以外の子供との交流	食料・生活用品などの寄付	お年寄りの見守り送り迎え	下級生の見守りや勉強を教えること	空き家や空き地の手入れ	観光客・訪問者の案内	野生の生き物の保護
よくした	16.1%	50.0%	6.5%	3.2%	22.6%	3.2%	1.6%	3.2%
時々した	27.4%	32.3%	24.2%	19.4%	24.2%	8.1%	11.3%	21.0%
あまりしなかった	30.6%	12.9%	37.1%	33.9%	29.0%	19.4%	33.9%	27.4%
全くしなかった	25.8%	4.8%	32.3%	43.5%	24.2%	67.7%	53.2%	46.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	1.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 地域の行事や祭りへはどれくらい参加していますか。また、参加している活動について教えてください。（1つに○）

- 『参加している』（「いつも参加」と「ときどき参加」の合計）子どもは9割弱となっています。
- 学年別でみると、小学校6年生と中学校2年生で参加率が高く、中学1年生と3年生は「いつも参加」する子どもは10%代と減少します。
- 参加している活動としては、「いのこ」が41人と最も多く、回答者の約8割が参加しています。次いで、「とんど」「ふれあい祭り」となっています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、中学生の地域行事の参加状況は高い状況を維持しています。さらに、小学生の参加状況が9割弱となり、2割以上も増えています。



<学年別>

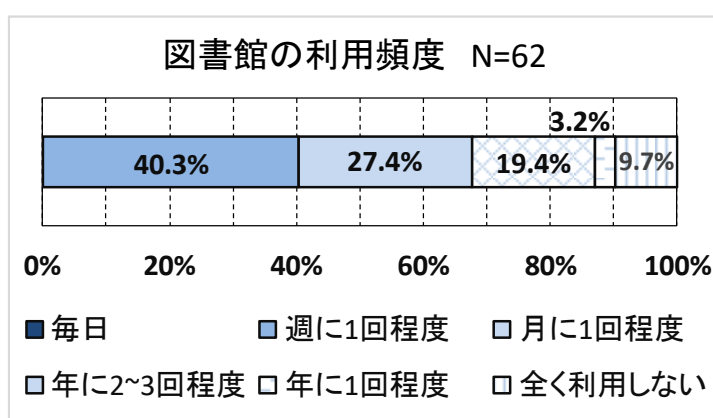


問4 あなたの学習状況について

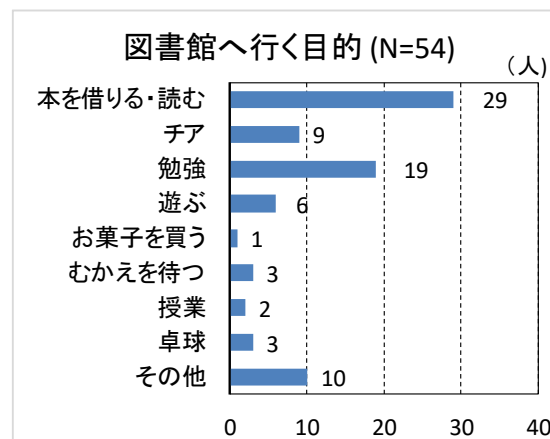
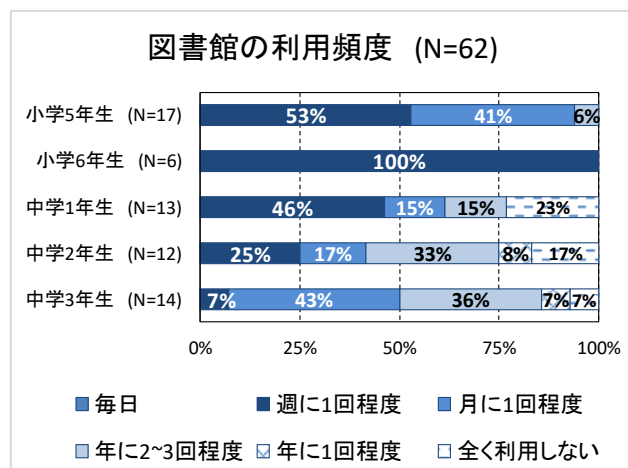
① 図書館をどれくらい利用していますか。また、その目的を教えてください。(1つに○)

- 「週に1回程度」が4割と最も多く、次いで「月に1回程度」が3割弱、「年に2～3回程度」が2割となっており、半数以上が月1回未満の利用頻度であることがわかります。また、「全く利用しない」は1割程度です。
- 学年別でみると、小学6年生を除いて、高学年になるほど利用頻度が減っています。
- 図書館に行く目的としては、「本を借りる・読む」が最も多く、次いで「勉強」、「チア」となっています。「チア」と回答する子ども全てが小学5,6年生であり、習い事を行う場所として利用されています。

	回答数	割合
毎日	0	0.0%
週に1回程度	25	40.3%
月に1回程度	17	27.4%
年に2～3回程度	12	19.4%
年に1回程度	2	3.2%
全く利用しない	6	9.7%
合計	62	100.0%



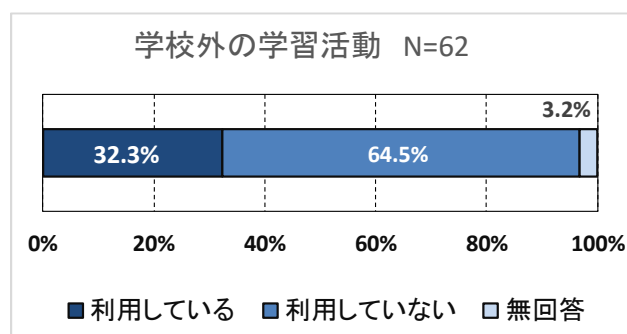
< 学年別 >



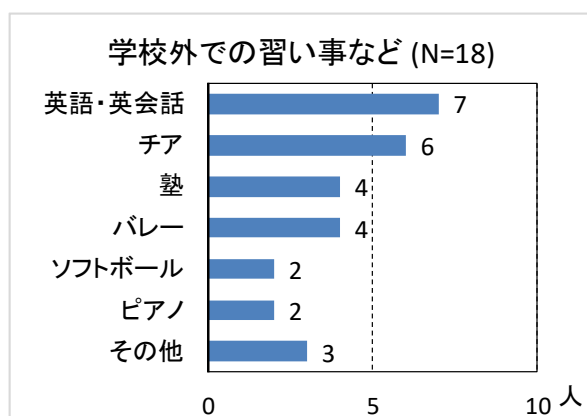
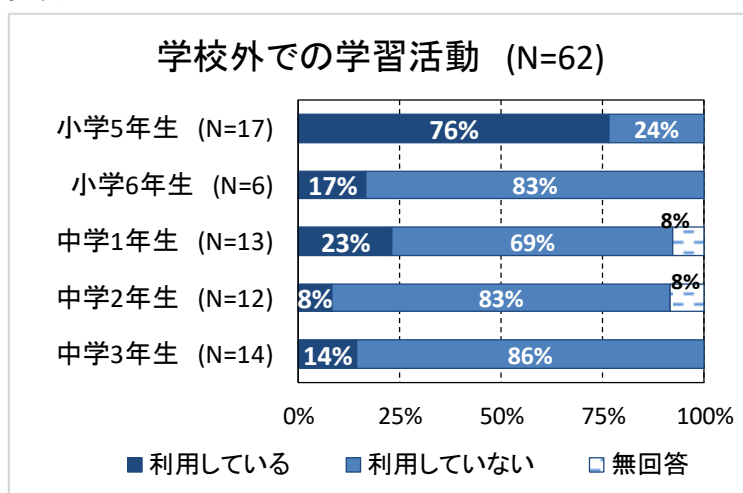
② 家庭教師や学習塾等の学校外で学習活動について教えてください。家庭教師や塾などの学習活動を利用していますか。(1つに○)

- 学校外の学習活動を「利用している」は3割程度となっています。
- 学年別でみると小学5年生の利用が7割と多く、それ以外の学年では2割程度以下となっています。
- 習い事の内容としては、「英語・英会話」が7人と最も多く、次いで「チア」、「塾」、「バレー」が多いです。中学生では、「英語・英会話」と「塾」のみとなっています。
- 利用場所としては、村内在約半数で、村外が2割強、インターネットは1名(5%)です。村外としては、勝央町、神戸市、鳥取、美作市となっています。
- 利用回数としては、「週2、3回程度」が約半数で、次いで週1回が3割強となっています。

	回答数	割合
利用している	20	32.3%
利用していない	40	64.5%
無回答	2	3.2%
合計	62	100.0%

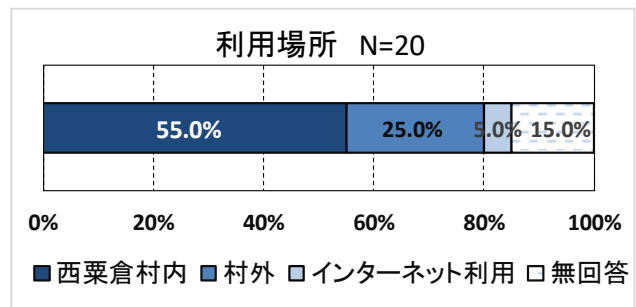


<学年別>



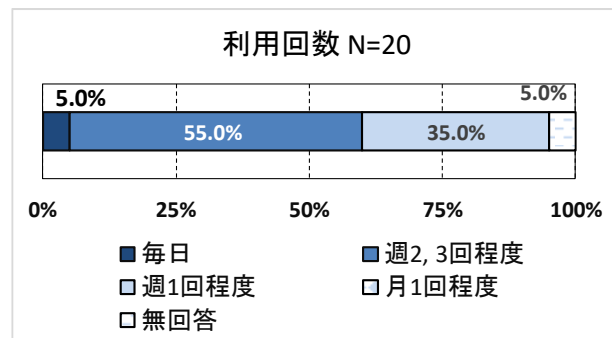
<利用場所>

	回答数	割合
西栗倉村内	11	55.0%
村外	5	25.0%
インターネット利用	1	5.0%
無回答	3	15.0%
合計	20	100.0%



<利用回数>

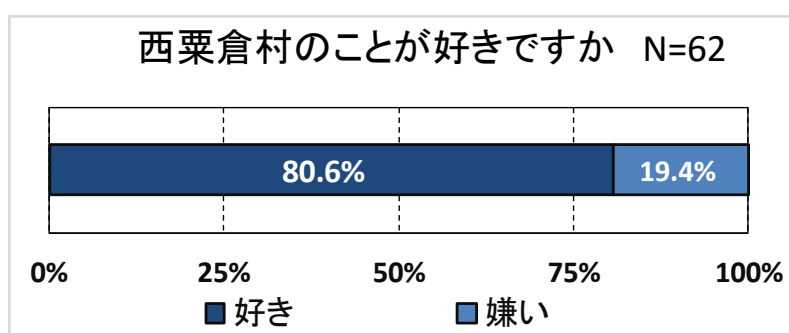
	回答数	割合
毎日	1	5.0%
週 2, 3 回程度	11	55.0%
週 1 回程度	7	35.0%
月 1 回程度	0	0.0%
無回答	1	5.0%
合計	20	100.0%



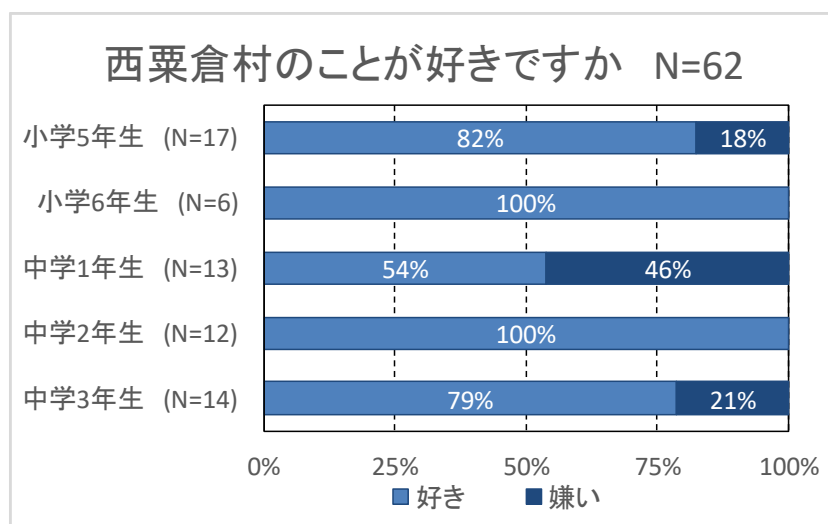
問 5 西栗倉村のことが好きですか、嫌いですか(どちらかに○)。

- 「好き」が8割、「嫌い」が2割となっています。
- 学年別でみると、中学1年生で「好き」が5割強と低くなっています。小学6年生と中学2年生では「好き」が100%となっています。小学6年生と中学2年生は、地域の行事や祭りへの参加率も高く、地域への愛着が強いことが分かります。
- 「好き」な理由としては、自然の豊かさや地域の人の優しさなどの回答がみられ、「嫌い」な理由としては、お店や遊べるところないという回答がみられます。
- 過去のアンケートと比較すると、中学生における「西栗倉村のことが好き」という割合が20%以上の大幅な減少が見られています。一方、小学生においては過去のアンケート結果と同程度の割合であり、愛着度が高くとなっています。

	回答数	割合
好き	50	80.6%
嫌い	12	19.4%
合計	62	100.0%



<学年別>



<その回答を選んだ理由についての記述>

好きと答えた理由
自然に関すること ・ 自然が多いから、すごく落ち着くし、居心地がいい ・ 自然が豊かでなによりいて気持ちがいい場所。人が新設でトラブルも少ない場所。とても好きです。 ・ 緑が多いし、村内の人がやさしくしてくれるから ・ 住みやすい ・ きれいな緑で心が落ち着くから ・ 空気がきれいだから ・ 自然なところ、緑がいっぱい ・ 自然が豊かだから、遊ぶところが多いから ・ 自然豊かで、一番安静 ・ 自然もきれいだから ・ 森林が好きだから ・ 自然が豊かで静かだから ・ 森がいっぱいきれい ・ 川がきれい ・ 自然が豊かでいっぱい、きれい ・ 西栗倉の木を使っていろんなものを作っている、すごい ・ 自然が豊かだから ・ 山の緑がきれいで川もきれいだから。新しいことに取り組んでいるから。 ・ 自然が豊かだから ・ 木の建物があるから、いろいろなイベントがあるから（行事） ・ 住みやすい ・ 自然がいっぱいだから ・ 空気がおいしい、豊 ・ 自然、ほかの地域の人たちに森がきれいと褒めてもらえる。 ・ 溝や川にたくさん魚がいるから ・ 自然で豊かだから、夜静かだから ・ 自然がいっぱい、いろいろな建物がある、災害や事件、事故が少ない ・ 落ち着く、静か ・ 自然が多い ・ 気分が良くなるから ・ 空気がおいしい、学校の友達が優しい ・ 自然がきれいで安全だから ・ 自然豊かでいろいろな体験ができる。地域の人との交流がある。地域の人が優しい ・ 豊か、空気がおいしい ・ 空気がきれい、自然が多いので気持ちがいい ・ 自然豊かだから、事故が少ない

・ 環境モデル都市となっていて自然豊かで住みやすく、学校も楽しいから ・ のどかな空気 ・ 静かで本が読みやすい、空気がきれい、川がきれい、全部きれい ・ 村の人が優しい、自然豊か ・ 静かなところ ・ 自然が豊か ・ 空気が澄んでいる ・ 都会とか、町よりは過ごしやすいけど、ほしいものがないのは残念 ・ 自然が豊かだから ・ 森がきれい。 ・ 自然なところ、風が涼しい ・ 山に登れる
人に関すること
・ 地域の人が親切にしてくれるから ・ みんなが親切 ・ 村のみんなが優しくて、車を止めて先にわたらせてくれるから。あいさつをすすんでしてくれる。 ・ 村民同士のふれあいの機会が多い、 ・ 地域の人が優しい ・ 人がみんなあたたかくて優しい。 ・ 人が優しい、西栗倉はたのしい、祭り、地区との交流
そのほか
・ なぜか少し落ち着く、自分の家か学校があるから ・ 学校の給食がおいしい ・ ほかのところに比べ安全だから ・ 災害が少ないから ・ 治安が良い ・ なんとなく

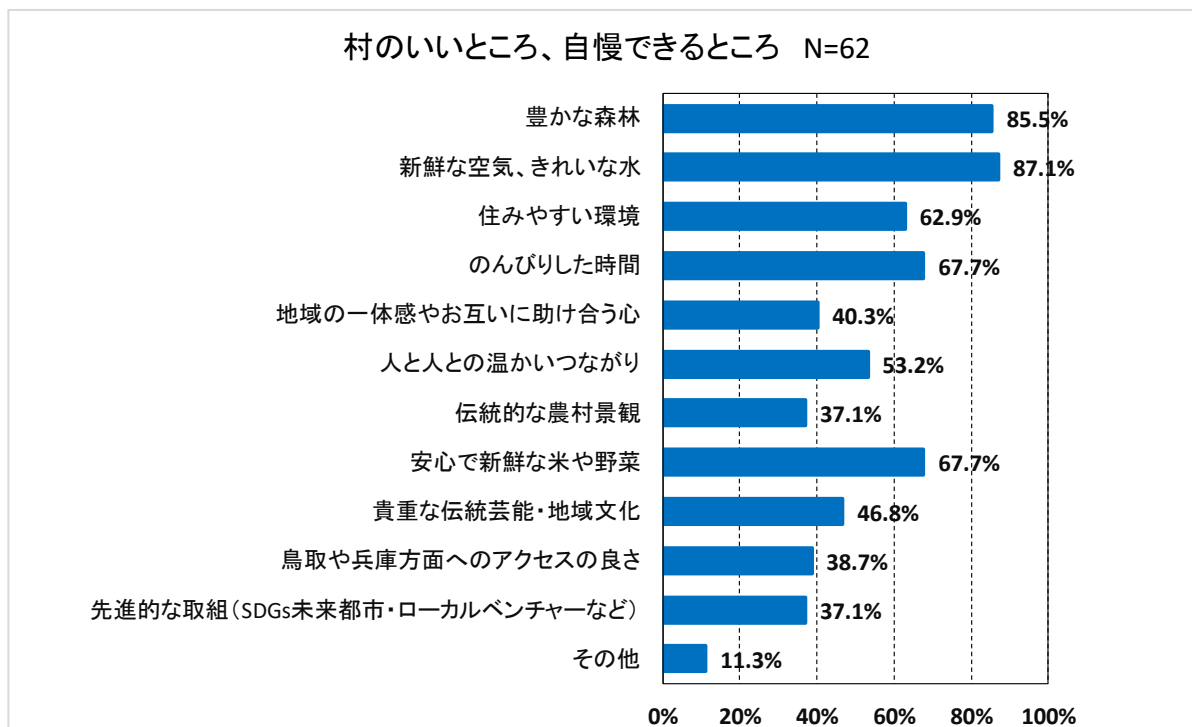
○ 嫌いと答えた理由

- ・ 友達とかと遊べたらいいから（ゲーム）
- ・ お店が少ないから
- ・ 店があまりない
- ・ 遊ぶところがない、店がない
- ・ ショッピングモールがない、おいしい食べ物がない
- ・ 店がない
- ・ 買いたいものがないから
- ・ 店がない
- ・ 好きでもないし、嫌いでもないが、きらいがかった
- ・ 歩くのが嫌だ
- ・ 虫が多い
- ・ 虫が多い
- ・ クマが出てくるから
- ・ 夜に涼しいのと、夜空がきれいなのと自然が多いのはいいけど、それ以外に利点がないと感じたため
- ・ 挨拶を返す人と、返さない人がいる。

問 6 西栗倉村の魅力や将来の村づくりについて

① 村の良いところや自慢できる場所は何だと思いますか、あなたの考えにあてはまる番号全てに○を付けてください。

- 「新鮮な空気、きれいな水」や「豊かな森林」が8割以上と多く、次いで「のんびりした時間」と「安心して新鮮な米や野菜」が7割弱となっています。
- 豊かな自然の中でのんびりとした田舎暮らしができることが、村の良さだと考えていることがわかります。

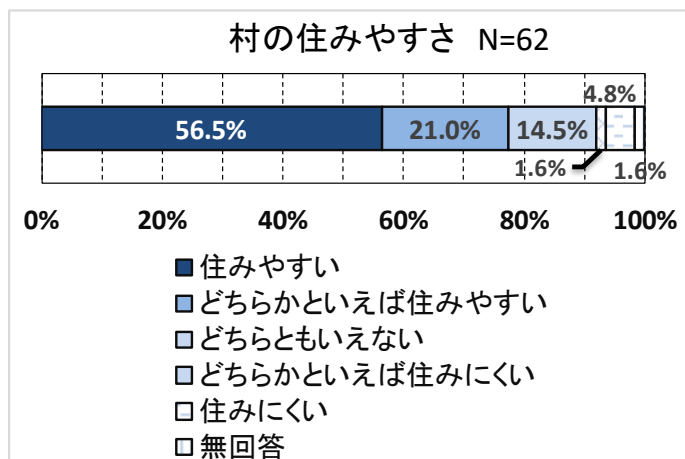


<その他の記述回答>

- ・ 学校の給食にその村の物を使っているところ
- ・ スポーツができる場所
- ・ 地域の人のやさしさ
- ・ トラブルが少ないこと
- ・ 地域で行われる豊富な行事
- ・ 治安がいい

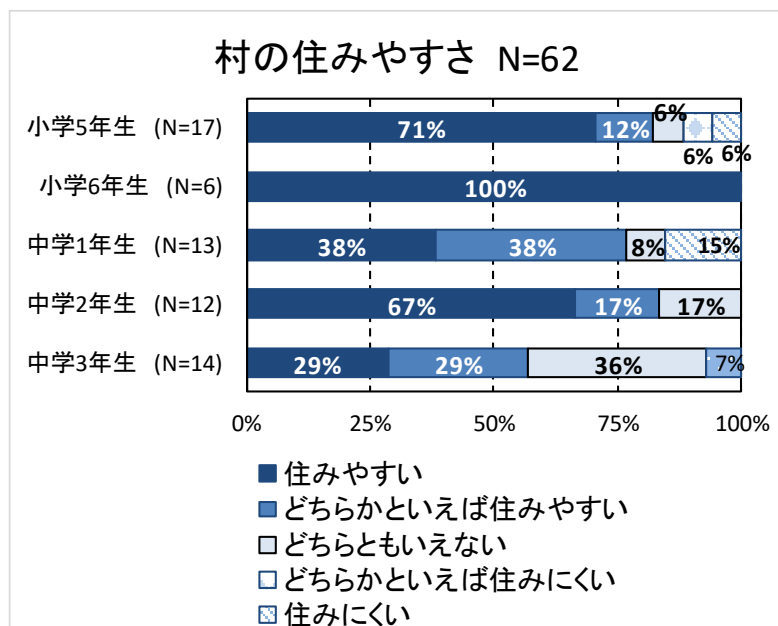
② 村の住みやすさについて教えてください（1つに○）。

- 『住みやすい』（「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計）と感じる子どもは8割弱となっています。
- 学年別にみると、小学生の方が中学生よりも「住みやすい」と感じていることがわかります。
- 過去のアンケート結果と比較すると、小学生の「住みやすい」と感じている割合が大幅に増加しています。中学生においても「住みやすい」と感じている割合が5割程度と増加しています。

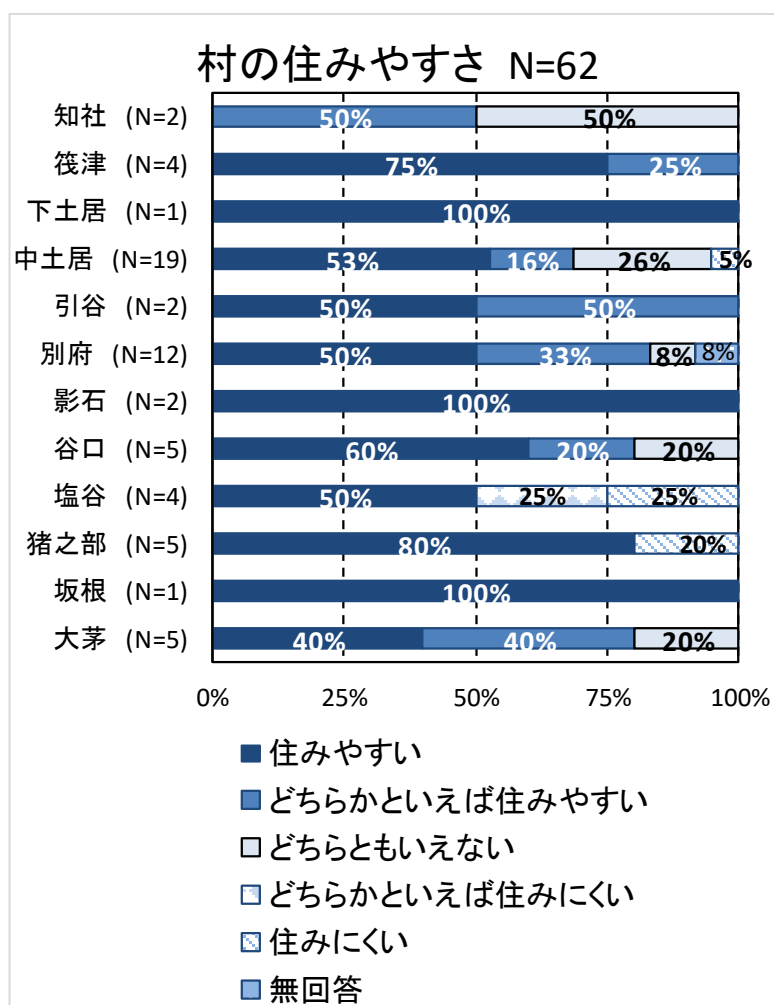


	回答数	割合
住みやすい	35	56.5%
どちらかといえば住みやすい	13	21.0%
どちらともいえない	9	14.5%
どちらかといえば住みにくい	1	1.6%
住みにくい	3	4.8%
無回答	1	1.6%
合計	62	100.0%

< 学年別 >

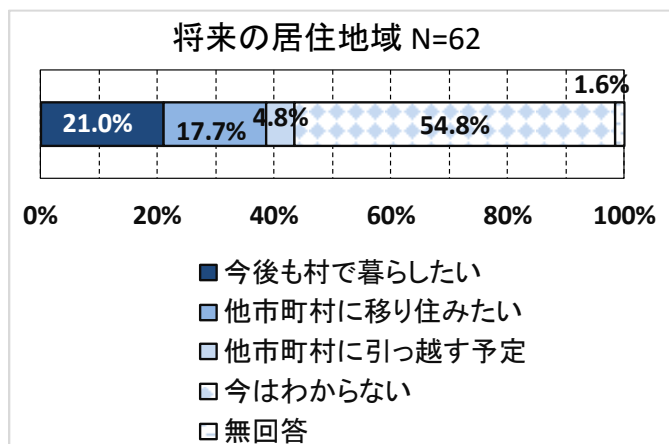


< 地域別 >



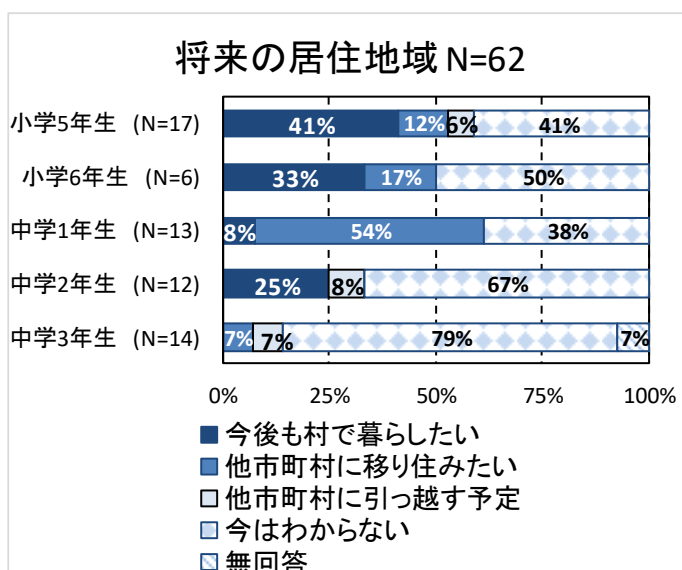
③ あなたは将来、どこ住みたいですか（1つに○）。

- 「今後も村で暮らしたい」と考える子どもは2割で、「他市町村に移り住みたい」及び「他市町村に引っ越す予定」と回答した子どもと同程度となっている。一方、「今はわからない」との回答は5割を超えている。
- 学年別にみると、小学生の方が中学生よりも村で暮らしたいと考えていることがわかる。
- 過去のアンケート結果と比較すると、小学生及び中学生のどちらともにおいて、居住意向の低下がみられます。しかし、「今はわからない」では、過去のアンケートと同様に全体の5割程度となっており、今後決める子どもが多いこともわかります。



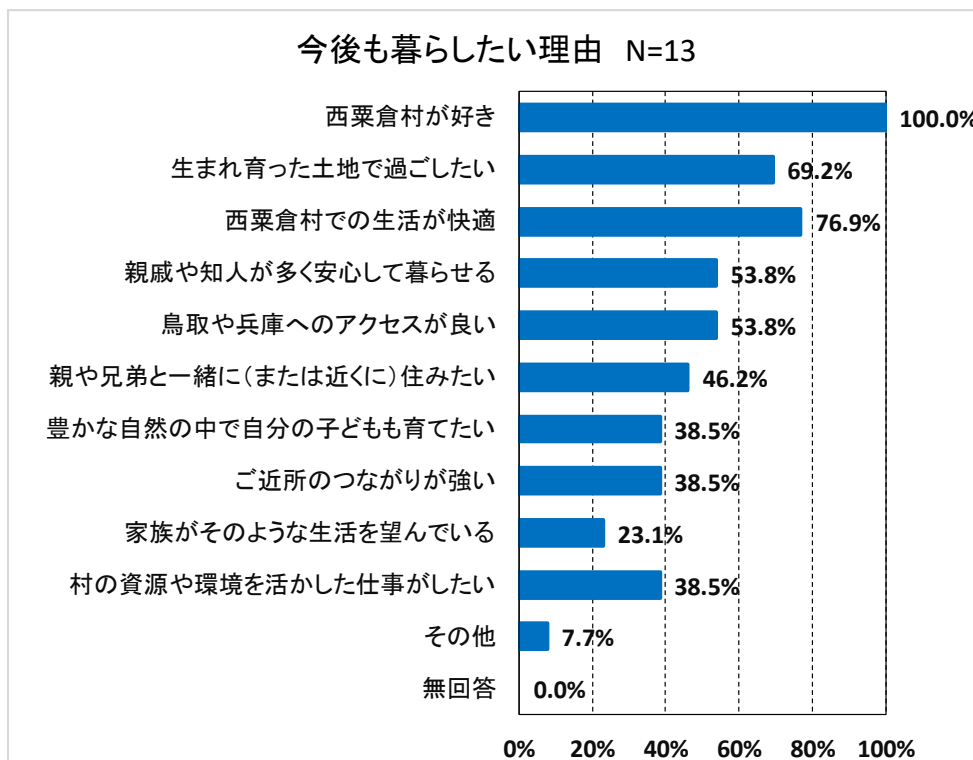
	回答数	割合
今後も村で暮らしたい	13	21.0%
他市町村に移り住みたい	11	17.7%
他市町村に引っ越す予定	3	4.8%
今はわからない	34	54.8%
無回答	1	1.6%
合計	62	100.0%

<学年別>



④ 前の問③で「1. 今後も村で暮らしたい」を選択した方にお聞きします。その理由についてあなたの考えにあてはまる番号全てに○をつけてください。

- 今後も村で暮らしたいと考えている全ての子どもが「西粟倉村が好き」と回答しています。
○ その他、「生活が快適」、「生まれ育った土地で過ごしたい」との回答が多い。地域への愛着が今後も村で暮らしたいと思う理由となっていることがわかります。



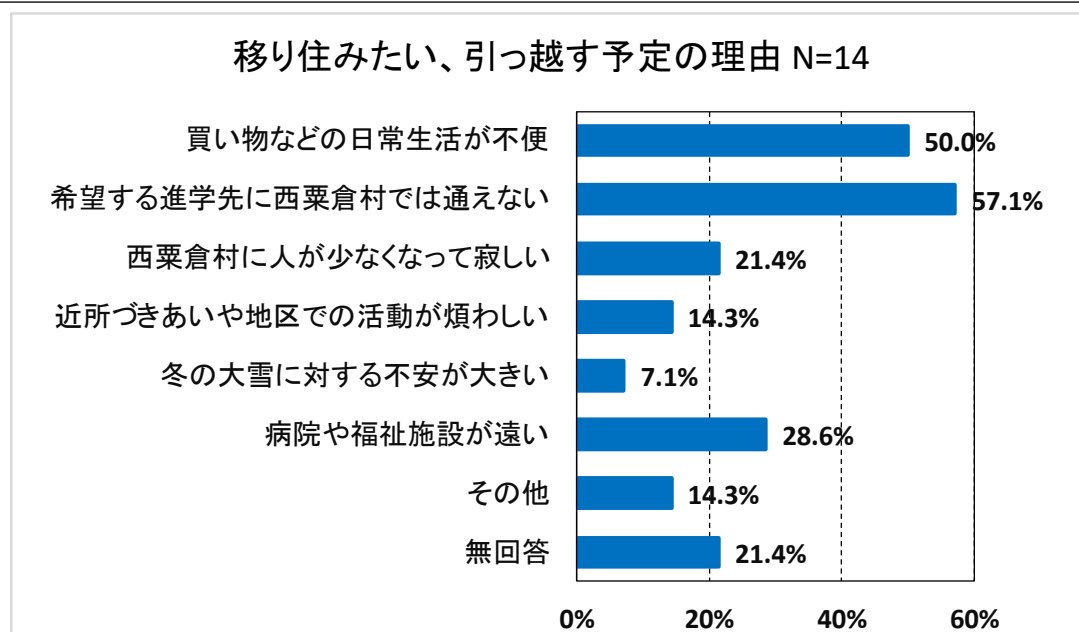
	回答数	割合
西粟倉村が好き	13	100.0%
生まれ育った土地で過ごしたい	9	69.2%
西粟倉村での生活が快適	10	76.9%
親戚や知人が多く安心して暮らせる	7	53.8%
鳥取や兵庫へのアクセスが良い	7	53.8%
親や兄弟と一緒に(または近くに)住みたい	6	46.2%
豊かな自然の中で自分の子どもも育てたい	5	38.5%
ご近所のつながりが強い	5	38.5%
家族がそのような生活を望んでいる	3	23.1%
村の資源や環境を活かした仕事がしたい	5	38.5%
その他	1	7.7%
無効	1	7.7%
合計	72	553.8%

<その他の記述回答>

- ・ 自分が好きな場所で自分の子供に自分みたいな楽しくて面白い人生のはじまりを感じてほしい。

⑤ 前の問③で「3. 他市町村に移り住みたい」と「4. 他市町村に引越す予定」を選択した方にお聞きします。その理由についてあなたの考えにあてはまる番号全てに○をつけてください。

○ 村で暮らしたくない理由としては、「希望する進学先に西栗倉村では通えない」が6割弱と最も多く、次いで「買い物などの日常生活の不便」が5割となっています。



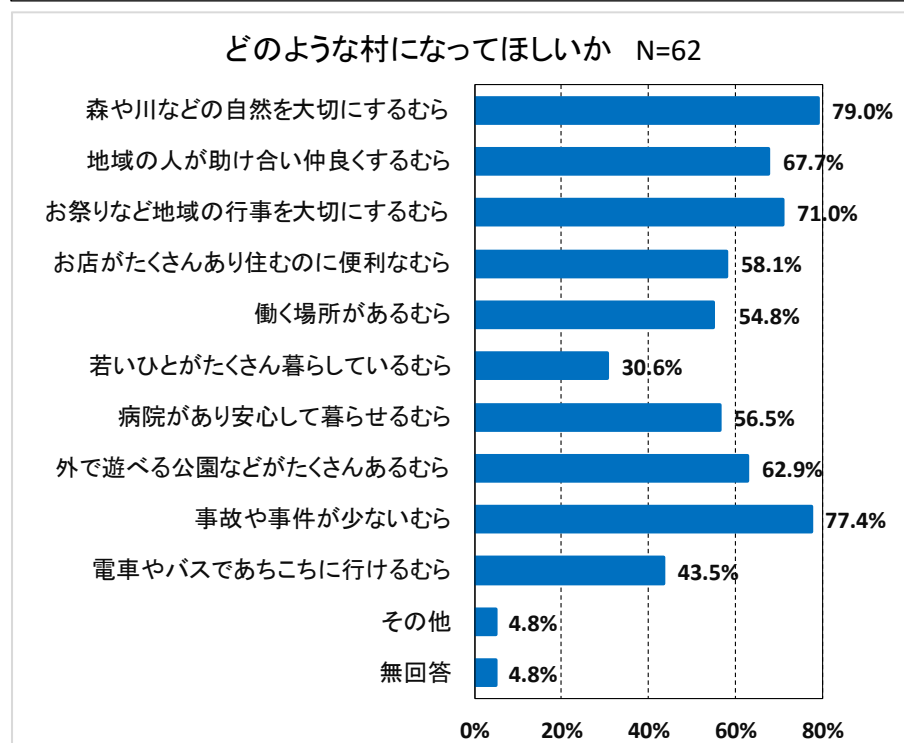
	回答数	割合
買い物などの日常生活が不便	7	50.0%
希望する進学先に西栗倉村では通えない	8	57.1%
西栗倉村に人が少なくなって寂しい	3	21.4%
近所づきあいや地区での活動が煩わしい	2	14.3%
冬の大雪に対する不安が大きい	1	7.1%
病院や福祉施設が遠い	4	28.6%
その他	2	14.3%
無回答	3	21.4%
合計	30	214.3%

<その他の記述回答>

- ・ 将来のために
- ・ 暇で遊ぶ場所が少ない

⑥ どのような村になってほしいですか。あなたの考えにあてはまるすべての番号に○を付けてください。

- 「森や川などの自然を大切にするむら」が8割と最も多く、次いで「事故や事件が少ないむら」、「お祭りなど地域の行事を大切にするむら」、「地域の人が助け合い仲良くするむら」となっています。
- 過去のアンケート結果と比較すると、「地域行事を大切にする」の割合が2割以上増加しています。村内の自然を大切にするは8割弱と過去のアンケート同様に高くなっています。



	回答数	割合
森や川などの自然を大切にするむら	49	79.0%
地域の人が助け合い仲良くするむら	42	67.7%
お祭りなど地域の行事を大切にするむら	44	71.0%
お店がたくさんあり住むのに便利なむら	36	58.1%
働く場所があるむら	34	54.8%
若いひとがたくさん暮らしているむら	19	30.6%
病院があり安心して暮らせるむら	35	56.5%
外で遊べる公園などがたくさんあるむら	39	62.9%
事故や事件が少ないむら	48	77.4%
電車やバスであちこちに行けるむら	27	43.5%
その他	3	4.8%
無回答	3	4.8%
合計	379	611.3%

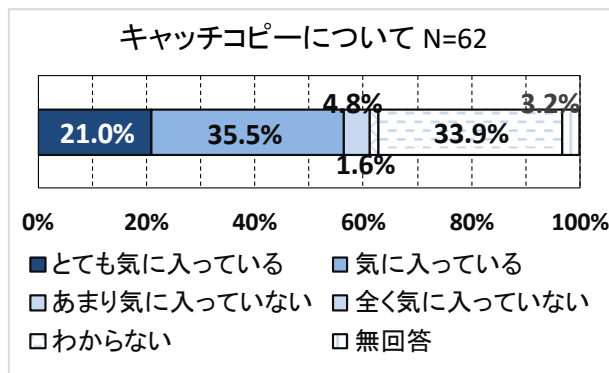
<その他の記述回答>

- ・ みんなが優しく安全な村
- ・ 飲食店がある村
- ・ いろいろなことに挑戦しようと思える、挑戦できる村

⑦ 西栗倉村では、2030 年に向かって「生きるを楽しむ」をキャッチコピーに、一人ひとりの人生に注目した取組を進めています。このキャッチコピーについて、あなたはどのように思いますか（1 つに○）。

○ 『気に入っている』（「とても気に入っている」と「気に入っている」の合計）は 6 割弱と半数を超えている。一方で、「わからない」が 3 割強となっている。

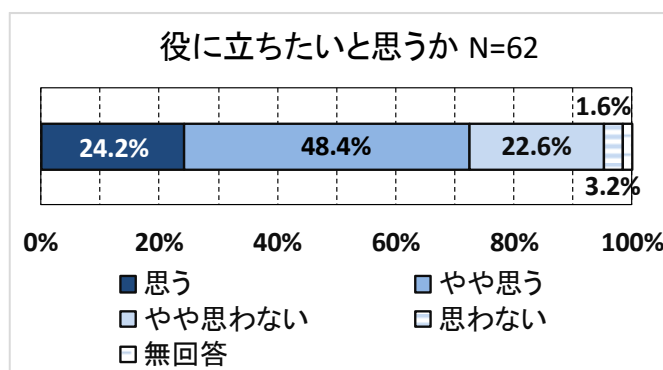
	回答数	割合
とても気に入っている	13	21.0%
気に入っている	22	35.5%
あまり気に入っていない	3	4.8%
全く気に入っていない	1	1.6%
わからない	21	33.9%
無回答	2	3.2%
合計	62	100.0%



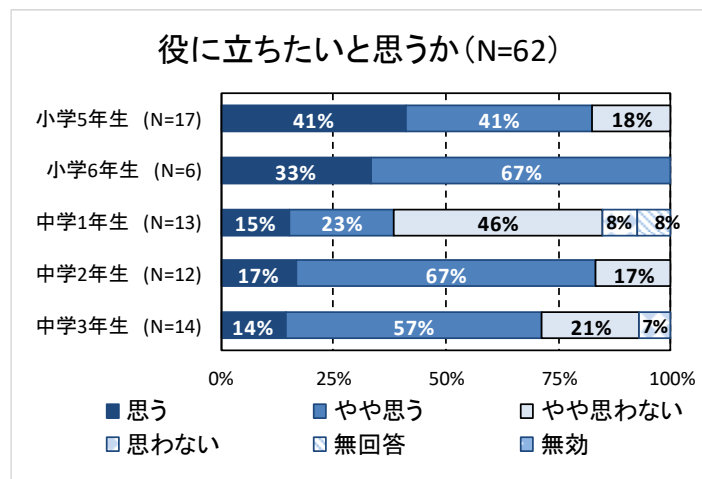
⑧ 将来、西栗倉村の役に立ちたいと思いますか（1 つに○）。

○ 役に立ちたいと『思う』（「思う」と「やや思う」の合計）は 7 割強となっている。
○ 学年別でみると、中学 1 年生で低くなっているものの、それ以外の学年では『思う』が 8 割を超えている。

	回答数	割合
思う	15	24.2%
やや思う	30	48.4%
やや思わない	14	22.6%
思わない	2	3.2%
無回答	1	1.6%
合計	62	100.0%



< 学年別 >



問 7 最後に、あなたが思うワクワクする村の姿についてお聞きします。

あなたの目に浮かぶ、10 年後の未来の村の姿(暮らしや仕事、環境(森林、農業、交通、子育て等)など)について自由に書いてください。また、10 年後の村で、どんな自分になっていたいですか。

- ・ (村の) みんなの笑顔と笑い声が響く、楽しい村。優しい気のおいに包まれた明るい村
- ・ 環境が良くなっていて、今の光景が「なつかしい」と思えるような感じであまり変わってほしくない。私は今の西栗倉村が好きだし今のこの教室の窓から見える風景が好きです。
- ・ オオサンショウウオなどがまだ残っている村、原生林が残っている村
- ・ 仕事をしたい
- ・ 豊かな森林があって、水がきれいでいろんな人がいてほしい。自分も森に関わっていききたいです。
- ・ たてものがたくさんあってやりたいことができる村
- ・ 緑豊かでいろいろな人がいて、明るく楽しい村、有名な村、色々な人が知っている村
- ・ 人が増えてほしい
- ・ 誰もが安全に暮らせるようになっている村
- ・ 行事を大切にする村、人がたくさんいる
- ・ みんなが安心できる村
- ・ 誰もが今よりもっと心優しい村になってほしい。自分にはいろいろな人と協力する
- ・ 将来の自分は村にいないと思う
- ・ もっと人が増えて川や森があって、店が大きくなっている。
- ・ 人口があと少し増えてほしい
- ・ コンビニやスーパーを建ててほしい
- ・ 人口が今よりも増えてお店や公園などがたくさんある村。もっと川や森で遊べる村。自然を大人になっても大切にしたい。
- ・ お母さんと一緒に赤ちゃんが好きなので、保育園の先生になりたい。木でできたとてもいい保育園ができたからもっと自然があってかわらないでほしい
- ・ 今と同じで森林や自然をみんなが大切に思っていてほしい。地域の人役に立ちたい。
- ・ 西栗倉村にもっと住む人が増えてもっと明るい村になってほしい。村の役に立てるような自分
- ・ お年寄りも子供も楽しく遊べる触れ合える木のジャングル
- ・ ちょっと都会になっている
- ・ 図書館のように村の木を活かした建物を作る
- ・ みんなが安心できる村仲良くできて怒られないところ
- ・ 木を使った建物が増えている
- ・ 誰もが西栗倉を愛することができる村。西栗倉に住みたいと言ってくれるようなことをしていきたい
- ・ 変わらず豊かな森林、おいしい空気のままでいてほしい
- ・ 地域の人、ほかの地域の人が住みやすい、旅行しやすい、快適な村。将来についた仕事で少しでも村の役に立てるようになりたい。
- ・ 村のみんなが仲がいい
- ・ 誰もが助け合いができる村、10 年後ガードマンをしたい

- ・ みんなで助け合っている村、誰に対しても優しい村
- ・ 誰もがふつうにあいさつ、助け合いができるようになっている村
- ・ 10年後はお店もたくさん立っていて、子供の数も増えて自然豊かな村
- ・ 変わりなく自然豊かな村
- ・ 誰もが電車で通勤できる村
- ・ 誰もが親切で上手にかかわりあうようになっている村
- ・ 今の環境で満足しているのではないです。
- ・ 今と同じ、森林いっぱい村であってほしい
- ・ 誰もが安心安全で住みやすい村、10年後の村でなんでも手伝える人
- ・ 日本一暮らしやすい村
- ・ 変わりなく自然豊かな村
- ・ 誰もが安心して暮らせる村、人生で楽しいことをたくさん見つけられる村。年の差があったあその人に手を差し伸べ助け合うことができる村
- ・ 大きなお店ができて遠くまで買い物に行かなくていい村
- ・ 自然に大切に扱われている村
- ・ ゆったりとした空気が流れる村
- ・ 文化を大切にする
- ・ 自然豊かはこの先ずっと続いてほしい
- ・ 誰もが安心、安全に暮らせる村、何か買うところが欲しい、(コンビニなど)、遊ぶところが欲しい
- ・ I ターンの人が多い村
- ・ 自然豊か。暮らしに便利、自由な買い物
- ・ 仕事(誰もが)
- ・ 仕事
- ・ 誰もが立ち寄れる場所がある村、緑あふれる村
- ・ コンビニかショッピングモールを作ってほしい。

問 8 その他、意見やあなたの考えがあれば、自由に書いてください。

- ・ 年に一回、家庭に一枚「今の生活はどうですか？」みたいな質問、回答用紙を作って配ってほしい。
- ・ 10年後になっても今と似た風景が見たいです。でもいろいろな人が住みやすい空間になってほしい。
- ・ お店が増えてほしい
- ・ 人口がもっと増えたら高校なども建ててほしいです。もっとスポーツに力を入れてほしいです。野球、サッカー、バドミントン、バスケットボールなど。

- ・ 村を元気にする取り組みで西栗倉の木を使っておもちゃを作ることになったから今から10年後も小さい子供たちに喜んでもらいたい。自分たちの考えたおもちゃで生き続けて欲しい。「生きるを楽しむ」と共に！
- ・ いろいろなものが買えたりして便利な村にしてほしいけど、森やきれいな川はちゃんと残してほしいです。自転車とかがかこれるようになってほしい。
- ・ 住宅でも犬や猫などペットが飼えるようになってほしい。小さな水族館を作ってほしい。
- ・ 西栗倉をもっと元気にするためには村に住んでいる人、一人一人が笑顔になって観光客がもっと増えると思う。
- ・ 村にコンビニが欲しい
- ・ ごみ箱を設置してほしい
- ・ 近くで買い物
- ・ 村がやることではないと思うけど、コンビニが欲しい
- ・ せめてコンビニが欲しい